2008 3



Architecture and Society
建築と社会

特集/東海支部会員作品2008+東海支部特集3部作

日本建築協会

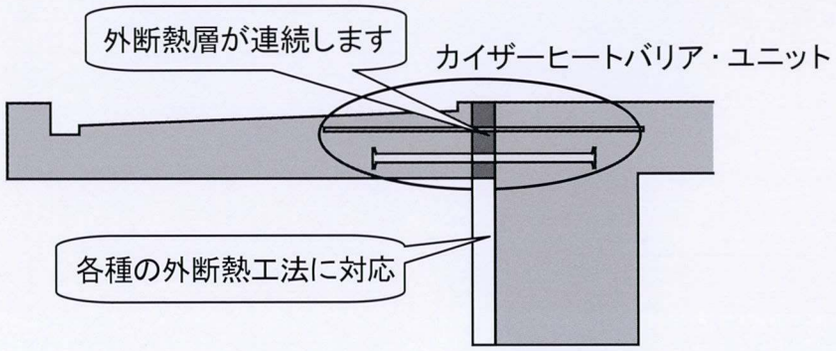
KAISER

http://www.nihon-kaiser.co.jp

外断熱の「こだわり」を大切にしました

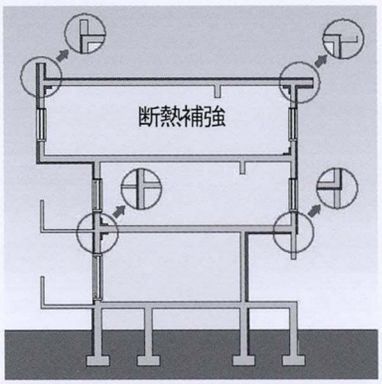
カイザーヒートバリア

バルコニーからの「ヒートブリッジ」を合理的に解決

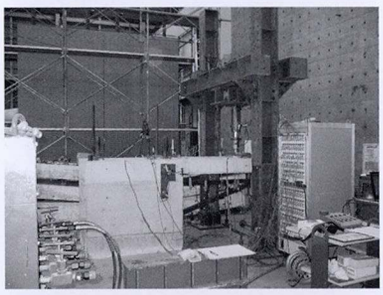


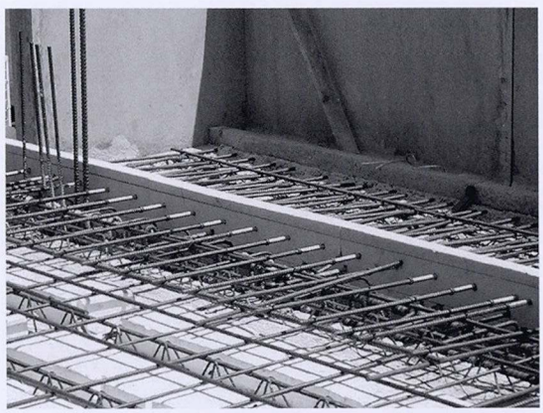
＜カイザーヒートバリアの特徴＞

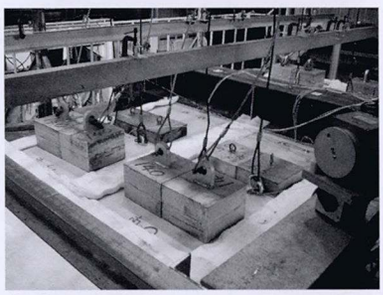
◇不可能とされてきた構造熱橋を解決
◇躯体施工時にヒートブリッジ対策完了
◇各種の外断熱工法と組合せが可能
◇優れた構造性能、耐火性能（60 分耐火、120 分耐火相当）を実験で確認
◇建物躯体の熱膨張・収縮による経年劣化を低減
◇高耐久材料（ステンレス、無機系断熱材）の使用で外断熱建物の長寿命化に対応
◇シンプルなディテールで複雑な梁配筋でも施工可能



外断熱建物の構造熱橋イメージ図


実大構造実験（曲げ実験）


カイザーヒートバリア施工
（ハーフＰＣａバルコニーでの使用事例）


載荷耐火実験（財）建材試験センター

日本カイザー株式会社

本　社 〒150-0011 東京都渋谷区東3-15-7（恵比寿MTビル） TEL.03（3498）0650 FAX.03（3498）0613
関西営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-1-14（高麗橋山本ビル2階） TEL.06（6203）2401 FAX.06（6203）2402

会告

平成19年度 第2回通常総会開催

平成19年度第２回通常総会を右記のとおり開催いたしますので、ご出席頂きますようお願いします。

と　き　平成20年 3 月26日（水）
午後4時から4時40分

ところ　大阪マーチャンダイズ・マートビル
地下１階ギャラリー
大阪市中央区大手前1-7-31

議　案　・第１号議案
平成20年度事業計画（案）の件
・第２号議案
平成20年度収支予算（案）の件

なお、開催通知は個人正会員、団体正会員あて別途送付いたしております。
ご欠席の場合は『返信用ハガキ』にて必ず委任状の送付をお願いします。
お問い合わせ先：（社）日本建築協会　総務課　06-6946-6981

「日本建築協会 80年史1917-1996」 残部あります!

「草創期の人々」より



㈳日本建築協会創立80周年記念事業として取り組み、1999年７月に刊行した「日本建築協会80年史1917-1996」は、その後増刷して日本各地の図書館、研究機関、そして本会会員の皆さまからのご注文に応じて販売しております。大正６年３月30日に関西建築協会として発足以来80年の本会の歴史をA4判・240頁にまとめたこの記念誌は、本会設立者の片岡安、武田五一らと当時の大阪市長・関　一との交流を物語り、東京の建築界に対峙する関西の建築人物誌ともなっています。
購入ご希望の方は、下記へお申し込み下さい。定価3000円（送料込み）

申込先　社団法人 日本建築協会
TEL 06-6946-6981
FAX 06-6946-6984
e-mail：soumu@aaj.or.jp

「日本建築協会80年史1917-1996」

●日本建築協会の遺産と功績
（坂本勝比古）
●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者 etc.
●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　靜雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）
●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の６氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由
■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二

今年は9月号掲載で、応募締め切りが6月下旬となります!

若き創造者たちへ

「建築と社会」平成20年9月号
「第55回青年技術者特集号」へのおさそい

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年技術者特集号」を企画し、すでに54回にわたって若き優秀なプランナー、アーキテクト、エンジニアをめざす人たちを紹介してきました。

今回も、青年技術者選考委員会を設けて、青年技術者を選考いたしますが、昨今の建築に携わる技術者の多様化を考慮し、設計だけに限らず、計画、構造、設備、施工およびその他広く、建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を募って、その不断の研究努力とすぐれた実績への情熱などを、「建築と社会」に掲載し、顕彰することにしております。

55回の企画にあたり、日常目立たない対象の実績も含めて、優秀な実績を積まれている青年技術者のみなさまのご応募をお待ちしております。

応募提出規定

1．応募される人は満35歳（平成20年７月31日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。

2．原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募する。

すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3．応募分野は特定しない。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等々その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を1部、本会に期日までに提出する。

4．提出された資料は「青年技術者選考委員会」にかけて選考する。（なお、提出資料は特に指示のない限り返却はいたしません）

5．「青年技術者選考委員会」において選考された青年技術者は「第55回青年技術者特集号」（平成20年９月号）に掲載するとともに、表彰式を行い、記念品を贈呈する。

6．提出資料

■すいせん用紙

請求は、すいせん依頼先担当部署、または本会事務局へ。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

資料は、④を含めて**A3判用紙5枚以内にまとめる。**

① 設計の場合――鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）――上に準じた資料

③ 上記以外の分野の場合――それぞれの分野にふさわしい資料

④ 上記①～③のいずれかの資料の実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、資料中、**本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、2000字以内に平易簡明にまとめたもの**（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者本人の執筆に限る。**このコンセプトは、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えているので、十分配慮されたい。**

7．**提出期限**　平成**20**年**6**月**30**日（月）

8．**提出先**　日本建築協会「青年技術者選考委員会」
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
電話 06-6946-6981　FAX. 06-6946-6984
Email：ken-sha@aaj.or.jp

9．**青年技術者選考委員会**（平成20年度）

委員長　設楽　貞樹／安井建築設計事務所常務取締役
委　員　木多　道宏／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻准教授
瀬戸本　淳／瀬戸本淳建築研究室代表取締役
松村　孝治／東畑建築事務所取締役開発本部長
長谷川隆一／竹中工務店プロジェクト開発推進本部(西日本)本部長
西山　峰広／京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻准教授
黒木　安男／鴻池組東京本店副本店長
伊藤　昌明／日建設計設備設計部門設計長
井村　隆／清水建設関西事業本部設計第四部グループ長
池田　孝夫／大成建設関西支店建築部品質管理室長
釼吉　敬／大林組本店建築生産技術部長

平成18年度から、青年技術者の公募は早めています。第55回青年技術者は、本年6月30日(月)までに応募できるよう準備をお願いします。

建築と社会

Architecture and Society

2008
No.1032
日本建築協会
3

■特集予告
4月号／まちづくり2011年宣言
5月号／新・ホテル物語〜ホスピタリティ空間としてのホテル〜

編集委員会（平成19年度）
■副会長
井上　豊
中井　進
■編集担当理事
上原　正行
岡田　聿之
木戸　徹
佐藤　栄一
佐藤友美子
◎設楽　貴樹
竹中　統一
立成　良三
吉村　英祐
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
飯田　匡
鈴木　克彦
田中　直人
辻　武之
藤原　光博
紅谷　昇平
松田奈緒子
△三宅　次郎
守井　辰
吉村　英祐
★建築計画系
安部　新二
荒木　宏之
江副　敏史
奥村　朋孝
菅野　忠司
神戸　嘉也
木多　彩子
△楠　敦士
小林　優子
所　千夏
野田　隆史
桃杷　健一
松森　織江
★インテリア・住宅系
阿部　泰浩
加藤　力
神谷　浩司
黒柳　亮
髙野　直樹
△田中　浩介
戸井賢一郎
ペリー史子
本山　仁
■構造分科会
秋田　智
岸本　光平
瀧野　敦夫
鶴田　潤
中塚　光一
難波　尚
△房安　智也
松村　健
向井　洋一
矢野　勇二
安野　郷
■設備分科会
△赤澤　正治
石井　勝秋
梶井　宏修
河井　康人
近藤　国夫
谷野　太志
夏井　重行
福谷　周
桝井　貴廣
村上幸三郎
山下　修
■施工材料分科会
桜井　和男
平田　茂良
藤丸　啓一
松元　秀樹
△山岡　篤人
吉田　正友
■法令分科会
赤井　英稔
伊賀　誠
△片岡　正和
金本　忠義
谷本　和子
中迫　悟志
文山　達昭
■作品作風小委員会
石塚なぎさ
居内　章夫
○井上　雅祐
稲垣　和江
池上　明
岩佐　進
加嶋　章博
倉渕奈千子
澤田　純一
戸川　勝之
鞆野　淳司
豊田　充広
西田　佳代
芳谷　晴彦
増田　敬彦
山田　俊紀
■広告企画小委員会
荒本　俊明
池田　孝夫
今井　成年
○虎谷　伸幸
○前田　衛
南澤　浩司
森川　幸信
■10年委員会
赤木　隆
川上比奈子
中村　文紀
○前川　治彦
◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2008年2月25日
発　行　2008年3月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　㈱NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

Journal of the Arghitectural Association of Japan

特集　東海支部会員作品2008＋東海支部特集3部作

■東海支部会員作品
土岐市立泉小学校 — 12
四日市南警察署 — 14
長久手青少年児童センター／色金保育園 — 16
東海労働金庫　豊橋支店 — 18
知多信用金庫河和支店 — 20
IMV名古屋テストラボ — 22
中部原材料本社オフィス・物流センター — 24
岐阜シティ・タワー43 — 26
■街道・宿場町シリーズ
郡上街道を歩く●丸山幸太郎 — 29
うだつが残る町並み●篠田克志 — 30
和紙と町屋、あかりの祭典、美濃の活性化●堀部　勉 — 32
刃物のまち・関●後藤敦司 — 34
郡上八幡水の町家の城下町―まちづくりのあゆみ―●齊藤知恵子 — 36
■東海の建築事例紹介：プレキャスト
鈴鹿市立旭が丘小学校●若林　亮 — 42
プロロジスパーク セントレア●今宮実三郎・後藤泰雄 — 44
■東海支部会員が語る
座談会「21世紀委員会の活動と人にやさしいまちづくり」
●星野広美・21世紀委員会 — 46

会告　平成19年度第2回通常総会開催.「日本建築協会80年史1917-1996」残部あります!. 若き創造者たちへ―「第55回青年技術者特集号」へのおさそい― 1
作品作風　プール学院中学校・高等学校 4
東英産業株式会社本社ラボ 6
研究の風景　飯野秋成研究室（新潟工科大学工学部建築学科） 8
gallery　空間と口ゴ（西尾ひとみ）●鞆野淳司 10
法令コーナー　大阪府住宅リフォームマイスター制度●寺浦謙三 51
構造の頁　阪神甲子園球場リニューアルの構造計画概要●榎本浩之 52
新建材の頁　ガイナ（GAINA）●菅　知史 53
REPORT　大阪を中心とした郷土建築座談会●谷　直樹・長山雅一・橋爪節也・肥田晧三・酒井一光 54
information　新世代オフィス研究センター、活動を開始.「第10回国土技術開発賞」実施. 大阪府公共建築設計コンクール・表彰式と手塚貴晴講演会. 毛利　衛「未来を語ろう―建築・地球そして宇宙」.「乾山の芸術と光琳」展. マリー・ローランサン展. 松柏美術館花鳥画―公募展―. ヴォーリズ展は3月30日まで.「クモの網」展. 紫禁城写真展. 15年のル・コルビュジエへの眼差し―ギャルリー・タイセイ―. 国際コンペティション「名古屋デザインDO! 2008」.「大阪市ハウジングデザイン賞」受賞住宅決定. 第27回大阪都市景観建築賞受賞作 56
図書紹介　「環境共生木造住宅設計ガイドブック」●夏井重行 58
月間の動き　平成20年1月分 59
委員会の横顔　出版委員会の記●山田　修 59

表紙　デザイン　花城 辰男（時空アート）
本文　デザイン　高橋 善丸



作品風

設計・監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店

プール学院中学校・高等学校



■環境教育教材としての校舎

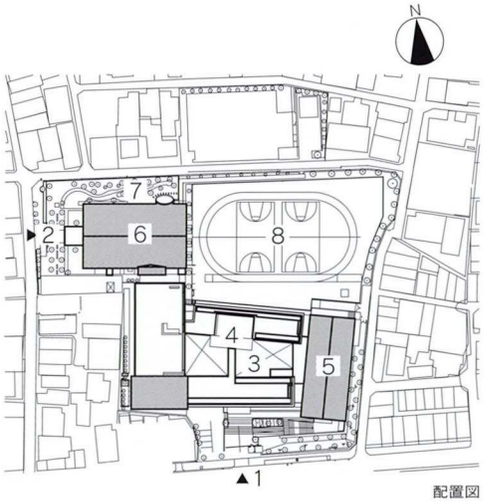
120年の歴史を持つ女子校の建替である。この計画では教育効果に重点をおいて環境技術を採用し、校舎を教材として環境について学ぶ機会を創出した。ビオトープでは授業やクラブ活動で利用することにより自然を楽しみながら植物や動物について学べる。ビオトープから流れ出るせせらぎが校舎を横断し日常動線と一体化することにより、せせらぎの音や光のゆらぎ、風のそよぎなど五感を通じて自然の恵みを体感する場としている。

■記憶の継承

外観は旧校舎のヴォーリズ建築を考慮し、その特徴であるスパニッシュ様式を踏まえながら現代にふさわしい新しい佇まいとした。また学院の精神的中心であるチャペルではバラ窓や照明器具、手摺等の再生利用も積極的に行ない、全体の雰囲気から細部に至るまで、過去の記憶が現在・未来へと連続する表現としている。

（竹中工務店/増田俊哉、鍋谷めぐみ、高橋裕美）

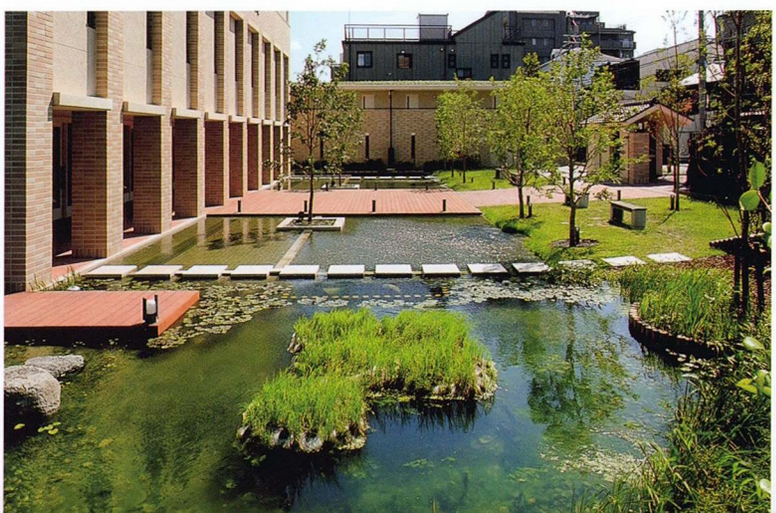




配置図

1. 正門
2. 西門
3. 中庭
4. 本館
5. チャペル
6. トリストラム
7. ビオトープ
8. グラウンド

所 在 地 ――大阪市生野区勝山北１丁目
敷地面積 ――12,638.98㎡
建築面積 ――　4,909.75㎡
延床面積 ――18,169.99㎡
構造規模 ――RC造 一部S造　5F　B1F
工　　期 ――2005年７月～2007年７月
最 寄 駅 ――JR環状線　桃谷駅
撮　　影 ――松村芳治、古川泰造








TOEI

作品
作風

建築主■
東英産業

設計・監理■
安井建築設計事務所

施工■
鴻池組

東英産業株式会社本社ラボ

東英産業は電子写真用ブラシのリーディングカンパニーとして国内のみならず海外にも大きなシェアをもつ企業である。同社の本社機能と研究開発・生産部門をもつ新拠点として建設された。

敷地は、京都府精華町の学研都市内に位置する。東にけいはんな記念公園の緑を望み、南は郊外型ショッピングセンターのバックヤードに面するという方位により周辺環境の大きく異なる敷地条件である。

メインアプローチとなる南側に対しては、企業カラーである濃紺色の壁面が浮いた構成とし、ショッピングセンターに対して適度に閉じつつ印象的なファサードとなるよう計画した。一方、東側に対しては、公園の緑を最大限享受できるよう事務室に隣接して大きなテラスを配置した。テラスに設置したルーバー状の庇により建物を分節化し、まちなみに軽快感を与えている。

また、内部はガラススクリーンやトップライトにより、明るく視線の通る計画とし、部門間でのコミュニケーションの活性化を期待している。

（松本猛・川井茂輝・今井裕平／安井建築設計事務所）







所 在 地 ――京都府相楽郡精華町精華台九丁目
敷地面積 ――7446.19㎡
建築面積 ――3035.98㎡
延床面積 ――5980.98㎡
構造規模 ――S造　3F
工　　期 ――2007年1月～2007年6月
撮　　影 ――八幡輝幸（伸和）



研究の風景

新潟工科大学
工学部建築学科

飯野秋成研究室

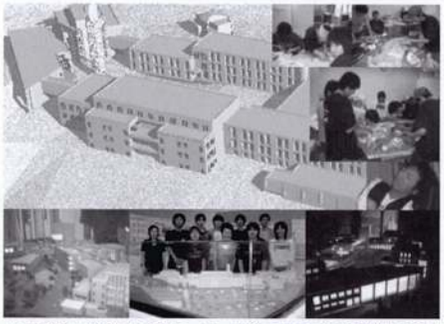
■はじめに

柏崎は、原発や地震被害等々、何かと話題の尽きない町ですが、海水浴のメッカとして有名で、米山も大変美しい。エネルギーに関する先端的な情報発信も進められています。そんな柏崎に新潟工科大学が開学してから今年10年目を迎えました。学生数は全学で1000人程度のコンパクトな大学で、工学部4学科、修士課程2専攻、博士課程1専攻という構成です。最近は、蓮池薫先生が朝鮮語を講義されているということで一躍大学の名前が知られるようになりました。

実際、大学の周りには何もないので学生たちは大学に来るしかない。私も仕事をするしかない。柏崎は勉強するにはとても良い環境です（笑）。そんな大学の１研究室をご紹介します。

■本学建築学科の学生たちの大学生活

今年度前期、私は学生向けに「住宅設計コンペティション」を主催しました。私の知り合いのご夫妻が実際に所有されている土地と建物の要求条件をもとに、本学の建築学生たちからプランを求め、公開展示会を開催したのです。しかも「CADはダメ」というイマドキの強烈なシバリでアナログな絵心を追求させたのですが、100を超える鉛筆やペン描きの応募作品が集まり、ギャラリーからの投票を受け付けて入賞作品を決めました。最優秀賞は建築2年の作品で、鉛筆1本で仕上げたプロ並みのプレゼンでした。ちなみに、私もペン画作品を参考出品しましたが、学生たちには負けていませんよ。うまいもんですv(^^)　本稿をご覧の皆様、新築住宅をお考えなら本学学生のアイディアを募るのはいかがですか。建築学科学生一同、是非とも協力させていただきます！



♪本学は北棟と南棟、およびこれらを連結する図書館，食堂などから構成され、雪の日でも全館周回できるように造られています。左上は学内環境の調査研究用に作った研究室OBによるCG作品、下は今年度研究室メンバーによる大学の1/200模型です。ライトアップもできるプロ並みの仕上がり！学内に常設展示されています。

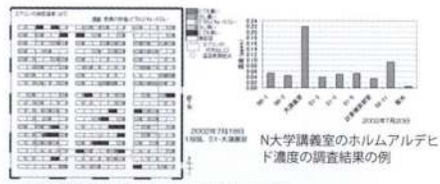
このように新しい設計コンペの案内が学科に届くたびに、学年を問わず建築の学生たちはインスピレーションを得たテーマに想いを膨らませ、積極的にアタックしています。学外コンペの入賞作品の数もだいぶ増えてきました。このように学生たちは建築設計のバトルを楽しみながら勉強を続け、3年後期になると研究室に所属して学生それぞれがテーマ探しを始めます。卒業研究では「研究論文」か「設計制作（ディプロマ）」のいずれかのコースを選択します。現在在籍する卒研生は第10期生です。

■研究活動

私の研究室のメンバーはこれまで、学部・修士・博士の学生が毎年コンスタントに在籍していましたが、今年はM2が3名、卒研生8名という構成です。8名のうち6名はディプロマコースを希望し、既にいくつかの学外コンペに応募するなど、積極的に設計活動を行っています。

研究室活動のキーワードは２つ。「環境を解きほぐす」、そして「環境をデザインする」です。研究論文コースの学生たちとの研究成果としては、まずシンチロメータや赤外線放射カメラなどを用いた都市熱環境の実態把握のための計測技術の開発を行ってきました。既に関連するいくつかの論文は学会誌に発表しています。その他、建築環境工学の関連では、小学校・大学の教室や老人ホームなどを対象とした熱・空気環境の実測調査、あるいは鉄道駅ホーム上の熱環境調査など、行政や企業などとの共同研究を数多く手がけてきており、主に日本建築学会や日本リモートセンシング学会などに成果を発表しています。最近では熱や風に関する数値解析にも力を入れており、理論に裏打ちされた形での環境デザインに結びつけようと努力を続けているところです。

そして、ディプロマコースの学生たちとは国際コンペなど比較的ハイレベルなコンペに取り組んでいます。あまり目的のはっきりしない調査旅行に学生たちと出かけ、知らない土地で夜通しムダ話をしながらも、思わぬところでいいアイディアが出てくるところなどは設計活動の醍醐味。ちなみに、衛星や航空機のリモセン画像は実は都市設計などのプレゼンにはもってこいの



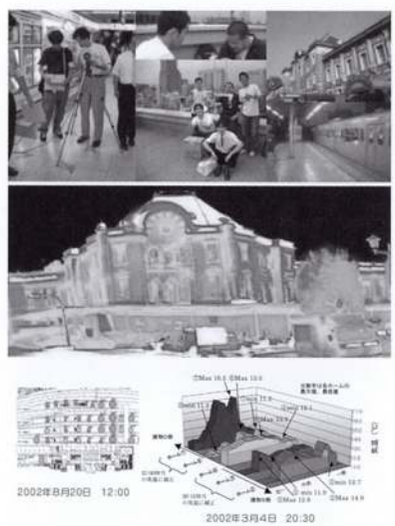
N大学講義室のホルムアルデヒド濃度の調査結果の例

N大学講義室の温冷感アンケート調査結果の例



S小学校の普通教室の熱画像

♪夏休み前の大学。教員が汗だくで一生懸命熱く語っているのに、学生は寒そうにしながら半分眠っている。その原因を当研究室が徹底調査！原因は「教員の授業がつまらないから」ではなく、実際学生側の室温が教員側より5℃も低かったからなのです！冷房も効率的に運転しないとエネルギーのムダ使いになる好例。一方で小学校には冷房がない。お子たちは我慢強い！



♪鉄道駅の熱環境・風環境調査は、当研究室とJR東日本との共同研究プロジェクトです。TK駅では、在来線ホームより新幹線ホームの方が数℃も気温が高いのです。何故でしょう・・・？

素材なんです！フィジカルミーニングのきわめて乏しい奇怪な（？）画像処理アルゴリズムを施してハデな画像に作り変え、CGで作り込んだ設計図面のバックに入れ込んだりすると、とても作品が引き立つことも…画像解析ご専門の方からは「画像の使い方が邪道！」と怒られそうですが…

■本学福利棟を基本構想

本学の新たな顔となる「福利厚生棟」が、今年度の春に竣工予定です。この建物はなんと私の研究室の修士2年の学生によってデザインされたもので、学生コンペで最優秀賞を勝ち取りました。学生コンペにご理解をいただいた関係各位にあらためて感謝申し上げます。

中庭を取り囲む全面ガラスばり吹抜空間のレストラン、そして2階には学生たちが自由な創作活動を行うためのスタジオを配し、本学ならではのにぎやかで活動的な様子を地域にアピールできる空間が提案されています。南向き全面ガラスばりのアトリウムという、室内環境の制御にはやや困難を伴う空間提案です。さあ、設計した学生には責任を取ってもらうべく（笑）、建物の熱負荷に関する数値解析を実施してもらうこととしました（右図）。

南向きガラス面全面の日射入射を効果的にカットできると考えられる手法としてLow-Eガラス、遮熱フィルム、そしてルーバーに注目し、それぞれを用いた場合の夏季室温の日変動を算出したものです。ルーバーを用いるだけでも十分日射遮蔽の効果があるといえそうですが、デザインの工夫も求められます。費用対効果でどのあたりを落としどころにするのかについては総合的な判断が求められますが、このような定量的に裏付けられた資料は説得力を持つものとなります。

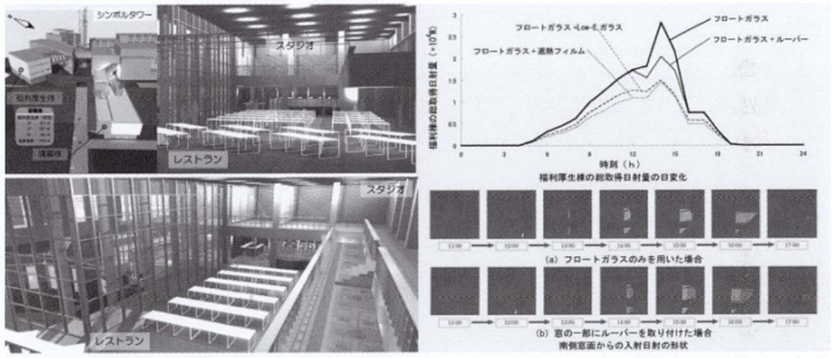
彼は、この福利厚生棟の設計計画理念と室内環境解析の内容で、今年度の修士論文を立派に書き上げました。

■日々，授業と格闘・・・

私は卒研生と研究を進めるほか、学部の設計製図、CAD、環境工学などの教鞭をとっています（何と私は毎日が1限から授業！）。学生たちは皆素直で、こんなことをやりたい、と内に秘めて入学してくる学生がとても多い。つまり、学生たちのモチベーションが上がるシカケを用意しておけば自然に食いつきが良くなるわけですが、そうは言っても、私が担当している建築2年の設計製図は月曜の朝一番から。どうやって70名近くの学生に遅刻させずに製図室に来させるか？ある秘策を実行しましたら、ほとんどの学生が開始時間前に来るようになりました。さて、私は何をしたのでしょうか？（大したことしてませんが）。

さて、当研究室のHPを開設しました（下記URL）。ここにご案内しておりますとおり、当研究室では皆様の新築住宅のお手伝いができます（本当か？）。そして、出来上がった住宅の熱・空気環境のサーモグラフィ調査もお任せください。調査結果はしっかり学会発表のネタにさせていただきます！

（文責：飯野秋成）



♪本学の「福利厚生棟」がついにこの春オープン！私の研究室の修士学生が、デザインから室内環境解析までを手がけました。その成果は彼の修士論文に。



http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/index.htm

まち　建築　ひと

gallery

空間とロゴ

ヴィジュアルデザイン
西尾　ひとみ



「香櫨館（こうろかん）」は、阪神電車の香櫨園駅の高架下に建設された複合商業施設。女性をターゲットに“美・健康・アンチエイジング”の3つのテーマをもち、3棟で構成されています。

ネーミングの「香櫨館」は、「香櫨園」に由来。「香櫨園」は、明治40年（1907）に開設された遊園地の名称であり、同年に開業した駅名でもあります。オープン時の2007年はちょうど100年を迎えた節目のとき。今日まで「香櫨園」の名で愛されてきたという歴史の重みを尊重しつつ、自分磨きの「館」というコンセプトを取り入れ、「園」から「館」へと言葉を組み替え、ネーミングにしました。

ロゴマークは、駅舎の屋根のデザインと3つのテーマBeauty・Health・Anti-agingをオレンジ・黄緑・水色の3色のラインで表現。また、施設の利用ターゲット像が、“品のある大人の女性”を想定しているので、ロゴにもその考えを反映。漢字を用いて知的さを、やわらかな書体で女性らしさを表し、施設全体の雰囲気に結びつけるロゴデザインを考えました。

撮影/ナカサアンドパートナーズ

Beauty・Health・Antiaging
KOROKAN
香櫨館



西尾　ひとみ

1976　大阪府生まれ
1997　現）大阪芸術大学短期大学部卒業後、商業施設等のインテリア及びグラフィックデザイン制作会社勤務
2003　有限会社アンダ設立

http://www.anda.jp

企画編集　鞆野淳司（作品作風小委員会）

東海支部会員作品2008

土岐市立泉小学校

四日市南警察署

長久手青少年児童センター／色金保育園

東海労働金庫　豊橋支店

知多信用金庫河和支店

IMV名古屋テストラボ

中部原材料本社オフィス・物流センター

岐阜シティ・タワー43

東海支部「建築と社会」特別編集委員会
委員長：佐伯　博
特集記事担当　　委員：松本壮一郎、中村嘉男
作品作風担当副委員長：土井敬三　　同担当委員：伊藤武夫
デザイン広告担当委員：若林　亮
委員：寺本英一、黒田清宏、鈴木慶智、今津芳清、尾崎武寛、篠原佳則、福田泰造、後藤利秋、仙田　篤、中村哲士、松元親司、山本敦子、芳山明久、北川貴啓、杉澤和男、齋藤　護、冨田昌志、別所裕之、水川善雄、森田富士男、加藤武範、今井祥子、河田克博

土岐市立泉小学校



南面全景※1　緩やかな傾斜地を利用して建物を雛壇状に展開することで豊かな空間が形成される





施工ワークショップの様子※2



東面外観　地域との接点につくられた地域学校連携施設と陶芸室が並ぶ

建 築 主　土岐市
設計監理　東畑建築事務所
施　　工　（建築）村本・舘林共同企業体
　　（電気）大島・奥村共同企業体
　　（機械）シブヤ・東海共同企業体

所 在 地 ――岐阜県土岐市泉中窯町1-5
敷地面積 ――29,264.06㎡
建築面積 ――　9,054.60㎡
延床面積 ――10,854.10㎡
構造規模 ――RC造・S造・3F・PHF1F
工　　期 ――2004年６月～2006年３月
最 寄 駅 ――JR東海中央線 土岐市駅
撮　　影 ――SS名古屋（相羽光徳）
　　※１　ワシオカラー
　　※２　東畑建築事務所

岐阜県土岐市は日本有数の焼き物の町である。その歴史は古く1300有余年、今でも焼き物が街の基盤産業となり周辺も含めた一大窯業圏をつくりあげている。
明治６年に開校した歴史ある泉小学校は、街の中心部、緩やかな丘陵地に位置し、西側に隣接する白山神社と閑静な住宅街に囲まれている。
屋内運動場を残し全面改築となったプロジェクトは、余剰教室の転用利用や２ヵ年継続事業を活用し、半分ずつ校舎を建設することで、仮設教室をつくることなく、グラウンドも確保しながらの建て替えを実施した。
子供たちが一日の大半を過ごす小学校は単に教科学習の場だけではなく、生活の場でもあり、社会を学ぶ始めての本格的な場でもある。子供たちが生活の一部として「心地よい居場所」を見つけだせる安らぎのある学校づくりをめざした。
学習エリアは、１学年に１クラスの予備教室（少人数授業教室・ワークステーションなどにも利用）とワークスペースを持つ４クラスを１ユニットとした学年クラスター型を採用した。移動パネルや家具により、２ｍグリッドでエリアを自由に規定できる普通教室とワークスペースは、TT・少人数学習・30人学級・将来の拡充に対応し、多様な学習形態とあらゆる学習集団単位に柔軟な変化をみせる「可変する空間」として整備した。
更には、地域が学校を媒体としてコミュニケーションできる仕組みや地域の人々が教育に参加できる基盤づくりとして、地域学校連携施設を併設し、これを核として開放諸室をゾーニングすることで「まちの施設」としても機能する。

（瓦田伸幸・高木耕一／東畑建築事務所）



デッキのテラス　WSから連続するテラスは学習スペースや遊び場として活用されている



多目的ホール 子供たちの絆や活動が校内全体に広がるように意図した核空間



屋上緑化された緑のワークテラス



南面ディテール



北東より見る



南より見る

四日市南警察署

設計・監理■
三重県総務部営繕室
安井・打田特定建築設計企業体

施　　工■
建　　築　飛島・中村・杉本特定建築工事共同企業体
　　飛島建設、中村組、杉本組
機械設備　日管・岡田・日空三重特定建築工事共同企業体
　　日管、岡田工業、日本空調三重
電気設備　東光・泗水・林電気特定建築工事共同企業体
　　東光電気工事、泗水電機、林電機工事

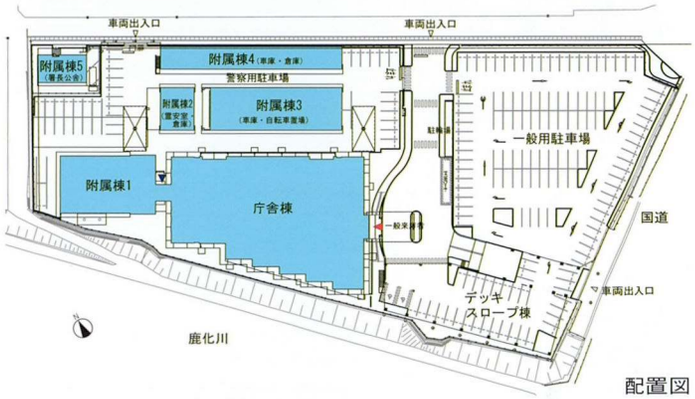
三重県の中核都市にある四日市南警察署は、三重県の北勢地域の防犯拠点としての重要な役割をもち、県民生活の安全確保と「安全・安心な地域社会」を実現する21世紀に向けた警察施設の「新たなるモデル」として整備した。警察施設としての安全性、機能性を追及すると共に、地域の人々に親しまれる計画としている。シンメトリーな外観構成と格子状のメンテナンスバルコニーが醸し出す、警察施設としての威厳の中に、ベージュ・茶系のタイルを用いることで親しみと暖かさのある外観を作り出している。予想される自然災害に対して、警察機能が麻痺することなく、また災害応急対策活動を行う防災拠点としての機能を確実に発揮させるために、基礎免震構造を採用している。基礎免震は鉛プラグ入り積層ゴム支承とオイルダンパーを組み合わせることで合理的構造としている。また屋上にはヘリポートを設置し、緊急・災害時に強い警察としている。休むことの許されない警察庁舎として、時代の変化に対して長寿命化とフレキシブルな空間を同時に実現できるPCaPC造を採用した。プレストレスを導入することにより、長大スパンが可能となり自由度の高い14.4mの無柱空間を実現し、将来の組織変更にも柔軟に対応できる計画としている。またPca部材は工場生産のため在来工法に比べて木製型枠を最小限に抑えることができ、ミキサー車などの現場車両削減によるCO_2排出の抑制など地球環境にやさしい工法としている。

（寺西敦敏／安井建築設計事務所）
（岸田淳治／打田設計）

所 在 地 ――三重県四日市市新正５丁目5-5
敷地面積 ――10,571.21㎡
建築面積 ――　3,945.78㎡
延床面積 ――　8,595.87㎡
構造規模 ――PcaPc造　5F　P1 他
工事期間 ――2005年10月～2007年３月
撮　　影 ――㈲そあスタジオ　牧野　裕



上空より見る



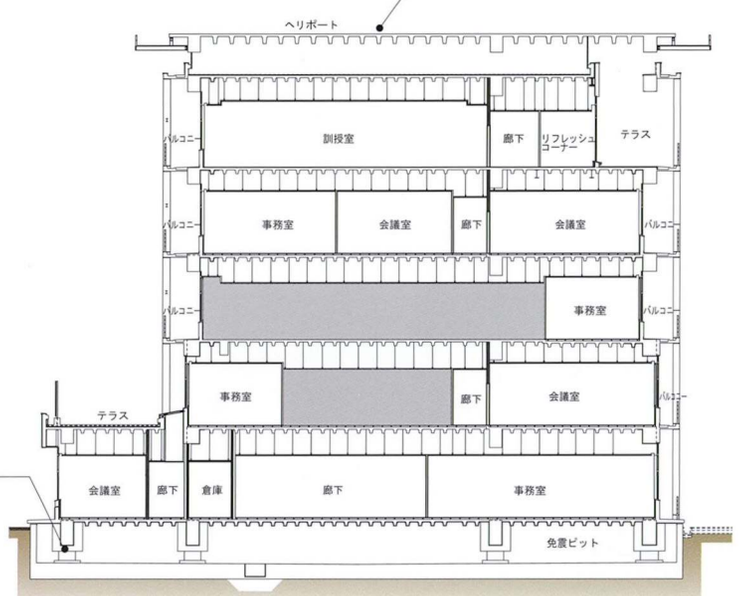
配置図



屋上ヘリポート（Pca部材）



鉛プラグ入り積層ゴム支承



断面詳細図

長久手町青少年児童センター/色金保育園



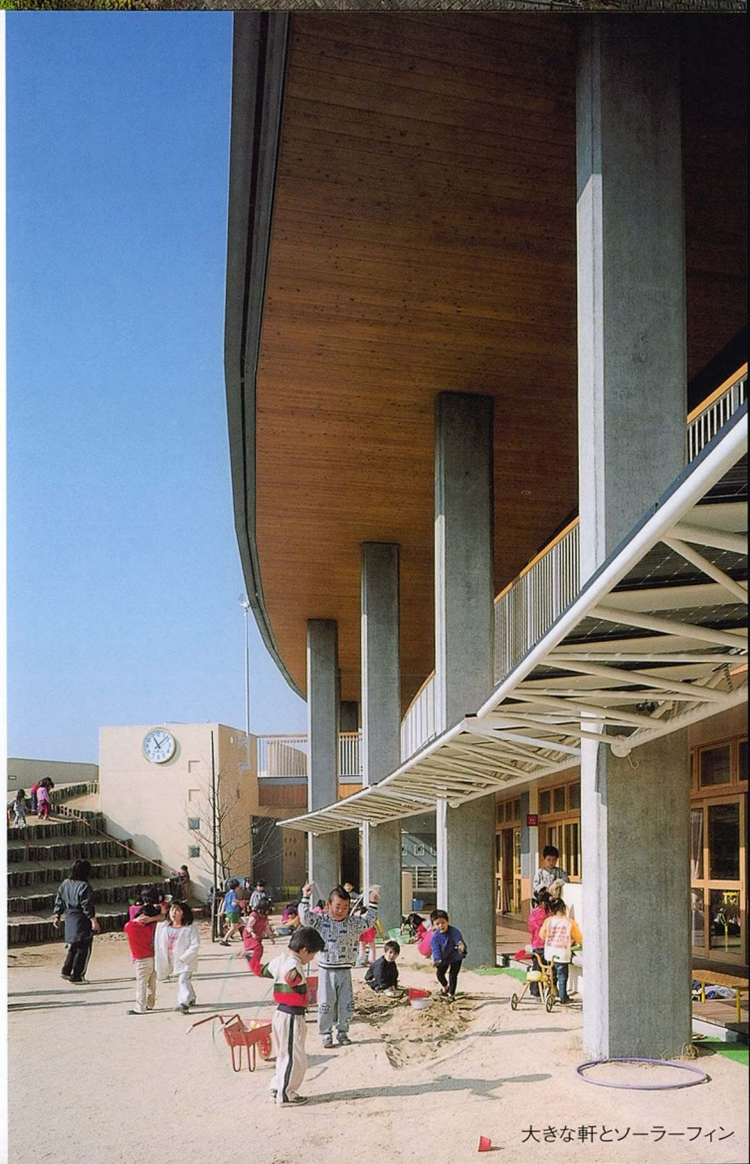
南からの全景　左：色金保育園　右：青少年児童センター

建 築 主　長久手町
設計監理　東畑建築事務所
施　　工　日東建設（青少年児童センター）
　　松井建設（色金保育園）

施工協力（青少年児童センター）
鋼製建具　三協立山アルミ㈱
鋼製建具　野原産業㈱
鉄骨工事　池田工業㈱
外壁工事　㈱ノザワ商事
内装工事　㈱堀建
家具工事　㈱西尾家具工芸社
金物工事　㈱岡正
木 工 事　三建木材工業㈱
塗装工事　菊水化学工業㈱

施工協力（色金保育園）
鋼製建具　不二サッシ㈱
塗装工事　菊水化学工業㈱
外壁工事　㈱ノザワ商事
木 工 事　三建木材工業㈱

所 在 地 ――愛知県長久手町岩作中島7-1
敷地面積 ――1,845.61㎡／3,046.00㎡※1
建築面積 ――　733.40㎡／1,233.31㎡※1
延床面積 ――1,067.05㎡／1,809.31㎡※1
構造規模 ――S造・2F／S造・RC造・2F※1
工　　期 ――2006年12月～2007年11月／2003年12月～2004年12月※1
　　（※1　青少年児童センター／色金保育園）
最 寄 駅 ――愛知高速交通・はなみずき通駅
撮　　影 ――SS名古屋（相羽光徳）
　　※2　東畑建築事務所



大きな軒とソーラーフィン

長久手町は名古屋市の東に隣接する緑豊かな歴史と文化のまちである。1584年の「小牧・長久手の戦い」に始まり、2005年には「愛・地球博」の開催地として盛り上がりを見せた。

敷地は、旧来からの集落に位置するが、どことなく長閑で伸びやかな場所である。青少年児童センターは2004年に竣工した色金保育園と隣り合う形で建設され、町の中心部に子どもの街ができあがった。

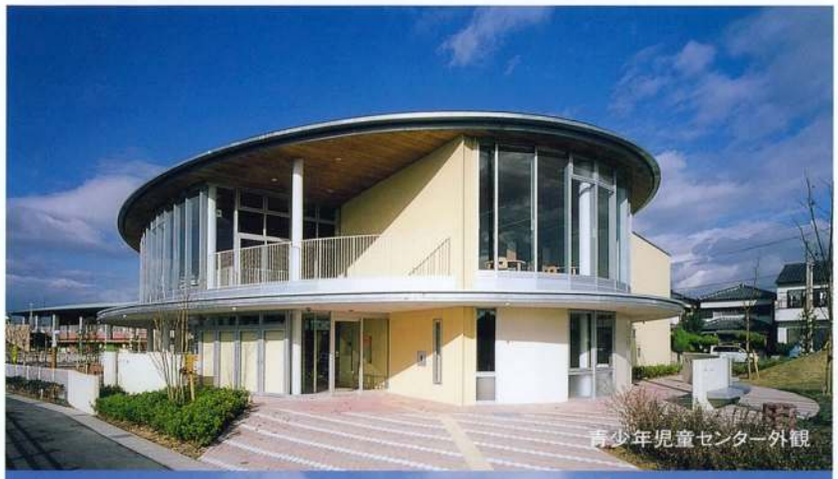
青少年児童センターは、乳幼児から中高生までの青少年を対象とする児童館として、県下では初めての施設である。近い年齢同士の横方向の交流は学校などでも容易に行なわれているが、異年齢集団という縦方向の交流は、なかなか成されていないのが現状である。子どもたちの「縦向き的交流」は、子ども同士で育てあう、あるいは育ちあうことが可能であり、大人たちの押し付けでないところに、この施設が大きな意味を持つ。

保育園は、従来の保育機能のみならず、乳児保育・一時保育・延長保育事業の展開や、子育て相談・子育て支援の拠点としての役割を担う、新しい形の施設である。

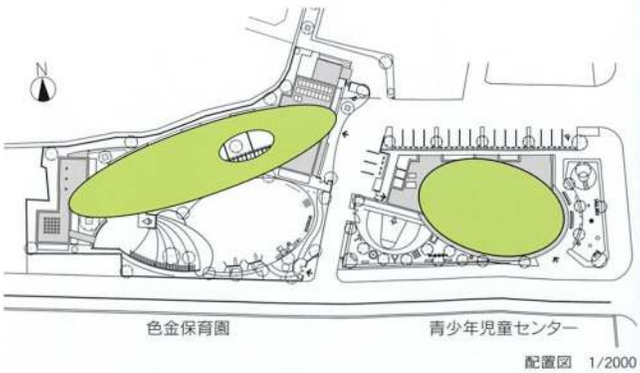
吹抜のある内の広場や開放的な諸室、豊かな屋外空間や中間領域、伸びやかな大屋根など、無限の可能性を持った子どもたちが、ゆったりと時が流れる中で自由に遊び、学び、行動し、豊かに成長できる施設づくりをめざした。

計画から完成に至るまで、行政・保護者・保育士・支援団体の方々とコンセンサスをとりながら進められた豊かな施設づくりが、今後も連鎖的に繋がり、ものづくりが人づくりに、更には、街づくりに繋がればと思っている。

（瓦田伸幸・高木耕一・久保久志／東畑建築事務所）


青少年児童センター外観


大きな軒がつくる夏季の陰影と築山



配置図　1/2000


保育室前につくられたプレイヨート


吹抜けのある内の広場※2



所 在 地 ――愛知県豊橋市佐藤1-2-3、4、5
敷地面積 ――1,550.14㎡
建築面積 ――700.73㎡
延べ面積 ――1,142.31㎡
構造規模 ――S造、 2F
工　　期 ――2007年 6 月～2007年12月
最寄り駅 ――JR豊橋駅
撮　　影 ――白井利明（SS名古屋）

東海労働金庫　豊橋支店

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　熊谷組
　　電気：トーエネック
　　機械：レックコンストラクション

豊橋市郊外の幹線道路沿いに建つ銀行店舗である。
地域に親しまれ気軽に入れる店舗とすること、そして地域にアピールできる外観デザインとすること。これが建築主の強い要望であった。
この要望に対して、導き出した答えが「旅籠（はたご）」である。
豊橋はかつて東海道の宿場町として栄えていた。多くの旅籠が軒を連ね、行き交う旅人を温かく迎え入れていた。夜には行燈や格子から光が漏れ、旅人はその淡い光に導かれるように、そこで集い、安堵し、疲れを癒した。
この宿場町豊橋の持つ地域性と歴史的文脈を読み解き、旅籠という“和み”の象徴を現代の銀行店舗という形に昇華させた、古くも斬新な試みである。
地域に親しまれる店舗を目指し、2階大会議室を、休日・夜間を問わず地域住民が利用できる計画としている。そのため、地域開放ゾーンをセキュリティ面で明確に区分けし、地域開放ゾーン専用のサブエントランスと階段を設けた。階段をあえて本体から独立した塔状とすることにより、地域開放のシンボルとして主張させている。日暮れには行燈の如く街並みに温かな光をもたらす。前面道路からの近景だけでなく、北側を流れる柳生川越しに見える遠景も意識した、存在感のあるデザインとしている。
前面歩道からやさしく人々を導き入れるコミュニティプラザと、それに面する2層吹抜けのガラス張りの店舗ロビーは、内外が一体となった開放的で明るい空間となっている。
前面道路に面して設けたコーナーウィンドーロゴは、昼と夜で表情を変え、見る人の目を楽しませるものとしている。
色彩計画においては、いわゆる“銀行らしい”色やコーポレートカラーであるブルーの使用は一部にとどめ、あくまでも地域性を重視した“和み”を感じる色彩にこだわっている。
明確なゾーニングやセキュリティ計画、環境への配慮といった、銀行店舗に求められる機能面の課題は当然解決した上で、地域に根ざし、地域に親しまれる、これまでにない郊外型銀行店舗の新たなモデルの創出を目指した計画である。　　（寺西敦敏・山本泰裕／安井建築設計事務所）



▲1階平面図兼配置図　1/1000



▲2階平面図　1/1000

















知多信用金庫河和支店

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　河　和



北側道路から支店をのぞむ

旧店舗が道路拡幅により利便性が低下すること、また老朽化、耐震性の問題により新築移転した。敷地は旧店舗の道路を挟んで南側にあり、以前より近傍の交差点での渋滞が多いため、影響の少ない位置に駐車場への乗入口を確保して建物を配置し、利用者への利便性を考慮した。

前面道路沿いには広場をとり、エントランス周囲にゆとりを持たせるとともに歩道部分に沿って植栽を配置し、地域に開放している。

建物は、ロビー北東側ショーウィンドウ部に床暖房設備を設置し、真冬時のコールドドラフト対策を行い、ベビーベットを備えた多目的便所を配置し、車椅子使用者や幼児を持つ家族等への配慮をしている。

また深夜電力を利用した氷蓄熱式空調システムの採用による電力平準化、基礎躯体にはラス型枠を採用し南洋材型枠の使用の低減、広場の舗装に歩行感の良いゴムチップ層を持つリサイクル保水性舗装の採用など、環境と利用者にやさしい仕様となっている。

（冨田昌志／伊藤建築設計事務所）



ロビー



配置図



ATMコーナー

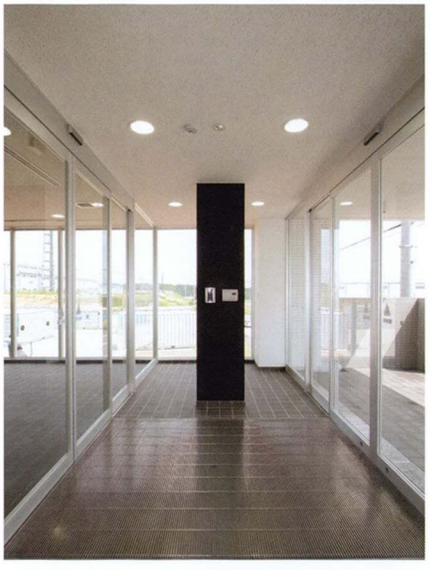
所 在 地 ――愛知県知多郡美浜町大字河和字北田面67番地1
敷地面積 ――952.81㎡
建築面積 ――357.51㎡
延床面積 ――620.63㎡
構造規模 ――SR造、２F
工　　期 ――2007年２月～2007年８月
最寄り駅 ――名鉄河和線・河和駅
撮　　影 ――エスエス名古屋



全景（南東面）



夜景



風除室



南西面



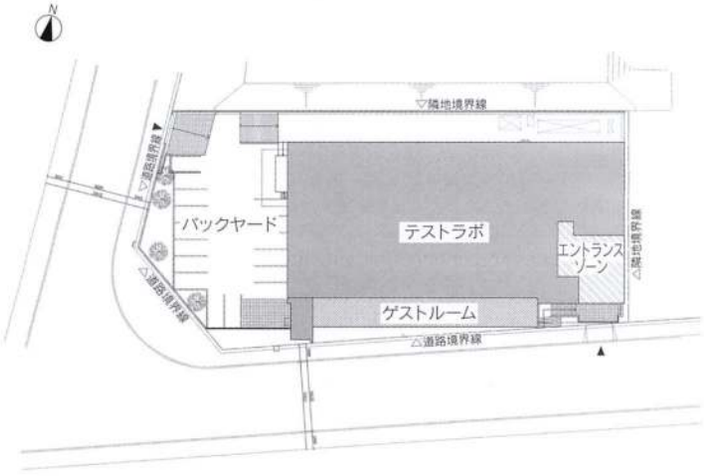
エントランス外観

IMV名古屋テストラボ

事 業 主　IMV株式会社
設計監理　東畑建築事務所
施　　工　松村組

東名高速道路三好インター直近の建設地は、交通アクセス抜群の立地ゆえ愛地球博の折に臨時駐車場として使用された履歴を持つ。本施設は、各種振動実験・計測・解析サービス、最先端技術の研究・開発等を行うテストラボゾーンおよび営業所で構成されている。
敷地と前面道路とのレベル差は約3.5mあり、これを利用し一部地階に来客駐車場を設けている。
建物はテストラボおよび事務室を内包するどっしりとしたコンクリートの四角い白い箱と敷地を有効利用するために大きく飛び出した軽やかな金属の箱（ゲストルーム）等建物の内部機能が立面を構成している。また、塗装等を行わず素材そのものを仕上材とすることでメンテナンスフリーを目指した。なお、振動実験施設ということで近接する住宅地に配慮し、二重コンクリート壁やダクトサイレンサー等を設け騒音、振動対策に万全を期している。

（井上哲也・柱健太郎/東畑建築事務所）



配置図

所 在 地 ――愛知県西加茂郡三好町大字福谷字根浦106-1
敷地面積 ――2,364.92㎡
建築面積 ――1,397.40㎡
延床面積 ――2,485.95㎡
構造規模 ――RC造　一部S造　2F・B1F
工　　期 ――2007年２月～2007年９月
最寄り駅 ――名鉄豊田線・黒笹駅
撮　　影 ――セントラル・フォート



エントランスゾーン



ゲストルーム



テストラボ内通路



テストラボ内部

中部原材料本社オフィス・物流センター



南面全景　南からの緑香る風を取り入れている

建 築 主　中部原材料 株式会社
設計監理　東畑建築事務所
施　　工　戸田建設



南面夕景　ワーカーの姿が映る

所 在 地 ――愛知県豊明市栄町新左山1-761
敷地面積 ――6,209.64㎡
建築面積 ――2,334.85㎡
延床面積 ――3,926.31㎡
構造規模 ――S造・2F
工　　期 ――2005年 9 月～2006年 3 月
最 寄 駅 ――名古屋鉄道名古屋本線・前後駅
撮　　影 ――センターフォト

中部原材料とは、中部圏に拠点を置く、梱包設計や物流梱包製品を扱う物流のプロフェッショナル企業である。
このプロジェクトの重要なテーマは、本社オフィスと物流センターという２つの異なる機能を組み合せ、ひとつにまとめること。更には、開かれた企業イメージやアイデンティティーを形にすることにあった。
従来の物流センターは、企業の経済性が優先され、建築として不十分な施設が多い。当プロジェクトにおいては、物流の機能性を維持し、経済性を考慮する中で、「環境・開く・ワーカーを包む」を基本テーマに掲げ、物流やここで働くワーカーの姿が街に映り込むように計画した。
建築を構成する素材・壁・開口部のあり方は、必要な機能をダイレクトに表現することで、過度な造形を行わず端正で飽きのこないものとし、機能とデザインが整合する形態とした。物流とオフィスとの異なる機能は、それぞれ違う表情を見せながら、大きな屋根に包み込まれひとつの形となった。
機能面では、環境共生型施設として自然換気システムを導入し、パッシブな手法により定量の風を取り入れエコルーフから自然排気することで建物全体が常に呼吸する。更に、エコマテリアルの採用、SIの導入、ユニバーサルデザイン、アメニティーの向上など、種々の課題にも積極的に取り組み、企業が果たすべき社会的責任を見える形で織り込んだ建物である。

（井上哲也・高木耕一／東畑建築事務所）



トラックヤードと活動を映し出すオフィスのホール


営業部オフィス　窓からは緑が一望できる



北西外観　街との関わりを大切に考え、オープンな形態となっている



岐阜シティ・タワー43

設　　計　森ビル都市企画・竹中工務店共同企業体
監　　理　岐阜県建築設計監理協同組合
施　　工　竹中工務店

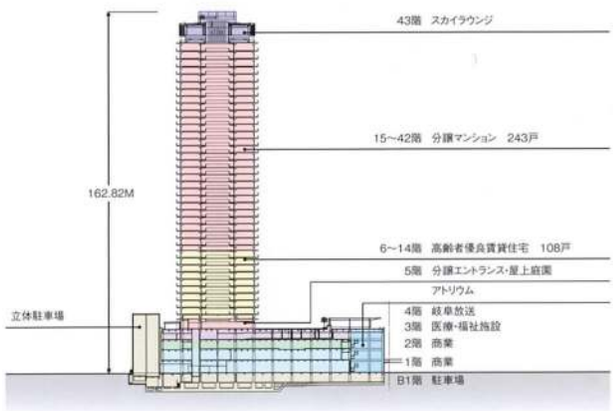
中部圏の内陸中核都市である岐阜市の駅前一等地の再開発事業である。住居を伴う複合ビルとしては、中部地区で最も高い地上43階、高さ163Mの超高層ビルであり、岐阜の新しいシンボルとなっている。

この超高層ビルは、複数の用途が縦に積層している。基壇となる低層部は1・2階が商業施設、3階が医療福祉施設、4階が放送局本社、5階が高層部の分譲住宅エントランスと屋上庭園となっている。高層部は6～14階が岐阜県住宅供給公社の運営する高齢者優良賃貸住宅「ラシュールメゾン岐阜」(108戸)、15～42階は民間の分譲住宅「スカイアークス」(243戸)、最上部43階はスカイラウンジとして、一般公開の展望室とレストランが入っている。

このビル一つで都市の機能を持っているといえるが、特に3階の医療福祉施設は、高齢者賃貸住宅と密接に連携し、都市住居の新しい形となっていると共に、都心における地域福祉の拠点づくりを目指している。

構造的な特徴としては、超大型多段マスダンパーを用いた制震システムを日本で初めて採用した。これは建物の最上部にあたる43階のスカイラウンジの約2000tと、屋上ヘリ救助スペースの約200tをそれぞれ本体から免震層で分離し、マスダンパーとして利用する制震システムである。これにより耐震性能を大きく向上させつつ、地震時の揺れを約2割低減した。

(大嶽清和／竹中工務店)



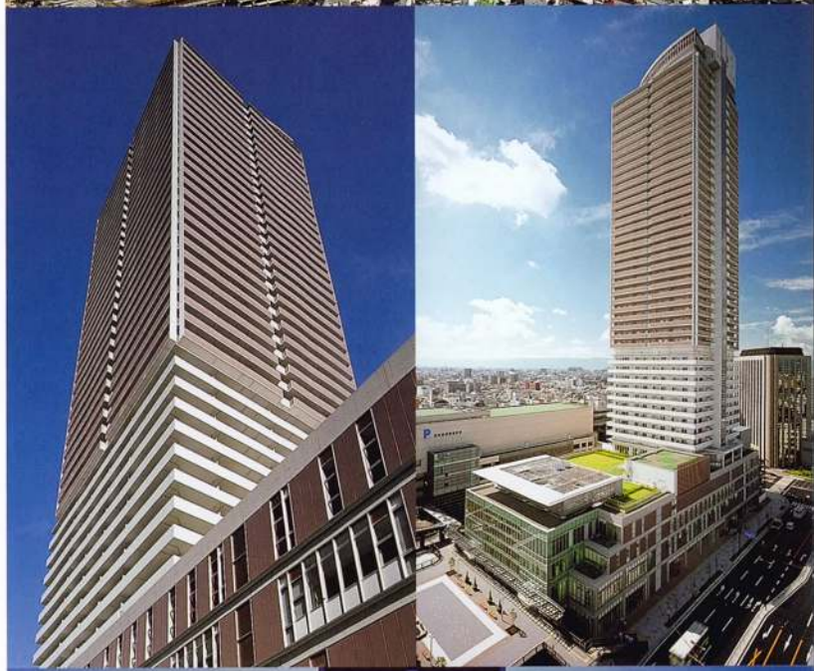
断面図



1階平面図

所 在 地 ――岐阜市橋本町2丁目52番地
敷地面積 ――5412.12㎡
建築面積 ――4623.17㎡
延床面積 ――57576.36㎡
構造規模 ――RC造、一部S造、F43、B1、P2
工　　期 ――2004年12月～2007年8月
最 寄 駅 ――JR東海道線岐阜駅
撮　　影 ――SS名古屋









東海支部特集３部作

東海支部特集３部作も新シリーズに入り３年目となります。１部の「街道・宿場町シリーズ」は一昨年の三重県“関宿”、昨年の中山道“木曽路”に続き今年は岐阜県“郡上街道”を取り上げます。古くからの街道や宿場町は、その繁栄した時代の人々の営みを映す鏡といわれ、多くの人々がその繁栄の時代を求めて訪れています。一方、その街に棲む人々も生活の糧に、地域の活性化に、街の再生に動き出しています。景観法が施行され、経済効率第一主義の我が国にも景観の持つ重要性が認識され、古くからの街道や宿場町への価値観も大きな変化が現れていると言われています。

そこで今回は“郡上街道”に焦点を当て、関・美濃・郡上八幡を中心に、この地方の文化を郷土史的、建築都市的、街づくり活動からの立場で探ってみたいと考えました。この“郡上街道”は、東海支部以外の会員の方にとっては勿論のことですが、その存在が日常的ともなっている支部会員にとっても、この特集で新たな発見と遭遇できるかもしれません。

２部の「東海の建築事例紹介」はテーマを持った切り口で東海の建築を紹介するシリーズですが、今回は“木”“ガラス”に引き続き“PC・プレキャストコンクリートを活かした建築”に焦点を当てた事例紹介を試みました。

３部の「支部会員が語る」は東海支部の活動の中でも特に若い会員たちが中心となって活動をしている「21世紀委員会」の活発な活動を通し、建築の原理原則を考える座談会を企画しました。

この度の特集にも、お忙しい中、ご執筆を頂きました方々をはじめ、多くの方のご支援ご協力を頂きました。深く感謝致します。

（東海支部特別編集委員会）

■１部―街道・宿場町シリーズ

郡上、美濃関、関…郡上街道を歩く

郡上街道を歩く／丸山幸太郎

うだつが残る町並み／篠田克志

和紙と町家、あかりの祭典、美濃の活性化／堀部　勉

刃物のまち・関／後藤敦司

郡上八幡 水と町家の城下町―まちづくりのあゆみ―／齊藤知恵子

■２部―東海の建築事例紹介

PC・プレキャストコンクリートを活かした建築

―光と風を導くPCa版のソーイングルーフ

鈴鹿市立旭が丘小学校／若林　亮

―サスティナビリティを象徴する免震フルPCa大規模物流施設―

プロロジスパーク セントレア／今宮実三郎・後藤泰雄

■３部―東海支部会員が語る：座談会

21世紀委員会の活動と人にやさしいまちづくり

／星野広美・21世紀委員会



街道筋の文化

長良川流域をその本流と織り成すように通る郡上街道は、豊かな自然と物産に恵まれた地域を反映し、歴史の積み重ねの中で、諸文化を咲かせてきた。その主なものを挙げてみる。

〔古代〕

・山岳信仰の白山信仰・高賀山信仰のメッカ。

・長良川の鵜飼、岐阜市の長良及び関市の小瀬。

・仏教文化の伝播、関池尻の弥勒寺、関の新長谷寺など。

〔中世〕

・篠脇城主東常縁から飯尾宗祇への古今伝授、八幡の宗祇水。

・戦国時代から禅宗や浄土真宗寺院建立―下有知竜泰寺など。

〔近世〕

・城跡と城下町―小倉山城跡と城下上有知町（卯建の上がる町）、八幡城跡と城下八幡町。

・寛文年間喜田吉右衛門ら曽代用水を開発、現在600余町歩を潅漑。

・郡上藩藩校文武館（集成館）の江村北海、上有知の儒者村瀬藤城ら人物輩出。

・祭礼芸能の伝承―長滝寺の延年、白鳥神社の大神楽、嘉喜踊、郡上踊、白鳥踊、美濃仁輪加。

【街道筋の文化は丸山幸太郎氏の原稿より】

1部
街道
宿場町
シリーズ

郡上街道を歩く

丸山幸太郎

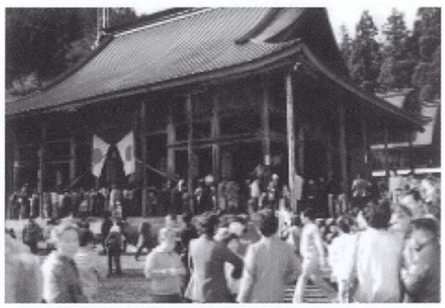
■長良川に沿った郡上街道■

郡上街道は、江戸時代の五街道の一つ中山道の加納宿から分かれて郡上郡方面へ北上する街道である。現在の関市小屋名までは、飛騨街道と言い、小屋名で分離して北上するのを郡上街道と称している文献も多い。それ以前では、長良川右岸沿いの旧東山道筋を古津より川上で渡河し、左岸沿いに北上する道もあった。

いずれにしても、現岐阜市芥見付近からは、所によっては若干離れるが清流長良川に沿った街道である。長良川は、江戸前期まで岐阜付近から上流は郡上川と公称されていた。それは、群青のような清流が貫流する郡上郡から流れ出る川だからである。長良川は、流域に集落が発展し、多くの人口を抱えているが、ダムはなく、なお清流であることを特長としている。

郡上街道は、長良川が育んだ集落・村・町である小屋名・小瀬・下有知・上有知・曽代・立花・須原(洲原)・下田・刈安・八幡・徳永・白鳥・長滝・前谷・石徹白を結ぶ道である。なお、前谷から東へ分かれて白川村方面へ向う白川街道が連なっていた。

■白山信仰の道■



延年が舞われる長滝寺　郡上市白鳥長滝

郡上街道は、白山信仰の南の登山口美濃馬場（長滝寺）へ向う道でもあった。白山は、郡上街道の終点石徹白の北方で美濃・飛騨・越前・加賀の四カ国に接して聳え、ここを水源とする美濃長良川・越前九頭竜川・加賀手取川の流域で、水分(みくまり)信仰つまり水神・竜神の山として崇められていた。

その後、仏教や道教の影響を受け、入山修行は、生前の罪や穢れを落として清浄なる身として生まれ変わるという擬死再生の修行場として多くの人々が登山するようになった。

平安時代前期には、美濃（長滝寺）・越前（平泉寺）・加賀（白山寺）に、それぞれの登山道の起点であり信仰の拠点が成立していた。

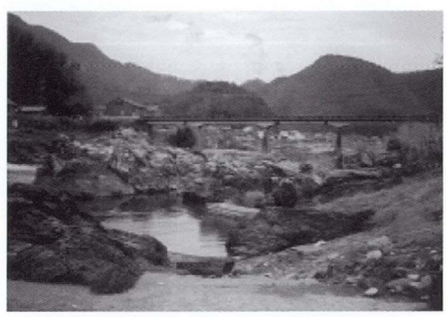
長滝寺は、盛況時は神社仏閣30宇、宗徒160坊あったという。白山の一の鳥居と称された洲原神社は里宮として親しまれた。

■人と物の往来■

古代から白山への信仰の道として修験者たちが行き交う道であった郡上街道は、中世では、篠脇城主（大和町）で歌聖だった東常縁が訪れてきた連歌師飯尾宗祇に古今伝授をした歌の道であり、近世では、生涯に12万体の造仏活動をしつつ全国を遍歴した円空上人がたびたび往来し造仏をよくし、生涯を終えた所であり、郡上藩の年貢増徴に対して農民たちの嘆願愁訴の道であった。

近世中期（寛政年間）成立の「濃州徇行記」によれば、郡上街道筋で産する生糸は曽代へ集められて、曽代糸と名付けられ、上有知湊から長良川を船に積み中山道河渡(ごうと)宿へ送り、以後は陸路京都へ送っていた、とある。薪・和紙・干串柿・茶・板・竹皮など長良川上流地域の産物も、郡上街道を牛馬や人の背で、立花・保木脇あるいは上有知の湊へ集められ、長良川を船で岐阜や河渡へ輸送されていた。なお、立花・保木脇から北へ黒地までは、長良川右岸筋を行く立花・佐ヶ坂・地蔵峠・黒地への道と、左岸筋の保木脇・下河和・上河和・黒地峠を経て川を渡り黒地へ向う道があった。

（まるやま　こうたろう／
岐阜女子大学文化創造学部教授・地域文化研究所長）



立花・保木脇の渡し跡と橋

1部
街道
宿場町
シリーズ

うだつが残る町並み

篠田克志

■美濃の町並みの沿革■

平安時代に著わされた『和名類聚抄』に美濃国武芸九郷の記載があり、その中に有知郷がある。有知郷は上有知、下有知に分かれるが、平安時代末期に上有知氏を名乗る源氏の一族がこの地方を支配しており、上有知がこの地方のひとつの中心になっていったと推察されている。上有知氏のあと室町時代には浅野氏が支配していたが、天文の頃には佐藤清信の領地となり、慶長5年まで佐藤氏三代の支配するところとなった。佐藤氏は町の東北に鉈尾山城を築き、領主は上有知古町に館を造って居住したと伝えられる。

上有知の中心地は下渡から長良川沿いの広い地域にあり、現在も古町と俗に言われている所がある。古町には現在も昔を偲ぶ小字名が幾つか残っている。古城跡とは佐藤氏の居館のあった所であり、小者町というのは下級武士の屋敷跡、金屋街道というのは古町から生櫛・岐阜方面に通ずる主要道路であった。

慶長5年に関が原の戦いがあり、上有知の領主佐藤才次郎方政は西軍につき滅亡した。関が原の戦いの功績として高山城主金森長近は徳川家康より上有知2万石を加増され、金森長近は高山の本城を養子可重に譲り、上有知の城主となった。城主となった金森長近は今までの町を、小倉山城城下町として現在の中心市街地に移転させ、長之瀬川を挟んで東に城郭として武家地、西に城下町としての町人町とした。城郭は南を長之瀬川、北を長良川、小倉山東方を空掘で囲まれ西に開いた形をとっている。惣門は現在の八幡神社赤鳥居辺りとされている。旧城内には江戸時代に大官所が置かれ、殿町筋から小倉山南を通り城に至る道沿いには明治時代に入って村役場や郡役所が置かれた。

城下町は北側に一番町筋、南側に二番町筋の二本の東西の道路を通し、四本の横町で繋いだ目の字型の構成である。街道筋もこの目の字に取りついている。魚屋町から北への通りが、そのまま北に伸びて殿町筋となる。この南北筋は、城と城下町を結ぶ唯一の道であり、一番町筋と二番町筋の二本の東西軸とともに町並みの成立時における主要な都市軸となっている。殿町筋から長良川沿いの港町筋を通って河川交通の起点である上有知湊に至る。

目の字型の町割の各ブロックは東西がおよそ122メートル、南北が106メートルである。東西にやや長く、ほぼ正方形に近い形である。近世城下町のうち、江戸、名古屋の町人地の町割は京間を造営単位として計画されており、金森氏の町割が時代的にみて同様でなされたものとすれば、現在の町割は南北55間強、東西60間弱である。現在の道路幅員は一番町筋と二番町筋で7.5メートル前後、魚屋町では4.2メートル前後、吉川町では4メートル前後であり、京間ではそれぞれ4間弱、2間強、2間となる。享保8年の大火の後に一番町筋、二番



吉田初三郎作　美濃町名称案内図絵

町筋の道路を拡幅したとされるが、二番町筋の常盤町と吉川町との境に見られるように、拡幅は目の字の内側に向かってなされたものらしい。

敷地割りは他の城下町同様、間口が狭く奥に長い短冊型で、一番町筋と二番町筋を間口として割り付けされており、主たる道路として位置付けられている。敷地の奥行は目の字内側では京間で20～25間で、当初の敷地割りでは区画中央に20間×10間程の割り残し状の土地が存在していたと考えられる。このような土地は江戸や名古屋では会所地と呼ばれ、その他いくつかの近世城下町に同様な土地の存在が知られている。上有知においても目の字中央、中町には江戸時代、願念寺が所在しており、金森氏による敷地割の計画段階で会所地の設定が意図されていたものと考えられる。このように美濃の町の構成と町割は近世城下町としての都市計画の特質を備えたものであるといえる。小倉山の山頂から見ると、現在もこの目の字と殿町筋の構成が町並みの甍の連続から認識されるし、会所地の名残も緑地あるいは空地の存在として認識される。近世城下町の都市計画がよく現在に残されており、町の形態そのものが貴重な文化財である。

慶長16年に金森氏廃絶後、上有知は幕領となり、さらに尾張藩領として明治に至る。その間、小倉山には陣屋、代官所が置かれたのみで、城下町というよりむしろ交通の要所に位置した地方経済の中心地として町は発展した。

■うだつの上がる町並み■

享保８年に上有知に大火災があり町は全焼した。それを教訓に一番町・二番町通りを拡幅し、類焼を防ぐための防火壁「うだつ」をつくり、屋根の上に祠を設置して秋葉神社を祀った町並みが続き泉町と本住町を中心にうだつのある町並みは19棟あり、全国的にみてもうだつのある家としては一番多い町となっている。


うだつ

電線の地中化・ポケットパークの整備・原石を粉砕し舗装材として利用した道路整備が行われており、市指定文化財「旧今井家住宅・うだつ連棟家屋」のある泉町はうだつが連続して見ることができ、じつに壮観さを醸し出している。

その他にも国重要文化財「小坂家」、国有形登録文化財「あかりアート館」、山車蔵、社寺などもあり、江戸時代中期から後期の建造物が建ち並んでいる。

平成11年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され649棟のうち半分程度の修理修景事業が完了し、哀愁の残る町並みの整備が進んでいる。

■現状と課題■

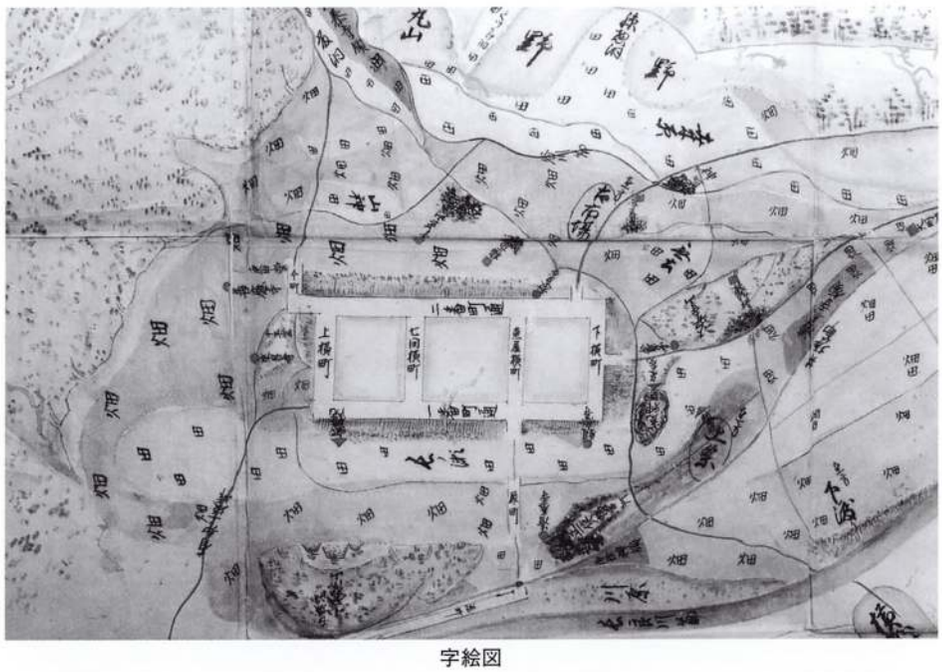
うだつの上がる町並みを散策すると、他の地区にみられるような空家は少なく、観光客も年々増加してはいるものの、伝建地区のどこにでも言えるように高齢化は進んでいる。この町が今後も発展していくためには、伝統文化やお祭り等を次の世代が引継ぎ、守っていくことが必要である。町に住む人がいて、はじめて文化の継承がなされ、町が存続されるものである。そのためには、若い世代がその町に住み、その町を愛し、生活できることが重要なことと言える。

そのためには今後より一層、文化的価値を高めるとともに、そこに住む人達が誇れる町づくりに努め、うだつの町並みを訪れる観光客の皆様から賞賛される町づくりを遂げることが必要となってくる。

（しのだ　かつし／美濃市教育委員会文化振興課町並み景観保全室長）


うだつが上がる町並み


国重要文化財 小坂家住宅


字絵図

1部 街道宿場町シリーズ

和紙と町家、あかりの祭典、美濃の活性化

堀部　勉

■「富の象徴」うだつを上げた美濃紙■

美濃市は岐阜県の中南部に位置し、東西約13km、南北約16km、面積117㎢を有し、清流長良川と板取川の豊かな水と周辺の緑濃き山々の美しい自然に恵まれ、「美濃和紙」や「うだつ」に代表されるように文化・歴史が息づく町である。特に中心市街地のうだつの上がる町並みは、16世紀初頭に高山の町を築いた金森長近公が関ヶ原の戦いの軍功で加増された美濃市に移り築かれた町並みでもあり、亀甲にたとえられる台地上に築かれた歴史的都市である。

長良川、板取川が貫流する良質の水に恵まれた地域であり、西南部には日本最古の縄文時代草創期の水場の遺構が確認される。

奈良の正倉院には、わが国としては最も古い大宝２年（702）の美濃、筑前、豊前の３ヶ国の戸籍用紙が所蔵されている。これは現存する戸籍の中では最古のもので、美濃国の戸籍紙は、九州の紙に比べ高い技術で漉かれていた。

中世において、京都の貴族や僧侶たちの手紙や記録の中に美濃の紙の名が度々登場し、近世から現在にかけては、美濃の地域によって各種様々な紙を生産する宝庫的な存在となる。

慶長５年（1600年）、徳川家康が関が原合戦決戦に臨み、庄司彦左衛門（美濃市御手洗）に軍勢指揮のための采配の紙を申しつけたと伝えられ、大勝利した家康はその報償として、庄司彦左衛門を紙漉屋に指定し、美濃紙を幕府の御用紙とした。



美濃橋（国指定文化財）

江戸時代からは長良川の舟運川湊を拠点とする美濃紙を中心とした物資の大集散地の城下町として上有知（美濃市）は繁栄する。牧谷で生産された紙は、大正５年に長良川に架橋された現存する日本最古の近代吊橋「美濃橋」を渡り、全国に流通し、日本有数の経済地域として栄えた。

美濃紙業界は明治の後半から昭和初期にかけて全盛期を迎え、日本一のうだつの町並みを築いた。うだつは『洛中洛外図』など戦国時代京の町家の絵図にも書かれており、古くからあったものと思われる。元来、火災時に類焼を防ぐために隣家との間に防火壁をもうけ、小屋根をつけたものであり、シンプルなものであった。しかし、時代とともに、華美で立派なものへと変貌していき「うだつの上がらない」という言葉も生まれ、うだつは「富の象徴」となった。

■歴史的町並み保存への始動■

うだつの残る町並みを最初に着目したのは、当時日本建築学会会員で名城大学講師河村力男さんと、同大学建築史学科の学生らであり、昭和56年の夏、外観調査を手がけたのが始まりである。河村さんは、中山道の妻篭宿、高山市の上三の町、山口県津和野などの各地の町並み調査を手がけており、「美濃の町並みは、歴史的景観は東海一」と絶賛し、「何とか地域全体を保存したい。住民の協力が得られる方法を考えねば」と保存の提言を行ったのが、町並み保存の出発点である。

昭和60年に市内最大商家旧今井家住宅の水琴窟復元が、美濃青年会議所のメンバーによっておこなわれ、復元の様子がNHKのテレビ番組で全国に放映され、大反響であった。市は旧今井家住宅の一部改修後、昭和63年に一般公開し、その後、町並み保存活動の気運が一気に盛り上がり、「まちづくり計画協議会」が民間団体として発足する。

平成６年には旧今井家住宅を市が購入、行政は市民に後押しされた形で国の重伝建選定に向けて本格的に始動し、うだつの上がる町並みは、平成11年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

中心市街地の重要伝統的建造物群保存区の選定以来、平成20年で９年目を迎え、約9.3ヘクタールの内建造物は、重伝建保存基本方針に基づきそれぞれの歴史的、景観

的価値が損なわれないよう改修工事が行われている。

行政側は、“住みたいまち訪れたいまち美濃市”を将来都市像に掲げ、自然・文化を守り育てながら、人と自然と文化の共生、そして健康と交流のまちづくりを進めている。そのまちづくりの拠点として、歴史的な町並みを活用し、ウォーキング、サイクリングを楽しむことができる、“やすらぎと潤いのある町並み”を目標に、地区内の街路にある電線類の地中化整備や歩行者に配慮した道路、ポケットパーク、案内看板等の整備が進められたことにより、町並み景観が飛躍的に向上した。

■地域の個性を活かしたイベント■

日本各地で、地域の個性を活かした様々なイベントが数多く開催され、それぞれの地域の魅力を高め、地域の活力を生み出している。

今なお、町づくりイベントは自治体中心の経済効率優先のもとで、予算措置に裏づけられた事業として進められているイベントが多く見受けられる。美濃市においては、自治体職員の献身的な努力や、自治体とは関係ない市民や住民の連携のもとで、様々な地域住民主体での地域の個性を活かしたイベントによる町づくりが盛んにおこなわれている。その中の代表的な３つのイベントを紹介する。

【美濃和紙あかりアート展】

1300年の伝統を誇る「美濃和紙」を使用したあかりのアート作品（立体造形）をプロ、アマ、国籍、年齢を問わず全国から広く募集し、和紙とあかりの美しさを競う祭典である。一般部門と小・中学生の２部門で480点（平成19年度）の出展があった。作品は、国の重要統的建造物群保存地区に選定された、江戸時代の情緒が漂う「うだつの上がる町並み」を会場に民家の軒先に並べられるが、作品は、夜間、各民家の玄関に保管するなど、住民の協力が不可欠である。展示説明、雨天の際の会場変更なども、中高生を始めとするボランテアが行うなど、市民がイベントを支えている。来場者は、１回目の約10倍の13万人に成長した。秋の夜長、訪れた者を幽玄の美で魅了する美濃市を代表するイベントである。



美濃和紙あかりアート展

【アーティスト・イン・レジデンス「美濃紙の芸術村」】

「今年は、どんな人が来るのか？」市民は秋になると、世界各国からやってくるアーティストを心待ちにする。毎年、和紙に興味を持つアーティストが海外から５～６名招待され、90日間にわたって生活しながら芸術活動を行い、市民と様々な交流が行われる。「アーティスト・イン・レジデンス」はアーティストが異なる文化や国に身を置き、他のアーティストや地元住民と交流しながら創作活動をする。

アーティストたちは一般市民の家にホームステイしながら、うだつの上がる町並みが続く市街地の工房へ通っている。空港への送迎、市内の案内、通訳、機関紙の発行、材料調達の手助け…… 慣れない異国の地での創作活動を支えているのは、40名～50名のボランティアである。工房公開や学校でのワークショップといった事業もボランティアが支えている。



美濃・紙の芸術村

【国際自転車ロードレース　ツアー・オブ・ジャパン】

美濃市は、平成16年に国土交通省のサイクルシティー推進モデル地区に指定され、自転車を暮らしに取り入れた「スローライフシティ」を目指している。平成24年には岐阜国体の自転車ロードレース会場に内定されている。

ツアー・オブ・ジャパンは、国際自転車競技連合（UCI）公認の日本を代表する自転車ロードレースで、本年は全国で７ステージが行われ、国内外17チームが参加し、美濃市は、市民ボランティア400人が第３ステージを担当する。

大会スタート地点は、「うだつの上がる町並み」の中心に位置する旧今井家住宅前。選手たちは、沿道を埋め尽くした多くの市民に見送られ、うだつの上がる町並みをパレード走行した後市内７週半（164.7km）し、美濃和紙の里会館前のゴールを目指す。

（ほりべ　つとむ／美濃市産業振興部観光課）



ロードレース　ツアーオブジャパン

1部
街道
宿場町
シリーズ

刃物のまち・関

後藤敦司

■はじめに■

関市は、岐阜県のほぼ中心に位置し、鵜飼と清流で名高い長良川の中流部にあって、「西のゾーリンゲン、東のセキ」といわれ、世界的な刃物産地ドイツ・ゾーリンゲンと並び称されるほど世界を代表する日本一の刃物産地でもある。平成17年２月に武儀郡の洞戸村、板取村、武芸川町、武儀町、上之保村の５町村と合併し、新たな関市としてスタートをした。新市の地形はV字形となり、平成17年度国勢調査によるわが国の人口重心が市内に位置する。産業観光という点では、関鍛冶の発祥以来、古くから刃物を通して世界の人々に貢献してきた歴史と伝統のある刃物文化・刃物産業を地域資産の核として積極的な展開を図っているところである。

■関市と刃物■

関市の刀鍛冶の歴史は古く、「美濃（関）伝」と呼ばれ、大和（奈良）、山城（京都）、備前（岡山）、相州（神奈川）とともに「五か伝」のひとつとして知られており、鎌倉末期から南北朝時代に成立したといわれている。その始まりは刀祖・元重が九州から関に移り住み、刀鍛冶を始めたとされている。

やがて室町時代後期ごろになると、増加した鍛冶職人の統率などを目的に自治組織の「鍛冶座」が結成された。そしてその鍛冶座の本所とされたのは、鎌倉時代末期に鍛冶職人の守護神として大和国、春日大社から分神を歓請して建立された春日神社（関市南春日町）である。この鍛冶座は奈良から移住してきた兼光の直系子孫である善定家を筆頭に、室屋、良賢、奈良、徳永、三阿弥、得印の七家によって構成された「関鍛冶七流」によって統括・運営され、美濃（関）伝日本刀はその名を全国に広めた。

応仁の乱後、戦国時代を迎え実用的な刀剣に対する需要が飛躍的に高まり、「関の孫六」で有名な孫六兼元（２代目兼元）、兼定らの有名な刀匠を生み、最盛期には300人もの刀匠を擁する刀の産地として栄えた。関の刀は「折れず、曲がらず、よく切れる」と優れた実用性を誇る名刀として多くの武将に愛用された。そのため、戦国大名が各領土を支配するこの時代には、その腕を買われた関鍛冶は大名のお抱え鍛冶として召し抱えられ全国各地へと散らばり、大いに活躍をした。

しかし、江戸時代となり太平の世が到来すると刀の需要は低下し、多くの刀匠が包丁、小刀、はさみ、鍬や鋤などの打刃物鍛冶に転向し、関は家庭用・農業用刃物の産地へと変化していった。

そして、明治時代になり「廃刀令」が布告されたことが、関の刀剣産業に大きな打撃を与え、刀剣の生産は衰退の一途をたどることとなった。

しかし、２度の世界大戦は軍需産業としての刀剣産業に再び活気をもたらした。関は軍刀の生産を一手に担う一大生産地として栄えるも、終戦と同時に刀剣製造は禁止され、関の刃物は平和産業としての道を歩み始めることとなった。

明治に始まったポケットナイフの製造をきっかけに、終戦後早くから積極的な設備投資や機械の導入が進められ、ステンレス製品を主力とする大量生産型の刃物生産が行われるようになり、近代刃物の産地として発展していった。現在では台所・食卓用刃物、包丁、はさみ、ポケットナイフ、カミソリ、ツメキリ、医療用刃物等多品種にわたり生産し、その25％以上を輸出する世界的な刃物産地となっている。刃物産業においては、昨今の国内外の経済変動、海外製品との競合等厳しい状況下で、新しい時代に適合した「エコロジー」、「ユニバーサル」、「リサイクル」の分野における新製品開発や素材の品質向上の研究に取り組んでいる。

■刃物まつり■

関市の一大イベントである「刃物まつり」は、10月体育の日の前の土・日曜日に開催される。刀祖・元重の遺徳をしのび、「刃物のまち・岐阜県関市」を内外に広く宣伝し、刃物産業の発展に資するとともに、健康で文化的な祭典とするもので、明治維新

百年にあたる昭和43年（1968年）に第１回を開催したのが始まりである。平成19年はちょうど40回目という節目を迎え、10月６日・７日の２日間で約25万人の観光客が訪れた。

刃物まつりでは「刃物の正しい使い方」「身の回りの道具としての便利さ」をPRするため、毎年内容を充実し開催している。関の市街地を東西に走る本町通りをメイン会場として行われるのが、刃物まつりの呼び物「刃物大廉売市」である。ここでは市内の刃物業者約50社がテントを並べ、包丁やはさみ、ナイフなど豊富な刃物を市価の２～３割引、中には半値以下のお値打ち価格で販売していることもあり、お店の方との値段交渉も楽しみの１つとなっている。



第40回刃物まつり

関鍛冶伝承館の鍛錬場では、烏帽子に白装束姿の刀匠が行う古式日本刀鍛錬の実演が行われる。トンテンカンのリズミカルな響きで打っては折り、折っては打つ折り返し鍛錬での飛び散る火花は圧巻。伝承館内では刀研ぎ、鞘造り、柄巻きなどの刀剣研磨外装技術も公開し、本物の職人の技を間近で見ることができる。

施設周辺の特別会場では、居合道の試し斬りや抜刀術の実演が行われ、気合とともに一瞬のうちに青竹を斬る技は見事としか言いようがない。

アピセ関では、全国のナイフメーカー約60社が一堂に集合し、日本最大規模のカスタムナイフの展示・即売を行う関アウトドアナイフショーが開催される。ナイフショーのコンテストも行われ、優秀作品を眺めるだけでもため息ものである。

■関鍛冶伝承館■

「刃物のまち・岐阜県関市」の知名度を一層向上させ、刃物産地のPRや観光客の誘致及び物産の販路拡大のために、関市全体のフィールドミュージアム化を推進することを目的として、刃物会館・フェザーミュージアム・春日神社の刃物関連施設が集積する地域を「刃物文化の拠点」と位置づけ、その核施設として関市産業振興センターをリニューアルし、「関鍛冶伝承館」として平成14年10月８日（火）オープンした。


古式日本刀鍛錬

１階は、兼元・兼定などの重要刀剣をはじめとする日本刀や刀装具などの展示や、その製造工程・歴史に関するさまざまな資料を映像・展示により紹介。日本刀鍛錬や技能師の実演場もある。２階は、関の刃物文化が生んだ包丁やはさみなどの近代刃物産業製品、国内外のカスタムナイフ作家のナイフコレクションの展示、関の刃物に関するパソコンクイズコーナーもある。また、特別展示室では現代刀や赤羽刀等を展示する特別展を年４回開催している。


関鍛冶伝承館

■「刃物のまち」関市の今後■

市全体を、地域の歴史、伝統文化、自然で結び、新たな観光拠点と広域的なフィールドミュージアムを形成し、「見る・触れる・体験する・味わう」観光づくりを推進する構想の中、刃物産業観光資源（古式日本刀鍛錬、関鍛治伝承館、フェザーミュージアムやナイフ博物館などの民間刃物施設）をひとつのキーワードにして、観光客が自然体験、水資源など他の観光キーワードと組み合わせ地域内をいきいきと周遊できるようなハード・ソフトを含めた観光ネットワークづくりを進めている。今後とも、刃物産業観光資源間の更なるネットワーク化を図り、「刃物の拠点」を含む市中心部の歴史・文化と施設を結ぶ「歩ける観光づくり」をPRし、個性ある観光地づくりの推進により、観光客の誘致を図るとともに、産業観光の更なる発展を目指したい。

（ごとう　あつし／関市環境経済部商業観光課）

1部
街道
宿場町
シリーズ

郡上八幡
水と町家の城下町
－まちづくりのあゆみ－

齊藤知恵子

■はじめに■

郡上市八幡町は岐阜県のほぼ中央に位置し、郡上八幡市街地の西側に長良川が流れ、その支流吉田川が市街地を南北に二分し、北側を北町、南側を南町と称している。

八幡城としての創建は永禄２年（1559）とされており、南に吉田川、西に小駄良川が流れる自然の壕を有していた。また近隣への交通の中心地であるとともに、飛騨・越前に通ずる重要な地点であった。城下町として整備されたのは、承応元年（1652）の大火で北町が焼けた後、寛文７年(1667)に城を改修した機会に城下町を整備したとされている[1]。その後大正８年の大火で北町はほぼ全焼し、南町は西部に市街地を拡大しながら、近代を経て、近世初期の町の骨格は現在まで継承されてきた。

郡上八幡は山や河川などの自然景観と、伝統的水利用施設[2]による水辺空間や城下町の町割や町家群からなる歴史的町並みといった歴史的資源を豊富に有している。近年では郡上おどりだけでなく、このような水と町並みによる景観が観光客をよび、またこれら歴史的資源を活かしたまちづくりを視察に訪れる団体も多い。

■水の町　郡上八幡■

－官民で取り組んだ水を活かしたまちづくり－

１　これまでの取り組み

(1) 水環境調査研究グループによる調査と水を活かしたまちづくり構想

昭和48～51年に多摩美術大学渡部一二教授を中心とする研究グループにより、郡上八幡の水環境について調査が行われた[3]。町に張り巡らされた水路や河川、井戸、水舟・水屋などの施設概要、使用方法、組合などの利用実態を報告し、昭和52年日本建築学会でその結果を発表された。

水舟とは、山水などの湧き水を引水し、はじめのきれいな水を飲用水に、次に野菜を洗うゆすぎ水、その次に食器を洗う洗い水に使用し、水舟の下に設けられた池の川魚が食器に付着した残飯を餌とし、最後に川に戻すものである。このように段階的に多目的に水を利用するシステムは八幡の市街地全体でもみられ、町が「水舟」のもつ原理を活かした構造となっており、この調査は、城下町でさらに町なかでこのような水循環システムを有する地域としての高い評価と住民へその価値を認識させるものであった。

この調査結果を受けて、昭和57年八幡町では「八幡町　水を活かしたまちづくり構想」を策定し、同59年の八幡町第一次総合計画では「水と踊りと心のふるさと」をまちづくりのテーマとし、同60年には「八幡町ポケットパーク構想」を策定した。

(2) 水を活かしたポケットパーク整備

八幡町ではこのポケットパーク構想と平行しながら昭和59年から平成９年の間に34箇所のポケットパークを整備した。

第１号の八幡小学校脇の島谷用水を利用した水車ポケットパークをはじめ、代表的なものとしては、やなか水のこみち（昭和62年)、吉田川親水遊歩道（平成３年)、いがわこみち（平成４年)、桝形水屋ポケットパーク（平成６年)、また歴史的水路として平成２年に柳町用水、同４年に北町用水（職人町・鍛冶屋町町内）が竣工した。歴史的水路の整備では、当時のコンクリート三面張り(それより前は石積みであった)を郡上石三面張りとし、各戸前にセギ板を落とし込める溝を設け、水路の蓋も建物へのアプローチ分のみとし、木橋や石橋を設置した（写真１、２)。



写真1、２　柳町歴史的水路
改修前（左)、改修後（右）

(3) 民間団体による活動

□ 町並み保存会の設立

北町に位置する柳町・職人町・鍛冶屋町で当時の水路の老朽化による漏水から改修する際、それぞれの町内で全戸加入の町並み保存会を設立し、大正期以降の町並みが残る地区として町並み保存とともに水路も歴史的水路として改修することとなった。

保存会には水路委員会、景観委員会、建物審査委員会の３つが設けられ、昭和61年に柳町、平成３年に職人町、平成５年に鍛冶屋町で町並み保存会が設立した。

柳町と職人町の水路委員会と景観委員会では町内のポケットパークや水路の維持管理を行っており、日々の清掃だけでなく、木橋やセギ板の取り替え、ポケットパークのボットリ小屋や木製ベンチの修繕といった、施設の維持管理を行っている[4]。また大正８年の大火後に軒下に掛けるようになった町名入りのバケツは保存会で継承し、掛け替えた。

□ その他水に関する住民組織

住民有志によるさつきの会では島谷用水に魚を放ち、また取水口からいがわこみちまでの管理、「水の町　八幡」のステッカーの配布、愛宕町内の吉田川への排水口で炭を使用した水浄化実験に取り組んだ。八幡町連合婦人会（現八幡連合女性の会）は保存会地区以外の町内での軒下へのバケツ掛けを実施し、いがわの会では修景された島谷用水いがわ小径を管理し、水路に川魚や鯉を放ち、飼育している。

(4) 街なみ環境整備事業

吉田川を挟んで南北にまたがる市街地の中心部９町内を事業範囲として平成13年度から街なみ環境整備事業が導入された。事業に先立ち、後述するまちなみづくり町民協定の締結も含め、整備方針は住民ワークショップを開催しながら進められた。

事業には道水路の整備、通りの夜間照明や吉田川遊歩道の照明整備、後述する建物修景助成などあるが、その中で伝統的水利用施設の修景補助としては共同井戸（左京町１箇所／平成14年）とエイ箱（新町13箇所／同14年、今町２箇所／同15年）がある（**写真３、４**）。



写真３、４　左京町共同井戸
改修前（左）、改修後（右）

エイ箱とは用水の一部を敷地内（軒下）に引き込み、箱状の池を設け、網目状の蓋をして魚などを入れる、住民の私的な水辺施設である。主屋建物と用水路との間に配置され、引き込まれた水はまたすぐ水路に還される。エイ箱はかつて水路へ降りられる階段が設けられた洗い場に併設されていたが、現在島谷用水の新町・今町では洗い場は滅失し、エイ箱だけが残っている。新町では21箇所、今町では８箇所と集中して有するのはこの地区の特徴といえる。

２　水辺空間調査と歴史的資源を活かしたまちづくり

(1) 水辺空間調査

昭和50年頃の調査からおよそ30年が経過し、上下水道整備も進み生活様式も変化がみえてきた。郡上市では伝統的水利用施設の現状を把握することが今後の水を活かしたまちづくりに必要であると考え、平成16年度現況把握のための調査を実施した[5]。

□ 現存する伝統的水利用施設の現存状況

水環境調査研究グループの調査結果を参照にしながら現地を目視にて確認し、またそれ以外にも確認できた施設を種別毎に分類し（**表１**）、水路網図に位置を落とした（**図１**）。

乙姫谷川東岸と中坪向山・尾崎町での昭和50年頃の調査結果と比較すると**表２**のようになる。乙姫谷川東岸ではカワドはよく残っているが、共同井戸の多くはマンホールで蓋をされた井戸跡となっている。中坪向山では個人水屋が多かったため確認できた施設は少なかったが、尾崎町では共同水屋と共同井戸のすべてが確認できた。

表１　確認できた伝統的水利用施設　種別と箇所

施設の種別	箇所	内訳
水屋・水舟	30	共同水屋９、個人水屋６、個人水舟13、個人山水１、個人山水跡１
湧水井	6	湧水井４、湧水井跡２
井戸	54	共同井戸17、共同井戸跡18、個人井戸17、個人井戸跡２
洗い場・カワド	41	洗い場・カワド22、洗い場・カワド跡５、個人洗い場６、個人洗い場跡１、セギ７（柳町用水、職人町用水を除く）
エイ箱・エ箱	32	エイ箱・エ箱30、エイ箱・エ箱跡２
その他	20	取水口９、水門６、防火水槽２、水利遺構３

表２　伝統水利用施設　昭和50年頃の調査結果との比較

地域	昭和50年頃	平成16年度
乙姫谷川東岸	カワド11、共同井戸21	カワド９、カワド跡２、共同井戸４、共同井戸跡14
中坪向山	共同水屋２、個人水屋12、共同井戸１、個人井戸２、湧水井１、洗い場２	共同水屋３、個人水屋跡１、湧水井１、洗い場跡２
尾崎町	共同水屋７、共同井戸２、個人水屋８	共同水屋７、共同井戸２、個人水屋４

□ ポケットパークの実態調査

ポケットパークに水にかかわる施設を加えた40箇所のうち、水辺空間施設がない13箇所を除いた27施設で現地調査を行い、利用状態、維持管理、施設のいたみ具合について５段階で評価した。その結果、滅失し

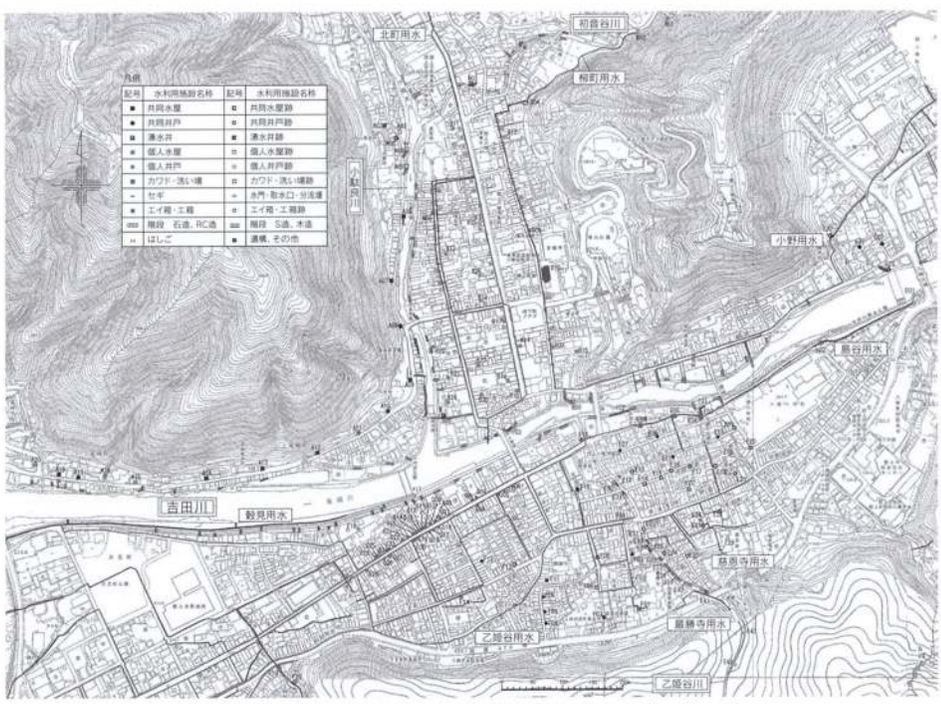


図１　郡上八幡　伝統的水利用施設配置図　平成17年３月

たものは2箇所であったが、比較的よい利用状態のものは20施設で約74%、維持管理については3分の2が比較的よく維持管理されているが、3分の1では低下がみられた。施設のいたみ具合については全体的に木製部分にいたみがみられたため、整備当初からの経年を考えても修繕や改修が必要な時期にきていると思われる。

□ 利用者実態・意識調査

現在、住民の生活の中での水利用状況、意識や水を活かしたまちづくりへの要望などを把握するため、比較的利用頻度が高いと思われる水利用施設を有する地区を選定し(13地区551軒)、アンケート調査を行った。

調査内容は、水利用施設（河川、用水・水路、カワド、共同井戸、山水共同水屋）毎に施設の利用状況（利用の有無、目的、頻度、管理、問題点)、水環境全般の評価・印象（郡上八幡らしい水環境、水質・水量の評価、日常的に気をつけていること、水を活かしたまちづくりに向けて思うこと）とし、回答率は全体で77%であった。

日常生活に密着した水利用は高齢者ではみられるものの若くなるほど減少しており、生活様式の変化と上水道の整備により水離れの進行がよみとれた。一方で水を感じさせる設えとして新たに水舟を店先に設置することは水の町らしさを表現する手段として浸透しているものと思われる。

(2) まちづくり交付金事業

平成16年度の調査結果を住民に示すとともに、水利用施設を見直すきっかけとするため、翌17年度は市街地の水辺資源を廻る町歩きとこれら資源を今後どのように活かし、また守っていくかといったまちづくりの方針を策定するためのワークショップを開催した。

整備方針は、水門の保存や導水路の改修、水路の可能な部分を開渠とした水に親しむ整備活用、共同井戸や水屋・水舟の上屋の修景、井戸跡の表示、ポケットパークの修繕、景観や防災などの視点からも水辺資源の活用を考えることとし、地域が主体となって取り組むこと、地域への支援・助成、行政が主体となって取り組むことについて話し合った。

これを都市再生整備計画に盛り込み、後述する歴史的建造物も含め、歴史的資源を活かしたまちづくりを目指し、平成18年度から5年間でまちづくり交付金を導入して事業化することとしている。

行政主体の取り組みとしては、これまでに整備した施設の修繕や修景や水路の改修などを行うものとし、平成19年度には島谷用水のいがわ小径のデッキを改修した。民間への支援としては共同のものや通常通りから望見できるものを対象とした修景助成とし、平成19年度には尾崎町の共同水屋の修景に対して助成した。

(3) 今後の課題

これまでの調査やまちづくりへの取り組みでは一定の成果は得られてきたが、近年の生活様式の変化に伴い、水離れが起こっていることも事実である。今後も水の町として水の恵みを受けるようなまちづくりを推進するためにも、「城下町と水」による景観や町の構造に関する歴史的価値を再認識し、これからのまちづくり方針の中心となるような位置付けをすることが必要と考えられる。そして水離れに対しては、現代の日常生活の中で水路や洗い場、水屋を利用することへの新しい意義と価値を発見し、日常生活の中でこそ水に関わる行為は人々の生活を豊かにし、誇りにつながるといった価値観を持ち続けられるようなワークショップや住民の意識醸成の支援が必要と考えている。

■郡上八幡　町家千軒！■

ー町並み保存と景観形成ー

1　これまでの取り組み

(1) 町並み保存会の設立

先述した水路の改修とともに町並み保存に取り組むものとして八幡町では昭和59年度に柳町・職人町・鍛冶屋町、同60年度に常盤町・北朝日町・南朝日町で歴史的建造物調査を行った。その結果を受けて、町並み保存会が設立し、建物審査部会と町並み保存会建築基準がつくられた（表3）。

柳町町並み保存会では、「柳町を流れる柳町用水の管理及び美化に努めるとともに城下町として受け継がれてきた風情ある古い町並みとその建築様式の良き伝統を保持し後世に伝承しようとするもの」とし、「柳町地内において家屋の改築、増築又は新築を行う場合には「柳町町並み保存建築基準」に基づき、その歴史的な建築様式を残し、誇り高き調和のとれた町づくりをするために協調、努力するもの」としている。

建築基準で特徴的なものとしてあげられる建物意匠の基準をみると以下のようになり、歴史的建造物の意匠の特徴を反映している。



写真5　柳町町並み保存会地区中柳町の町並み

(2) 景観形成事業と郡上八幡景観条例の制定

平成3年景観形成事業計画の中で、景観形成に関する規制と民間活動支援、景観に配慮した公共事業の実施を進めることとし、同年景観形成に大きな影響を及ぼす大規模建築物に対する規制、民家や工作物、樹木などの景観形成建築物等の指定保存、良好な景観形成に寄与した個人や団体に対する表彰、景観審議会の設置をもりこんだ郡上八幡景観条例を制定した。市街地地区を対象としたこの条例では、延べ床面積500㎡以上または高さ11m以上の建築物、見付面積50㎡以上の工作物、見付面積10㎡以上の広告物で建築行為（新築・改築・

表3　町並み保存会　建築基準

全体	道路に面する部分は、できる限り木造とし、板壁又は真壁とするが、やむを得ない場合は周囲の景観等に考慮し全体の調和を図る。
色彩	色彩の基調は紅殻とする。（柳町・鍛冶屋町） 色彩は町並みに合った色とする。（職人町）
屋根	屋根の軒先は板どめを設ける。
軒裏	軒裏は垂木を見せる。
庇	庇はつとめて「せいがいつくり」とする。
袖壁	2階袖壁を設ける。
建具	道路に面する建具はつとめて木製とし、1階の道路に面する部屋の建具は掃き出し建具とする。住居・店舗の1階で道路に面する部分は、つとめてその場所にふさわしい格子又はしとみを設ける。（柳町・鍛冶屋町） 道路に面した建具はつとめて木製品とし、やむを得ずアルミ等の金属製品を使用する場合は、金属感を出さないものとする。（着色したもの）（職人町）

増築・模様替え・色彩変更）をしようとするときは、あらかじめ市長へ届け出る制度となっている。

民間への支援としては先述した町並み保存会への活動助成を行い、公共事業としては先述したポケットパークの整備や街なみ環境整備事業の導入がある。

表彰に関しては、歴史と文化が息づく城下町を、より美しく守り育てるため、郡上八幡の景観にあった建築物やまちづくり活動を表彰する制度として平成７年にはじまり、平成17年の第６回景観賞は建築部門５件、工作物部門１件、活動部門１件であった。

(3) 自主協定の締結

□ 街なみ環境整備事業のルールづくり

平成13年度の街なみ環境整備事業の導入に先立ち、住民によるルールづくりとして、「郡上八幡市街地中央区域　まちなみづくり町民協定」が平成14年９月に締結された。自然と歴史に育まれた城下町、郡上八幡の景観を守り、創造し、生き生きとしたまちを実現するために、建物や敷地の修景あるいはこれと関連する事項を定め、区域の総合的な環境向上を図ることを目的とし、９自治会で締結された。

各自治会から建物審査委員を１名選出し、建物等審査委員会を組織し、区域内で建築物等の新築、増築、改築、大規模の修繕、宅地の造成、土地の形質の変更、その他まちなみの形成に影響を及ぼすおそれのある行為をする者はまちなみづくりのルールに適合するよう努めることとしている。届け出制度は建築物の見付け面積３㎡以上、広告物は見付け面積１㎡以上の場合は原則１ヶ月前までに建物等審査委員会に届け出ることとなっている。

表４の審査項目のうち、高さや壁面位置、建物意匠については通りにより幅員や特徴が異なるため、通り毎に基準を定めている。

□ 建蔽率緩和と自主協定締結区域の拡大

平成15年市街地住居系用途地域の建蔽率が見直され、60％の地域を町並み保存の理由から建蔽率を緩和し80％となった。この担保として21自治会では平成16年１月に北部・東部・南部区域でまちなみづくり町民協定を締結した。北部には町並み保存会が含まれるため、保存会地区では協定に保存会の建築基準を反映させている。

街なみ環境整備事業から取り組んだ中央区域と保存会を有する北部区域では届出件数が多く、一方東部・南部区域では少ないため協定について啓発が必要と思われる。

表４　まちなみづくり町民協定　審査項目

審査項目	内訳
高さ	２階軒先高さ、３階セットバック、１階庇高さ
壁面位置	軒先後退
建物意匠	屋根、壁面開口部、分節 ※保存会地区はそれぞれの保存会建築基準を準用する。
色彩	屋根、外壁主色、真壁造りの格子・外壁・袖壁、側壁
看板	大きさ（壁面看板・袖看板）、デザイン、その他（吊り・置き・側壁・窓面看板）
設備機器	エアコン、その他設備機器

(4) 建物修景助成

街なみ環境整備事業では建物審査委員会の承認を得て、補助基準に適合するもので、町並みの景観形成について他の模範となる事業に対し、平成15年度から工事費の３分の２以内かつ項目毎の限度額以内（合計76万５千円）で助成している。平成16年度から協定締結区域内が拡張したことにより対象区域が広がり、伝統的な建築物に準じた修景がみられるようになってきた。

2　歴史的建造物の現況調査とまちづくり

(1) 悉皆調査

□ 調査の目的と方法

市街地内では一部の地区で保存会を立ち上げ、景観条例や自主協定により景観形成について取り組んできた。しかし、地域活性化や空家活用、定住化の促進などまちづくりの課題に対しては、市街地内の歴史的資源の現況を把握し、保存活用をはかり、これらを活かした地域固有のまちづくりを進めていくことが必要と考えられる。

そこで、まちづくり交付金を導入して歴史的資源を活かしたまちづくりを推進するため、平成17年度、工学院大学建築都市デザイン学科後藤治教授に助言・指導をいただきながら市街地内で歴史的建造物の悉皆調査を行った[6]。調査対象とした建造物は、国登録有形文化財が築50年を一区切りとしていること、また予備調査で昭和戦後期に建てられた建造物でも伝統的な意匠や構法を確認できたことから、外観から判断して伝統的な建造物を調査対象とした。ただし、町家などの住宅建築を中心とした調査としたため、寺社は対象としなかった。

ここでは、歴史的建造物の分布と数量の把握、外観の特徴を整理するため目視により、構造規模、外壁や開口部、屋根や軒の仕様、細部意匠を調査項目とした。

□ 調査の結果、歴史的建造物の特徴

調査した46町内で1237棟におよぶ歴史的建造物が確認できた（**図２**）。そのうち、歴史的建造物が50％以上を占める地区は北町で７町内、南町で９町内みられ、町並み保存会を有する地区以外の周縁部にも多くの歴史的建造物が存在することが明らかとなった。



写真６　建物修景助成の事例（平成16年工事前）



写真７　建物修景助成の事例（平成16年修景後）



写真８　周縁部（尾崎町）の町並み

その多くは店舗を併用する住居または専用住居の町家建築であった。そのほか、外観は町家と類似しているが間口が広い農家型、柱や壁を共有する長屋、町家より広い屋敷型、看板建築や洋館などもみられた。

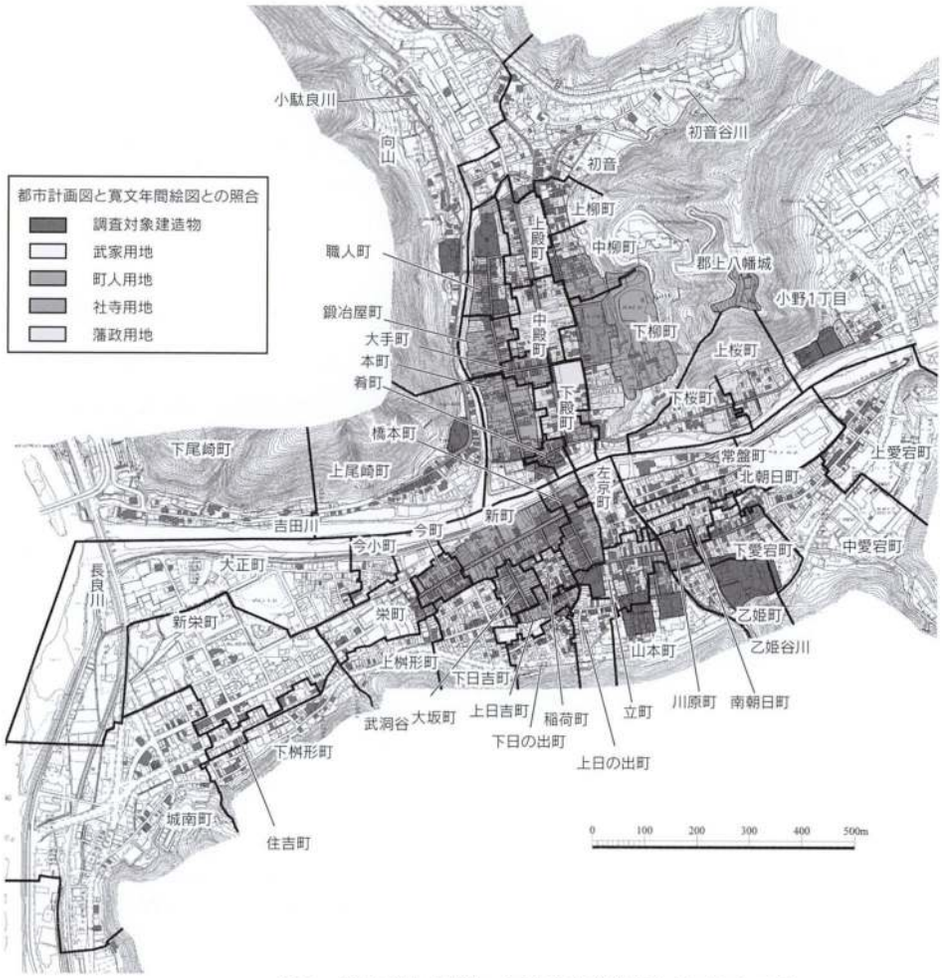


図2　郡上八幡市街地　歴史的建造物分布図（上方が北）

土蔵については通りに面して建てられることは少なく、屋敷地奥は視認しづらいことから確認できたのは16棟であった。

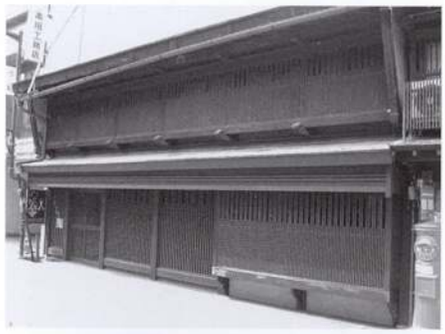




写真9、10　建築物の意匠細部
上　2階格子、1階庇に幕板、大戸、格子。
下　2階に高欄と木枠ガラス窓

歴史的建造物の約9割は木造2階建てで平屋や厨子2階もみられるが、外観からの印象ではほぼ総2階であると思われ、総じて2階化が進んだ町並みといえる。屋根は切妻造り平入りが最も多く1125棟、そのうち金属板葺きは928棟であった。間口は2間半～3間程度のものが多い。屋根については大正8年の北町の大火により板葺きから金属板葺きに移行したものと思われる。外壁の多くは真壁であり、現在では漆喰、板貼り、ほか新建材など混在しているが、当初仕上げは漆喰であったと思われ、漆喰の色は白、卵、鼠がみられた。軒は「せいがいづくり」といわれる木部を表した造りであり、板庇と持ち送り、垂木と持ち送り、これに軒天井が付く場合など多様であった。

細部意匠としては格子、高欄、袖壁、幕板、蔀戸、けらばの反りなどがあげられる。袖壁は57.1％と最も多く重要な外観意匠で、その中でも軒の垂木に付き奥行きが深い袖壁で深い軒をつくるものと、軒の腕木に付き袖壁の張り出しが少なく軒高も比較的高くなるものとがあり、同じ袖壁でも町並みの印象は異なるものとなっていた。

(2)「郡上八幡　町家千軒！」と実測調査

郡上八幡市街地地内では1000軒を超える町家などの歴史的建造物が多く存在していること、また切妻平入真壁造り、漆喰壁と木部紅殻塗りといった共通点と、そのほかの細部意匠には様々な要素がみられたことを「郡上八幡　町家千軒！」として瓦版を配布し、住民報告会を開催した。

そして、歴史的建造物の価値を明らかにし、景観形成建築物の指定や空家活用、修理修景の方針づくりや木造密集地の防災対策などさまざまなまちづくり課題に取り組むため、翌平成18年度からまちづくり交付金を導入して約1200棟のうち、典型的なもの、特徴的なもの、通りの景観で重要なものなどを対象に、工学院大学後藤治教授に指導を仰ぎながら100～120棟の実測調査を始めた。この実測調査では、建造物の特徴を把握することに加え、間取り、通り土間や吹き抜けや天窓、箱段などの内部空間や住まい方についても調査することで住民への意識醸成を促すものとして取り組んでいる。

(3) 今後の課題と展望

この実測調査を進める中でも、歴史的建造物が取り壊され、新築されたり、駐車場として更地になっている現象がみられる。この調査で建造物の歴史的価値付けがされることにより、町並みを構成する個々の建造物が見直され、まちづくりの資源としてだけでなく、住みつなげていくことへの意識の変化を期待したい。

そのためには文化財制度のさらなる活用や、景観法と併せて郡上市の景観形成の中でも歴史的町並みを有する地区としてまちづくりを推進し、郡上市内の他の地域との歴史や文化の繋がりを深めていくことが必要と考えられる。

また、建造物の調査に加えて都市史として城下町の構造についても歴史的な調査や評価と価値付けを行いながら、今後のまちづくり課題へ活かしていきたいと考えている。

■城下町をとりまくまちづくり課題■

－交通体系と空家活用－

(1) 交通体系

①これまでの取り組み

交通体系に関しては、市街地の周縁部にバイパス道路を整備し、昭和63年には市街地の主要施設方向指示板や案内板等のサイン整備を行った。市街地内への交通量が増加するなか、平成13年には八幡町交通円滑化会議を発足、交通社会実験の実施や路線バスの折り返し地点となる城下町プラザの建設とともに、路線バスの運行ルートを市街地内から外周道路へ変更した。平成14年にはコミュニティーバスの運行実験を行い、平成15年には市街地循環バス（まめバス）が本格運行となるなど、水や町並みへの取り組みとともに、交通体系についても併せて推進してきた。

②都市計画道路の廃止

平成８年の八幡町都市計画マスタープランでは、北町の中心を南北に走る殿町通りを南へ延長し、新たに橋を架けて南町へつなげる都市計画道路（山本～初音線）について、市街地の交通体系のあり方として、今後の市街地が目指すまちづくりに必ずしも整合が取れているものではなく、見直しが必要であると示された。平成10年に発足されたまちづくり協議会でも現行の計画では観光交通や通過交通の流入をより誘発し、市街地の景観や町並みを崩壊させるとして見直しの検討が必要としていた。

そこで、平成14年に利害関係住民との意見交換会を実施し、沿線自治会から20年以上前に計画された山本～初音線の未改良部分整備実施については、現状の町の形態、地域コミュニティーの分断、交通安全面等において問題があるものとしてその廃止を提言され、都市計画道路の廃止へとつながった。

③現在の取り組み　交通誘導と案内板整備

中心市街地では、大型バスについてはバイパス道路沿い或いは北町に整備した駐車場で対応しているが、自家用車で訪れる個人観光客に対しては、市街地内の駐車場を探す迷い車がみられるといった課題がある。

これに関してはバイパス道路沿いの市営駐車場が有効に利用されることで対応できると考えられるので、新たな駐車場を市街地内に整備するのではなく、適切な交通誘導こそが必要と考え、住民の生活を守りながらも、来訪者にわかりやすい交通誘導を目指し、平成18年度よりまちづくり交付金事業で車両系の交通誘導と車両系・歩行者系の案内板整備を実施するよう計画している。

(2) 空家活用

①実態調査と空家活用実験

空き家活用に関しては、平成８年度に実施した空家調査をもとに、平成11年度は中心市街地の空家112軒の建物の状況調査や基本方針と課題の検討を行い、同12年度は市街地の42町内で207件を調査した結果、170件が空家（伝統的町家117件、改築された町家19件、伝統的住居22件）で、アンケート調査と28件の内部調査を実施した[7]。同13年度に空家活用実験に向けたワークショップを開催し[8]、同14年度に職人町で町家１軒を貸切り、10店舗が入る１年間の空家活用実験を実施した。

②奥美濃チャレンジショップでの空き家活用

市内の農村部と市街地との交流促進と郡上市全体の活性化を図るものとして、平成18年度５地域11団体が白鳥会場で10月の休日４日間、八幡会場で11月の休日７日間、市が仲介し、空き家を借りて物品の販売等を実施した。

このチャレンジショップでは町家の活用が主目的ではなかったが、八幡会場の一部では町家を借りることができた。しかし、短期間での物品販売となると軒下で、通りに直接面して商品を並べるところが多く、建物の中で町家の空間を活かした販売とはいかなかったようである。

③今後の課題

空家活用実験とチャレンジショップから実際に空家を借りて店舗を出すことへもつながったが、継続的なシステムの構築には至らなかった。今後は貸し手の不安を解消できるよう、歴史的建造物実測調査の結果を活かして、建築的工夫を検討し、まちづくり交付金事業の「歴史的資源を活かしたまちづくり」の中で、期間限定の短期貸しや、土間や「みせのま」部分または１階のみなど部分貸しなどが実践できるよう貸し手への働きかけや、地域活性化につながるような交流の場を設けたいと考えている。

■さいごに■

郡上八幡では水辺資源や歴史的建造物そのものの保存ではなく、これらを活かすためのハード整備や景観形成に取り組んでおり、これが町の魅力につながっていると考えられる。今後はさらに、多様なまちづくり課題に対して、もう一度水辺資源や歴史的建造物、城下町の構造といった歴史的資源を継承し、官民で歴史的な価値を共有しながらまちづくりに取り組んでいきたい。

〔参考文献〕

1）八幡町役場（1960）『郡上八幡町史　上巻』
2）渡部一二編（2005）『水辺空間調査報告書－郡上八幡の水を活かしたまちづくりに向けて－』郡上市八幡地域振興事務所基盤整備課
3）水環境調査研究グループ（1977）「郡上八幡の水環境」『都市住宅7703』
4）マヌ都市建築研究所編（2006）『郡上八幡市街地地区　都市再生整備計画策定委託報告書』郡上市八幡地域振興事務所基盤整備課
5）齊藤知恵子、三浦卓也（2007）「郡上八幡における歴史的資源調査－歴史的資源を活かしたまちづくりにむけた歴史的建造物悉皆調査－」（社）日本都市計画学会都市計画論文集No.42-3
6）八幡町（2000）「空き家の実態及び活用方策基礎調査」
7）八幡町基盤整備課（2001）「八幡町の空家の実態と特性－八幡町市街地空き家現況調査報告書－」
8）八幡町基盤整備課（2002）「空き家の利活用調査」

〔註〕

1　参考文献１）
2　伝統的水利用施設とは、郡上八幡にみられる河川や用水路に設けられた洗い場・カワド、用水路のセギ、山水等を引水した水舟（上屋付きを水屋と呼ぶ）、井戸、地盤面に埋め込まれた湧水池（湧水井）を指す。参考文献２）
3　参考文献３）
4　これら保存会の活動については１団体に対し、活動費の２分の１以内かつ上限30万円を市で補助している。
5　参考文献２）
6　都市再生整備計画策定委託業務の中で実施し、悉皆調査の結果については都市計画学会で報告した。参考文献４）、５）
7　参考文献６）、７）
8　参考文献８）

（さいとう　ちえこ/郡上市教育委員会教育課）

光と風を導くPCa版のソーイングルーフ

鈴鹿市立旭が丘小学校

三重県鈴鹿市

日建設計
設計部門副代表兼設計室長
若林　亮





ソーイングルーフによる柔らかな光に包まれたワークスペース（上）と教室（下）

明るい環境に明るい心が育つ…。鈴鹿市立旭が丘小学校の教室は柔らかな自然光に包まれています。
従来のマッチ箱のような鉄筋コンクリート造の校舎の教室は、窓際の席は明るい一方で廊下側の席は暗い、また、夏は窓際の席は暑く、冬は北側の席が寒い。断熱材も施されていない劣悪な環境の中で子どもたちは一日の３分の１の時間を過ごしています。
この新校舎の設計にあたって、私達はエコスクールをテーマに「太陽の光」、「風」、「雨」といった自然の恵みを素直に活かし、豊かな空間と快適な学習環境を提案したいと考えました。

旭が丘小学校は１学年５クラス、オープンスクール型の大規模校であり、大地に近い環境が子どもたちには良いと考えて２階建てのクラスター型の校舎としました。職員室の近くが望ましい１年生の教室を除く２年から６年生の教室を全て２階に設け、その教室・ワークスペースの屋根には、PCa版のソーイングルーフ（ノコギリ屋根）を掛け、高窓から学習環境全体に自然光と風を導く計画としています。

以前に鉄骨造でソーイングルーフを計画した際に、その窓の有効高さは鉄骨梁が高窓の上下に必要なこと、防水の立ち上げなどの理由から小さくなった経験があり、今回は梁と防水の立ち上げが兼用でき、また、教室・ワークスペースの16mスパンを無柱で計画できるPCa版で構成することとしました。
PCa版の長さは、工場から敷地に運び込むことができる最大の長さであり、16mスパンを一本のPCaで構成することにより教室とワークスペースの間の柱をなくすことができ、教室のフレキシビリティが高まったこともPCa版を採用した利点となりました。
上部に溜まった熱気を抜くためにPCa版に設けた窓には一本置きに電動の引違い窓を設け、また、ソーイングルーフを４分の１円の円弧状とし北東向きに設けられた窓からは、間接光が室内に導かれ柔らかな光に包まれる学習環境ができました。

昨年の夏に環境実測を行った結果、照度は終日、教室で必要とされる500LX以上を確保できており、光熱費の６分の１を占める照明電力の削減に運用によっては大きく貢献できることが確認できました。

明るい環境にこそ明るい心が育まれる…。このことは未来を背負う子ども達の環境として経済や環境では計れない価値となることを願います。



108枚のPCa版が掛けられたクラスター型の校舎



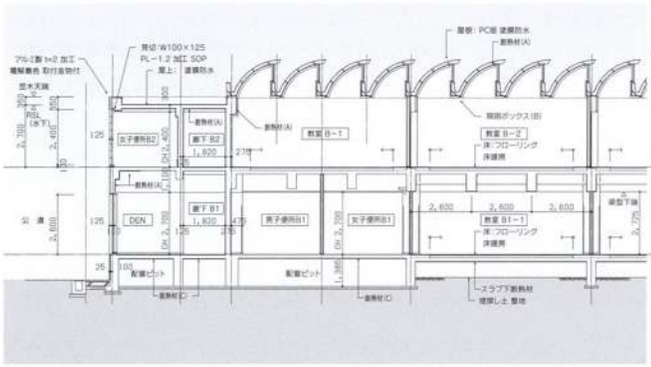
ソーイングルーフが特徴的な校舎の外観

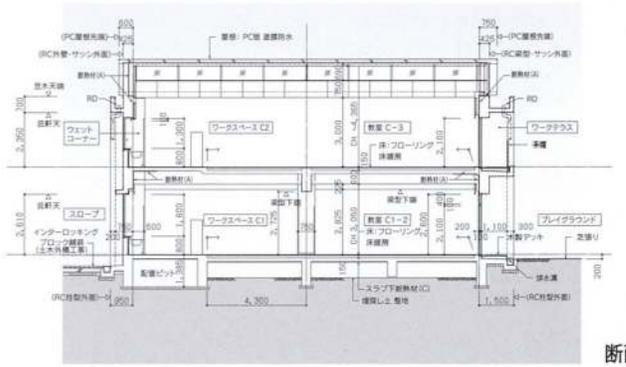


ダブルTのハーフPCa版によるふれあいギャラリーの天井



棟と棟の間に設けた芝生の中庭





断面詳細図

サスティナビリティを象徴する免震フルPCa大規模物流施設

プロロジスパーク セントレア

竹中工務店
設計部
今宮実三郎　後藤泰雄



倉庫内部



倉庫内部（中央車路20mスパン）



南側外観



中部国際空港側から見た外観

建築主であるプロロジスは、世界一の物流施設グローバルプロバイダーとして、物流施設の建設・運営と物流関連サービスを世界各国に提供しています。

プロロジスパーク セントレアはセントレアの清新性と力強い息吹を意識してコンセプトが検討されました。その結果、企業のサスティナビリティを象徴するようPCa（プレキャスト）化と免震構造により、高品質・高強度で損傷や劣化の少ない建築を、短工期で提供することを目指すこととなりました。

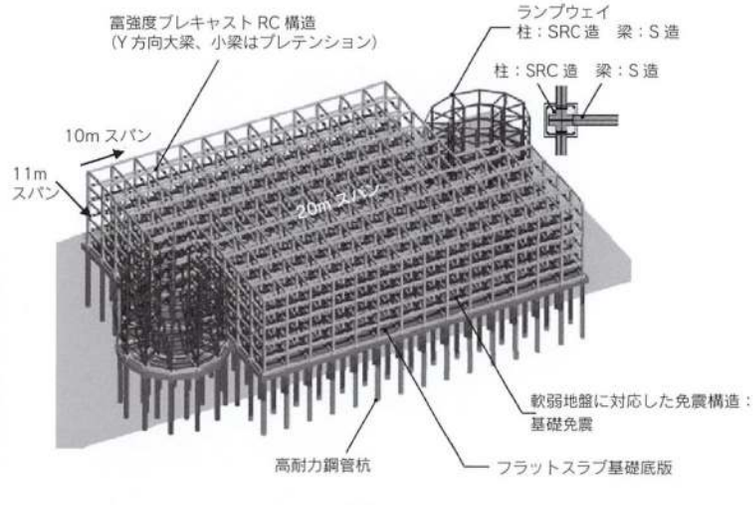
建物は、最大階高7.6mに達する５層の倉庫・荷捌き空間が、中央部を貫く幅20mの車路で東西ブロックに区分される形になっており、棟の南北に設置された昇降ランプから42トン級セミトレーラーが乗り入れできる構造となっています。

上部構造はスパンが長く、大きな荷重がかかるため、柱・梁に工場生産の高強度RC造PCa部材を採用しました。プレテンション方式で工場製作した高強度梁を導入し、梁成をコンパクト化すると共に、柱・梁を接合する現場打ち部分に鉄筋機械式継手を採用し、品質・強度と施工性の向上をはかりました。

優れた剛性を確保しつつ、スレンダー化がはかれたことにより、空港島内の高さ制限をクリアーする階高を抑えた躯体構造が合理的に実現されました。



PCa部材建込みの様子



構造概要図

3部
座談会

21世紀委員会の活動と人にやさしいまちづくり

星野広美
・
21世紀委員会
篠原佳則　若林　亮
松元親司　冨田昌志
山本敦子　中井孝幸
高木耕一

篠原　この21世紀委員会は当時、人にやさしい街づくりを進めるにあたって「原理・原則を知ろう」ということで、「ひとにやさしいってなに？」についての勉強会や、シンポジウムを行ってきました。実は今年度より21世紀委員会を再開しまして、もうすこしほかの視点で活動をおこなっております。


篠原佳則氏

去る5月22日におこなわれた日本建築協会東海支部の総会で、星野さんに講演をいただきました。そのなかで問題提議があったことについて、皆さんの意見をもらえたらと思います。また日本建築協会東海支部として、今後どのようなことができるのかなど議論できないかと思っております。それでは、最初に星野さんからお願いします。

星野　1995年に愛知県の人にやさしい街づくり条例ができて13年が経とうとしています。ずいぶん街がよくなったという認識は持っています。ただ、最近になってどうも変な事態が起こっています。そのことについてもお話しします。


星野広美氏

この条例は、すべての県民が円滑に利用できるようにというのが基本になっています。実は10年経ったらこの条例はいらなくなると当時は言っていました。でも実際はまだまだ必要な状況だと思っています。

当時の課題は、「やさしくない街づくりをやさしくする」ということで、街づくりのやり方そのものを問い直そうと考え、それにはやはり、建築設計者がきちんとやれば、変わるのではないかということで、その設計のやり方、姿勢を問い直そう。数値通りだとか、マニュアルどおりというものではなくて、みんなにやさしいという点でどうなのかということを考え直そうと思っていました。その手法や思想が変われば、設計側が変わり、世の中は変わるのだろうという期待をしていました。

条例ができて10年、ずいぶん街は良くなったという認識は持っています。高度経済成長期、ミスタースタンダードのための、健康な男のための街をつくってきたというのが、この間でずいぶんと様変わりしました。これは、これから超高齢化社会に移ると言われていることも関係しているとは思いますが、この条例のおかげもあって変わってきた。

…と、思っていたのです。街も、人もやさしくなってきていると思っていたのです。で、そこから更に前に進んでいろいろな選択肢をもっと増やそうとか、利用環境をもっと良くしようとか、単に条例通りにものをつくるというのではなくて、もっともっと良くしようではないか、というように次のステップに移ると思っていました。

ところが、少し前の話になりますが、東横インの社長が「障害者客室などつくったって、どうせ物置になっているんだったら、違うものにつくり直したっていいんじゃないか」「時速60km制限のところを65kmで走るようなものだ」、と軽く言われた。あのホテルは低価格が売りであり、それ自体はいいことだと思いますが、彼の思想からすると、併せて不要なコストは省く、ホテルに障害者客室は“不要だ”ということを彼は言ったわけです。あのホテルから障害者は排除された、ということで、また昔と同じことが起きた、と思っています。高度成長期にミスタースタンダード以外は不要だと言っていたのと同じことがおきてしまった。つまり「普通」じゃないと。「普通」から外れると「変なやつ」ということになり、まわりからはずされる。

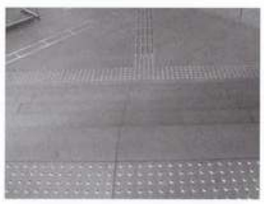
普通というのは、みんな同じというのが当たり前と思っていますが、みんな違って当たり前なのですよね。言ってみればみんな違うことが「当たり前」なのですが、ああいうことが起きました。

また別の話題として、この近くにあるビルですが、「やさしい駐車場」という看板が出ています。身障者、お年寄りはじめ、



さまざまなサインがつけられていますが、床はでこぼこ石の駐車場です。はたしてこれをやさしい駐車場というのでしょうか。

問題はこれではなくて、そもそもこういった身障者用の駐車場は、どうして幅が広いか、どうして平らなのか、どうして滑らかなのか、車椅子利用者のトイレはどうしてゆったりしているのか。一体誰のための駐車場なのか、それは、みんなが思っている幅2.5ｍの普通の駐車場ではなくて、3.5ｍ幅の駐車場がほしい人、それくらいないと使えない人がいるのです。幅90㎝のトイレでは困る人がいるのです。その人たちのために車椅子使用者用の駐車場・トイレづくりが始まったはずです。今はユニバーサルというかけ声もあって、みんなのための「やさしい駐車場」「ユニバーサルトイレ」ということになっているのですが、もともと必要だといっている車椅子利用者にとってはどのような状況になっているか、そのあたりをもう一度問いただすところにきているのではないかと思っています。それと、はやり言葉のようにユニバーサルデザインだとか言っていますが、本気で考えているのなら、駐車スペースの幅が広くないと停められない人がいるのだから、全て幅が広い駐車場にしてみてもいいんじゃないかということになるのですが、でもそんなことをする人はいませんね。



次も名古屋の例です。いろんな物がとても洗練されたデザインなのだろうと思うのですが、例えば階段が見えない。点字ブロックも見えない。薄暗いところなので余計そうなのですが、外の階段でも同じ様に見えない。設計した人はそういうつもりではなかったのだろうと思うのですが、トイレ案内でも、張り紙をして案内しなくてはいけないデザインとなっている。車椅子マークがあるがなかなか見つけられない。外からまわって重たい扉を開けて、従業員通路を通って、ようやく車椅子使用者が使える便所へたどり着く。そこにはコンパクトな便所があり、蛇口の横には「あったかい水ボタン」と「冷たい水ボタン」のついた水栓？があるが車椅子使用者には手が不自由な人も多いのでうまく多分使えません。



街の建物をつくってきたのは基本的に建築設計者。姉歯みたいに裏切る人もいるが、みんなはそういう人も含めてプロだと思っています。設計者はそれに答えるべきだと思います。ところが、どうもこれまで積み上げてきた物を無にしている人達がいる。表面的には優しさだとかユニバーサルデザインだとか言いながら、価値基準は変わっていなかったということでしょうか。

なんだかんだと問題だとは言いながらも、しかし、最近はずいぶん良くなってきました。サービスが良くなり、暮らし方そのものを変えたり、いろんな活動が出来るようになりました。車椅子の人達がこれだけ街に出てくることは、10年前には絶対なかったことでしょう。みんながそういう街のことを気にすれば良くなっていきます。設計する人に、もっと街のことを気にしてもらいたいですね。

篠原　ありがとうございました。以上のような問題提起がありました。いろいろ考えるところがあったかと思いますが、若林さんはどうですか。

若林　僕が星野さんから教えてもらってだいぶ時間が経ちましたが、最近までラシックを初めいろいろな建物を設計させてもらいました。その時もバリアフリーについては意識をして設計していました。ラシックについては、三越さんも、それを売りにした建物にしようという動きがあったし、僕自身も、（スペースの関係で）100％はかなわないけど、こうすれば使える、というような提案もでき、役に立ったと思っています。ただ、デザイン的には、黄色の誘導タイルは何とかしたいと思ってコントラストがあればいいのではないかという意見を市に話をしたのですが、受け入れてもらえなかった。星野さんから基本的にはコントラストでいいんだよ、と。命の危険があるような箇所では黄色にしなさいと教えてもらったことをよく覚えています。

それと、事務所全体の設計を見るという立場になっていて、会社でも学んだことを所員に伝えています。そこで感じるのは、法の表面は理解しているけれど、その法の意図しているところがきちんとされていないと応用が利かなくなることになると思います。僕らが学んだことを後輩たちに伝えていく必要があると思っています。

もうひとつ、事務所の人に話をしていることなのですが、歩道と車道の段差は２㎝にしなさいというのを、目の見えないひと、車椅子を使用している人が以前に行ったシンポジウムで話をされていたと思います。目の見えない人が杖で段差を認知できるのが２㎝以上、車椅子使用者が段差を超えるには２㎝まで。この話を知らない人は、歩道と車道はフルフラットがいいと考えてしまうのですがそれは違うんですよ、と。そういう話をすると皆、目からうろこ、となる訳ですが、なぜ２㎝なのかという、その基準の意味がみんなに伝わっていないなと感じます。



若林　亮氏

ところで、大学の教育でこのような話はあるのでしょうか。新人が何も知らない。やはりデザインばかり一生懸命勉強してくるけどこういう基礎的なことが身についていない人がいますね。

中井　やっていると思いますが、やっぱり教育の問題かなと思います。講義では話されていますが皆さん身についていないと思います。設計課題のときにきちんと訓練しないといけないと思います。デザイン中心の課題にどうしてもなりがちです。やはり教育でやるべきだと思います。

若林　中井先生の前ですが、こういった

ことににきちんと関心を持たれている先生は少ないのではないでしょうか。

中井　関心はあってもなかなか基本が分からないから、きちんとレクチャーをして、それを元に設計課題をやってみるとかして手を動かさないといけない。基本的なことがどんどん抜け落ちていっているように感じます。

篠原　それで、いろいろ調査されていると話に伺ったのですが。

中井　星野さんのアドバイスをいただいて、学生がスポーツセンターのバリアフリー化の状況を調べたいということで、名古屋市スポーツセンターをいくつか調べました。健常者の方、障害者の方、いろいろヒアリングをしましたが、正直言うと、車椅子利用者などは、非常にアクティビティが高い方が来ていることもあるでしょうけど、スポーツセンターの場合は、(障害を)あんまり気にされていないようです。段差もあるし、使い勝手は悪そうでもそういうことは気にされていないようです。逆に興味深かったのは、ヒアリングすると、皆さん遠くから車で利用しに来ている。車が停めやすい、駐車券が取りやすいなど、そういった要因が選択項目になっている。また利用料金が安いところを利用しているようで、身障者割引があるところへみんな行っている。そのようなことがヒアリングをしてみてわかったことです。


中井孝幸氏

星野　大学でどういう教育をするか、ですね。確かに昔はそういった教育をするような雰囲気ではなかった。今のような時代では、体の大きさや体の動き方を意識したデザインを、設計の中で丁寧にやる、それを教える、というのが行われなくなっていますね。誰のために設計しているか。お金を出してくれるのは社長かもしれないけれど、それを使うのは誰か、ということですよ。そのところがより取り上げられないといけないと思う。

若林　大きなトイレをつくらなくてもいいんだよ、一番突き当たりのブースの向きを変えてつくれば大きいブースになるからそれでいいんだよ、と星野さんが言っていたのを非常に良く覚えているんですが、そういうことは設計の中でいくらでも出来ると思うんです。そういうことに気がつかない。社長さんにもきちんと設計者が言えなければいけないのですが、それが言えない。

冨田　金融機関では、身障者便所、実際は多目的便所なのですが、小さい店舗でも採用することが多くなってきています。お客さんへのサービス形態が変わってきて、これまでの入出金はATMに任せて、資産運用とか住宅ローン相談会など銀行に長く滞在する業務が増えてきている。そうなると子供連れの家族が利用しやすい、ベビーカーに子供を乗せたまま用が足せる、幼児のオムツ替えが容易にできる、などお客さんへのサービスとして多目的便所を採用する金融機関が増えてきていますね。


冨田昌志氏

若林　そういう意味では、僕たちがかかわっているクライアントはかなり理解してくださっていると思いますね。僕たちがまだ十分に提案し切っていないかもしれない。

松元　公共施設を設計する上で身障者の方々からいろいろ話を聞くわけですが、そこで計画が変わっていくことに行政の側が難色を示す場合があります。収拾がつかなくなることを危惧されているからでしょう。逆に、行政側はそういったことには口出しはせずに、設計で決められている以上のことを提案し、結果としていいものをつくってもらったと喜んでもらったということもあります。やはり、当たり前のことなんですが、人の意見をよく聞かなければいけないと思います。


松元親司氏

大きなプロジェクトの場合、障害者、ボランティアの人の意見を聞いて、まとめて、相手に返さなければならないので、労力的に大変だと思うんですよ。けれどそういった作業をしていかないと、設計側のひとりよがりの建築になってしまうかと思います。

星野　聞いてまとめるというのは、その瞬間はたいへんだけれど、このところに時間をかければかけるほど、完成後はきちんと運営されていますね。設計者にとってはその期間だけのお付き合いかもしれませんが、地域にとってはとっても大事な期間なのです。

篠原　これまで話を聞いている中で、「ひとにやさしい」ということと「原理原則を知る」ということは、実はリンクしていると思っていて、やはり原理原則は、使い手がいて、その人のためにどういう使いやすい物を提供していくかが、設計の役割かなと思います。それが、たとえば、ワークショップなどで使う人の話をきちんと聞いたうえで判断していく。特に公共施設の場合は通らなければならないことかなと思います。今までは、そういう人たちはまったくと言っていいほど打ち合わせに入ることができない状況だったから制度の形で何とかしようというのがこの条例だと思います。

そういうことから言うと、この「ひとにやさしい」ということは、「原理原則を知る」ということで、図書館にしても、普通の公共施設にしても、そこにどういう部屋が必要とされているのか、どういう結果が求められているのかについて、設計者として正義感を持って対応すること、だと。この21世紀委員会の狙いというのは、もともとそこにあって、今まだ継続中のものもここにつながっていく、とそう感じました。高木さんはどう思いますか。

高木　今日この座談会に出て、これまで、設計しているスタンスでは、人街条例は最低限の基準であって、いつも丁寧に見てきたつもりでしたが、この条例についても再認識させられたところです。最近2物件ほど連続して保育園の設計にかかわりまし

た。ハードはもちろんなんですが、ソフト面から保護者の方、保育士の方とチームを作って、ソフト的に「ひとにやさしい」とはどうなんだろうと議論したなかで、目指すものは「子育てバリアフリー」だというテーマを皆でかかげました。具体的には地域に開くだとか、入園前の子どもの親も気軽に立ち寄ることができるように、子育て相談室を入り口に設けたことなどです。


高木耕一氏

また、昔の話ですが、三重県でかかわった建物の竣工検査では、県の方が障害者団体の方数名と一緒に検査され、車椅子の方に施設全部を廻っていただき、この時の経験が非常にためになっています。今はそういう経験や機会が少ないので、できれば設計のとき同じテーブルについて、意見をききながらというようにできないかと思うことがあるのですが。

篠原　実はそれを以前の21世紀委員会でも仕掛けてみて、実際見てもらうのは設計のうえでは良いと思っていて、あとは、いつ、何をきいて、いつ、見てもらうのがいいかというノウハウができてくるともっと容易に設計にはいっていけるのではないかという気がしています。


山本敦子氏

山本　私の住んでいるマンションに車椅子利用者がひとりで生活をされているのですが、マンションや事務所のバリアフリー化はどんな状況でしょうか。そういった方の勤められる人口も増えてきていると思うのですが。それとその労働環境もどうなんでしょうか。

若林　まず、マンションはエレベーターをはじめ、バリアフリー対応はされています。それと今つくられているオフィスビルはほとんどが、出入口は段差をなくし、エレベーターも身障者対応のものがありますね。ただ、トイレはだめですね。多目的トイレがひとつあれば良いという状況なので、1階に設けていることが多く、一般階にはない。ちなみにラシックの上のオフィス棟の各階には車椅子使用者が利用できるトイレがあります。ちょっとした工夫でできると思うんです。たぶん介護の必要のない車椅子使用者であればまず大丈夫だと思います。

星野　まだ24時間介護の方が働くという環境は日本では非常に少ないですからね。雇う側も、障害者の中でも差をつけている、そうしてしまっているんですね。

高木　設計者としてマニュアルの更に上に行くにはどうしたら良いかということも考えさせられました。社会全体に「人にやさしい」という意識は高めていく必要はあるし、そのためには、バリアフリーのワークショップなどあれば設計者も参加し、設計にフィードバックできるしくみがあると、さらに高まっていけると思います。

篠原　そういう機会をどのようにつくるか。建築協会や、設計者だけでやるというのはアプローチとしては難しいのでしょうか。

星野　設計者の仲間内だけでやるのは難しいと思いますよ。やはり大学の先生とかが行う形のほうがよいのではないでしょうか。

まずは、そういった機会をつくることですね。興味がある人は参加すると思うんですよ。それができる仕組みができると良いですね。

設計者の役割は重要で、社会的にもそう思われていると思います。正義感という言葉を肝に銘じるべきときなのでしょう。行政側にしろ、教育側にしろ、それぞれが自分の立場で役割を果たし続けることだと思います。街について、みんなが気にしていけば、良くなっていくんだと思います。

篠原　皆さんいろいろな意見を出していただきました。この21世紀委員会は、「原理原則を知る」という話のなかでのひとへのやさしさだとか、より街を良くしていこう、というような観点を持ってやってきたかと思います。平成19年より勉強会を再開しておりますが、今日の座談会を通じて意見交換したことを、次のステップにつなげていけたらいいなと思っています。ありがとうございました。

【21世紀委員会のあらまし】
日本建築協会東海支部の常置委員会として「若手の活動の場の創出」を目的に設立された。「建築の原理・原則を知ろう」をテーマも活動をしている。今回の座談会に出席していただいた愛知県に人にやしらい街づくり条例を作られた星野広美さんをアドバイザーに勉強会「福祉を考えよう」、公開シンポジウム「やさしいって何？」、公開プログラムを開催してきた。
昨年からは、設計と研究の接点を模索する新企画「図書館を考えよう」「待ち合わせ」「子どもに安全な遊び場」を開催している。

■司会：
篠原佳則（しのはら　よしのり／安井建築設計事務所）
■コメンテーター：
星野広美（ほしの　ひろみ／NPO法人ひとにやさしいまちづくり、ネットワーク・東海、愛知県建設部建設企画課主幹）
■出席者：
若林　亮（わかばやし　あきら／日建設計）
松元親司（まつもと　ちかし／東畑建築事務所）
冨田昌志（とみた　まさし／伊藤建築設計事務所）
山本敦子（やまもと　あつこ／イセット名古屋支店）
中井孝幸（なかい　たかゆき／愛知工業大学　講師）
高木耕一（たかぎ　こういち／東畑建築事務所）

「建築と社会」誌

特集一覧●1986〜2007

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1986 vol.67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明　＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり―I― ●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―II― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 vol.73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―＊	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―＊	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」　＊	●屋台一仮設の魅力に学ぶ―ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第38回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品　＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江―その地方振興と文化　＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念/建築と私と社会―80人の眼―＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●"らしさ"のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法―パートII―	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ―	●時間	●私の空間作法―会員作品― ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者
2001 vol.82	●エヌ・ティ・ティファシリティーズ	●21世紀の建築設計教育	●東海支部会員作品 ●岐阜・大垣	●ＩＴ社会におけるきずな	●自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	●成熟社会をささえるまちづくり	●現代の日本の空間・文化を探る	●環境―近未来に向けて今できること― ●大建設計―作品特集1996〜2001―	●建築の力都市の力	●緊張 ●都市基盤整備公団関西支社	●私の空間作法―会員作品―	●第48回青年技術者 ●NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館＊
2002 vol.83	●国土交通省近畿地方整備局営繕部＊	●再生・リサイクル	●東海支部会員作品 ●愛知・名古屋	●生活環境の安全・安心―パート2―	●塗装のいろいろ	●都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	●いま、インテリアデザインは ●濱町リバープレイス	●建築をささえるセンサー	●建築とボランティア	●時を超えて〜サステナブルエンジニアリングの現在〜	●私の空間作法―会員作品―	●第49回青年技術者 ●大阪市中央公会堂
2003 vol.84	●東畑建築事務所創立70周年	●九州の地域づくり・まちづくり	●東海支部会員作品2003 ●愛知・名古屋―この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える―	●サスティナビリティ〜次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン〜	●建築と五感	●都市計画法及び建築基準法等の改正	●コンバージョン―インテリアから発信するまちなみ―	●介護と建築・設備	●建築とノスタルジー〜建築の主観的価値について〜	●力と楽しくつき合う方法	●私の空間作法―会員作品―	●第50回青年技術者＋青年技術者顕彰50年
2004 vol.85	●大阪市住宅局	●都市緑化	●東海支部会員作品 ●愛・地球博＊	●省リスクな「まち再生」＊	●リニューアルの技	●地域住民主体のまちづくりと支援制度	●Product Design＋1	●銭湯〜心地よさを求めて〜	●建築家とは何か	●巨大地震にそなえて	●私の空間作法―会員作品―	●第51回青年技術者
2005 vol.86	●震災から10年	●「健やか」 ●長崎医療センター	●東海支部会員作品2005 ●東海における施設づくりへの新たな試み	●建築の経済化	●住まい方の変化	●人工栽培	●次世代に伝える「木」の建築 ●「建築と社会」1000号記念	●改正建築基準法と景観緑三法	●火災から守る	●構造の過去から未来へ＊	●私の空間作法―会員作品―	●第52回青年技術者
2006 vol.87	●都市環境デザインと参加のまちづくり	●「地方空港の時代」〜まちと共存する空港づくり〜	●東海支部会員作品2006＋東海支部特集3部作＊	●都市再生の本質〜光と影のはざまで〜	●変容する家族形態とあたらしいライフスタイル	●身近な省エネルギー―エネルギーをたくわえ、有効利用する―	●設計図が伝えるもの	●建築物の安全・安心＊	●第53回青年技術者	●「セキュリティ」	●もしも…〜構造が未来へつなぐ夢〜	●私の空間作法―会員作品―
2007 vol.88	●光り輝く京都の景観まちづくり	●学校新時代	●東海支部会員作品2007＋東海支部特集3部作	●創立90周年記念―この10年、これからの10年	●あそび考	●こだわりが創る住まいのカタチ	●住まいの設備と空間の移り変わり	●建築系雑誌が伝えるもの	●建築基準法等大改正	●第54回青年技術者	●ガラスを考える	●楽しい構造の世界

＊は欠号

447

法令コーナー

大阪府住宅リフォームマイスター制度

寺浦謙三
大阪府住宅まちづくり部居住企画課総括主査

背景と経過

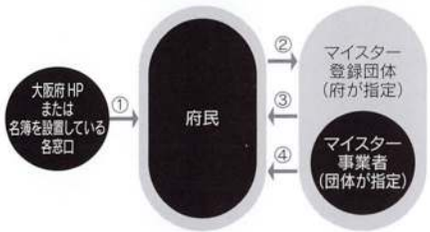
住宅リフォームや耐震化など、住まいに対する住民の関心が高まっているが、悪質な事業者による消費者被害が社会問題となったことや、リフォームに関する情報が不足しているなど、必ずしも住民が安心してリフォームを行う状況にあるとは言えない。また、高齢化の進展等により、住宅リフォームをはじめとした住まいやまちづくりに関する課題について、府民の相談ニーズは今後も増大が予測される。

平成18年度、大阪府が行ったリフォームに関する府民ニーズアンケートにおいても、リフォームをする際、最も重視することとして、「信用できる事業者かどうかの情報」をあげる人が最も多く、全体の6割強を占めている。

これらを踏まえ、大阪府では平成19年1月、府民が安心して住宅リフォームを行うことができる環境の整備を目指し、「大阪府住宅リフォームマイスター制度」（以下、「リフォームマイスター制度」という）を創設した。

制度の概要

「リフォームマイスター制度」は、府民が安心して住宅リフォームを行うことができるよう、信頼性の高い事業者の情報を提供する制度である。大阪府が指定した非営利団体（マイスター登録団体）が、府民の依頼に応じて一定の基準を満たす事業者（マイスター事業者）の案内・紹介を行う。



①マイスター登録団体の紹介、情報提供
②登録団体を選び、相談する
③マイスター事業者の紹介
④打ち合わせ、契約等

【手順】

①マイスター登録団体を選ぶ

大阪府のホームページや名簿に掲載している団体の特徴や事業実績などを参考に、登録団体を選ぶ。

②マイスター登録団体に相談する

登録団体に、希望する業務の内容（診断、設計、工事など）や目的（耐震化、バリアフリー化など）、予算額などをできる限り詳しく伝え、制度の利用方法の案内やアドバイスを受ける。

③マイスター事業者の紹介を受ける

登録団体から希望内容に合ったマイスター事業者の紹介を受ける。

④マイスター事業者と打ち合わせをする

事業者とリフォーム内容について打ち合わせをし、納得のいくものであれば契約を結ぶ。

消費者行政との連携

本制度の大きな特徴として、消費者行政との連携が挙げられる。大阪府では、企業不祥事の多発に対し、消費者の信頼を取り戻すため、平成17年7月、大阪府消費者保護条例を改正し、自主行動基準について規定した。

自主行動基準とは、消費者に対する勧誘の方針、広告表示の方法、消費者からの苦情や相談処理の体制などを、具体的な行動基準として事業者自らが定め、遵守することで、消費者と事業者の信頼関係の構築につなげていこうとする制度である。事業者が届け出た自主行動基準が消費者との信頼関係を構築するものであれば自主行動基準は公示され、自主行動基準を遵守しない場合は勧告、勧告に従わない場合は公表できるとしている。

「リフォームマイスター制度」では、関係法令を遵守していることのほか、この「自主行動基準の届出、公示」を団体や事業者の指定の要件と定めている。これは住宅部局が、消費者関連部局と緊密に連携を図ることで、より信頼性の高い事業者情報を府民に提供する取り組みのひとつである。

今後の事業展開

今後、住宅リフォームの市場は着実に成長していくと考えられるが、耐震化やバリアフリー化などの安心、安全な住まいづくりに向けた取り組みがとりわけ重要である。

平成7年の阪神・淡路大震災で地震による被害者の約9割が住宅・建築物の倒壊等によるものであった。また、東南海・南海地震などの切迫性が指摘されるなか、中央防災会議において、大規模地震に対して今後10年間で死者数及び経済被害額を半減させるための数値目標が定められた。

このような背景の下、平成18年1月「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が改正、都道府県にも耐震改修促進計画の作成が義務付けられた。大阪府においても、平成18年12月、「大阪府住宅・建築物耐震10ヵ年戦略プラン」を策定。住宅・建築物の耐震化率を平成27年度までに現状の73%から90%以上に引き上げる目標を定め、耐震化推進に向けた施策に取り組んでいるところである。

現状では、大阪府内で住宅リフォームに併せて耐震改修を行った住宅は、年間約2,400戸あるが、これはリフォームを行った住宅全体（年間約6万6千戸）のわずか3.6%にとどまっている（平成15年度住宅需要実態調査）。居住者に関する耐震化が進まない要因として、「危険の認識不足」や「費用や労力の負担の大きさ」とともに「耐震性の必要性は認識しても、どこに相談したらよいか分からない」「一部の悪質業者等への警戒心から、耐震技術への抵抗感を持っている」「相談先の信頼感に疑問を持っている」など、「耐震化の情報不足」が指摘されているところである。

これらの課題に対応するため、「リフォームマイスター制度」では、信頼できる耐震診断・改修に取り組むリフォーム団体・事業者に対し、積極的に登録を働きかけるとともに、消費者に対しては、あらゆる機会をとらえ、リフォームにあわせた耐震改修のメリットをPRすることで、耐震改修への誘導を一層加速していくことが重要であると考えている。

現在、「リフォームマイスター制度」における登録は、9登録団体、105事業者（H20.1.20現在）であり、事業者規模からみると一定の体制が整備されつつあるが、今後とも府民が安心して住宅リフォームを行うことができる環境の整備に向け、リフォーム事業者等の団体や市町村、関係機関とも一層連携、協働しながら、取り組みを進めていきたい。

（てらうら　けんぞう）

361
構造の頁

阪神甲子園球場 リニューアルの構造計画概要

榎本浩之
㈱大林組本店建築設計部

阪神甲子園球場は大正13年８月１日に開設されて以来、高校野球の開催地および阪神タイガースの本拠地という二つの顔を持つ球場として歴史を重ねている。

この「歴史と伝統」を今後も継承していくため、リニューアルにおける耐震性の改善としては建て替えではなく、耐震補強を選択している。また、今回のリニューアルに併せて、竣工当時（大正13年）と同じく、内野席全体を覆う新銀傘への架け替えを行う計画（**図１**）としている。



図１　リニューアル構造概要

阪神甲子園球場は構造的に６棟から構成されており、リニューアルにおける耐震補強の対象となるのは、新耐震基準制定（昭和56年）以降の竣工である、スコアボード棟以外のスタンド各棟（**図２**）である。

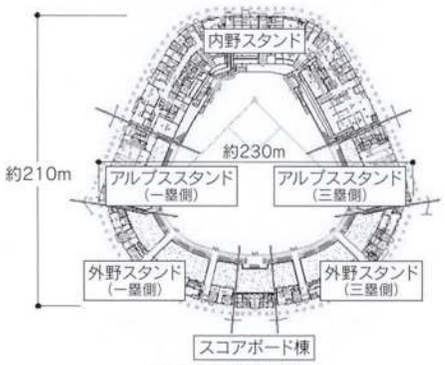


図２　建物概要

以下に、内野スタンドを主体に耐震補強および新銀傘の構造計画について述べたい。

全体計画認定の適用

本リニューアルにおいては、改修により増床となるため増築確認申請の扱いとなるので、その場合に完了検査に合格するまでは球場の使用が認められない。一方、工事可能なシーズンオフの期間が約５カ月半しかないため、通常の確認申請では少なくとも１シーズンは球場を閉鎖して工事を行う必要が生じる。

３月～９月の球場使用を可能とするため、平成17年の改正建築基準法で定められた「全体計画認定」の制度を活用し、２回のオフシーズンに分けて工事を行うことを計画した。

工事計画としては、平成19年のオフシーズン中は内野スタンドの改修のみとし、平成20年度にアルプス・外野スタンドの改修および銀傘、照明塔の撤去・新設を行う。

耐震補強

耐震補強の全体的な方針としては、既存構造体の構造性能を考慮し、耐震壁の新設・増厚を主体とする強度型の耐震補強とし、部材のせん断破壊を許容する。層間変形角１/250以内であれば、せん断破壊を生じて以降も部材耐力は概ね保持されることより、基本方針として保有水平耐力時に層間変形角１/250以下としている。

補強内容としては、外壁面の耐震壁化、外付けフレーム補強および建物内部における耐震壁の新設・増厚である。併せて外壁面では、補強により既設RC部の劣化防止も図っている。

内野スタンドにおける耐震補強は、大きく分けて以下の３種類となる。

①外壁面の耐震壁化
②スタンド面のスラブ補強
③短辺方向でのトラス型補強

②については、スタンド面が傾斜していることにより、スラブが負担する面内せん断力を、耐震壁効果と同様の扱いとしている。

トラス型補強の概要を**図３**に示す。三角形の形状の構造体を耐震要素として活用している。また、トラス型補強の基礎補強については、基礎梁のない既存の独立基礎間を連結する目的で基礎補強を行うとともに、補強した基礎には、接地面積が増えることによる連続基礎としての役割も期待する。

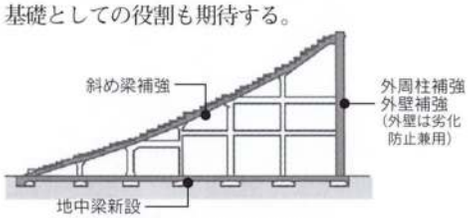


図３　トラス型補強

アルプス・外野スタンドにおける耐震補強においては、外壁面および内部の耐震壁補強が主体となるほか、新設照明塔の柱をスタンド面で支持するため、直下の柱・大梁部材の補強を行う。

銀傘の構造計画

現在ある銀傘は撤去し、内野スタンドをほぼ覆うU字形の平面形状の新銀傘を架設する。屋根の下部には、外周部に沿ってロイヤルボックス席が配置されている。

銀傘に作用する地震力は、内野スタンドによる増幅を考慮するとともに、馬蹄形の平面形状や片持ち形式であること、片持ち部に勾配があることなど、立体的な特性をも考慮する必要がある。したがって、銀傘設計用地震荷重は立体モデルの固有値解析により振動性状を適切に考慮し、地震入力方向と直交する水平方向や上下方向の慣性力の影響を考慮した設計を行っている。

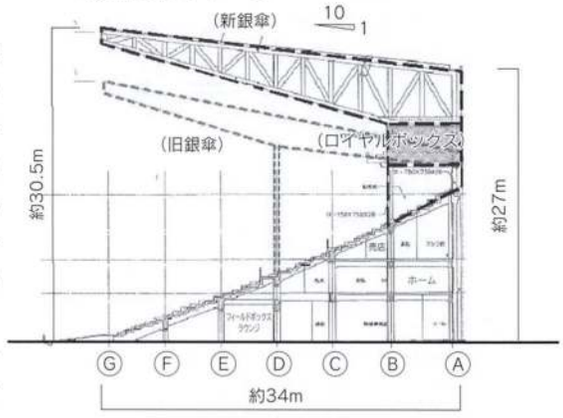


図４　銀傘形状

設計クライテリアとしては、極めて稀に発生する地震動と同等な地震力および再現期間500年の設計用風荷重によっても、主要部材は降伏させない設定としている。

銀傘の風洞実験

銀傘の設計用風荷重を把握するため、大林組技術研究所の多目的大型風洞において、１/200の縮小模型を使用して風洞実験を実施（**写真１**）し、実験結果を設計に反映させている。

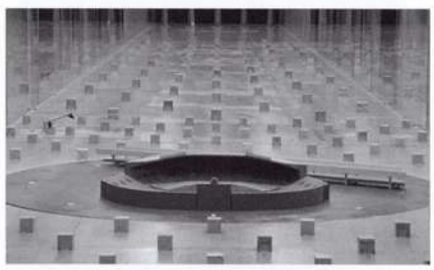


写真１　風洞実験模型

おわりに

現在、内野スタンドの耐震補強工事が完了し、仕上げ工事が鋭意進められている。設計としては、今年度のオフに引き続き行われる外野・アルプス耐震補強および銀傘・照明塔の確認申請に向けて、最終段階を迎えている状況である。　（えのもと　ひろゆき）

250

新建材の頁

日本建築協会建材委員会

ガイナ(GAINA)

（ノン結露）

（開発製造）株式会社日進産業

（施工代理店）エスケイ有限会社

〒572-0839　大阪府寝屋川市平池町30-23

TEL 072-838-0018

ガイナの開発経緯

日進産業は約10年前から断熱塗料「シスタコート」を販売しており、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の研究開発から生まれた「H-Ⅱロケットの先端部の衛星保護カバー（フェアリング）用に開発された断熱技術」（**図1**）の知的財産の実施許諾をJAXAから受け、シスタコートより幅広い温度帯に対応できる高性能の断熱塗料「ガイナ（GAINA）」を開発し、商品化したものである。同社は、東京商工会議所が主催する「勇気ある経営大賞」の「優秀賞」を受賞（H18）している。

ガイナ，ノン結露の特徴

ガイナは、特殊中空セラミックビーズとセラミックボールとアクリルシリコン樹脂とを複合（**図2**）した取り扱いの容易な水性塗料で、弾性、耐候性にも優れる。乾燥後、塗膜表面を隙間なくビーズが覆うことでわずか1㎜以下の塗膜で断熱材に匹敵する優れた断熱性能（**図3**、**図4**）を発揮する。有害物質も含んでいない。（F☆☆☆☆）

断熱性をさらに高めた姉妹商品「ノン結露」があり、防露性能に非常に優れている（**写真1**、**写真2**）。

ガイナ，ノン結露の用途

ガイナは、一般的な鋼板屋根と外壁の塗材、漆喰調の内装用塗材などとして使われる。コンテナ、保冷車、各種タンク・配管などへの事例も多く、瓦屋根下の野地板に塗って断熱性を発揮させている事例もある。金属、コンクリート、木、ガラス、タイル、樹脂など多様な素材に塗装可能である。

ノン結露は、冷蔵庫、恒温倉庫、荷捌き場庇、競技場屋外屋根、駅舎プラットホーム屋根等の鉄骨面やデッキプレート面に塗布することで結露の発生を大幅に抑制できる。

その他

淡色系（艶消し調）の200色以上のカラーを選ぶことができる。吹付け、鏝塗り、ローラー塗りなど施工方法も選べる。専門施工業者と相談いただければ、いろいろな場面でご検討いただけるものと考えている。

（菅　知史／建材委員）

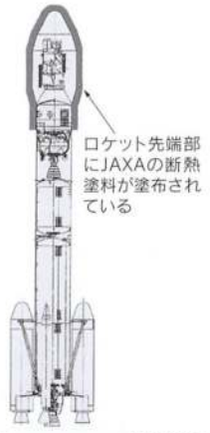


図1　JAXAの断熱技術

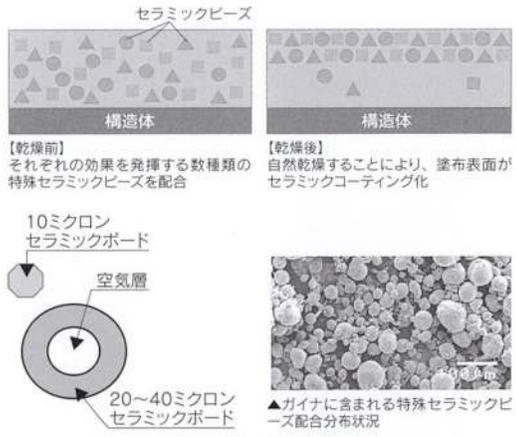


図2　ガイナの構造



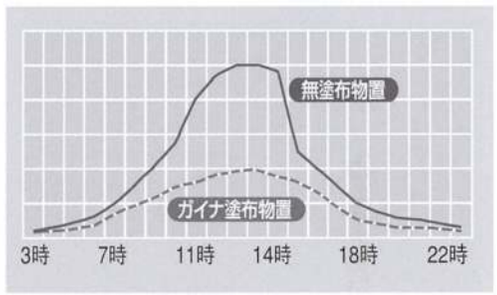


図3　1日の温度変化から見たガイナの効果

（既製鋼製物置にガイナを塗布した場合と無塗布の場合で同じエアコンを設置し、室温26℃に設定した場合のエアコンの稼働率を比較した。）





図4　1日の温度変化から見たガイナの効果

（既製鋼製物置にガイナを塗布した場合と断熱材（㋐25㎜のスタイロフォーム）を張付けた場合と無塗布の場合の比較で、ガイナの効果が歴然と現れている。）

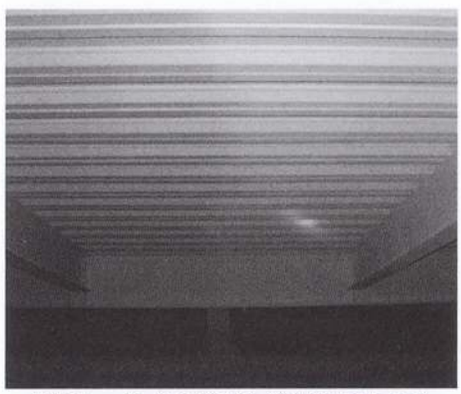


写真1　ノン結露塗布後（結露は見られない）

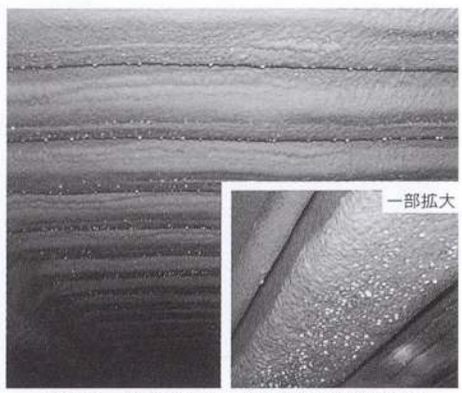


写真2　発泡ウレタン吹付後（結露が発生）

（デッキプレート上階が冷蔵倉庫（人工スキー場）であり著しい内部結露があった。その対策のため、施工実験として、ノン結露塗布と発泡ウレタン吹付を比較した。）

REPORT

大阪を中心とした郷土建築座談会

「郷土建築」とは『建築と社会』昭和３年３月号で、本間乙彦が「我等が父祖の建築文化記念物を保存せよ」の中で触れた「郷土的建築文化記念物」に端を発する。当時の文化財とは古社寺を指したが、その枠からもれた民家や町家、明治初期の洋風建築等を指して「郷土建築」と呼んだ。急激な開発により次々と取り壊される「郷土建築」へ人びとの関心が高まり、『建築と社会』では昭和４年から毎年１回程度「郷土建築」特集を組んだ。

開発が激しかった昭和初期の大阪と、同じく再開発が進む今の大阪の姿を重ね合わせ、現代から見た「郷土建築」を考える意味で、この座談会を開催した。（酒井一光）



よせ存保を物念記化文築建の祖父が等我

彦　乙　間　本

『建築と社会』昭和３年３月号（部分）

平成19年12月１日（土）、大阪歴史博物館４階講堂にて、シンポジウム「大阪を中心とした郷土建築座談会」（主催：大阪歴史博物館、後援：日本建築協会）を開催した。

■出席者

谷　直樹（大阪市立大学大学院教授・大阪市立住まいのミュージアム館長）

長山雅一（神戸学流通科学大学教授）

橋爪節也（大阪市立近代美術館建設準備室主任学芸員）

肥田晧三（もと関西大学教授）

酒井一光（大阪歴史博物館学芸員）

（文中敬称略）

報告1　谷　直樹
―建築史に進むきっかけ―



高校時代に地歴部に在籍し、滋賀の西明寺や常楽寺、兵庫の浄土寺や朝光寺等を毎週のように見学したことが建築史に進むきっかけだった。当時、大阪は新しい建物が出来る場所で、古いものがあるというイメージはなかった。京大で祇園や近江八幡等、全国の町家・町並みを調査・研究し、堺市博物館を経て大阪市大に就職。『大阪都市住宅史』を編集執筆する機会を得た。そうした中で、大阪の原風景は江戸時代にあると感じるようになった。現在、江戸時代の大坂の街並みを再現した「大阪くらしの今昔館」の館長をしているが、ここは建物を学術的に復元しただけでなく、当時の賑わい、年中行事、住まいの楽しみを再現したいと考えた。古い建物は、そのまま残っているだけでなく、皆で使いながら継承することが大切だ。

報告2　長山雅一
―考古学の立場で建築を見る―



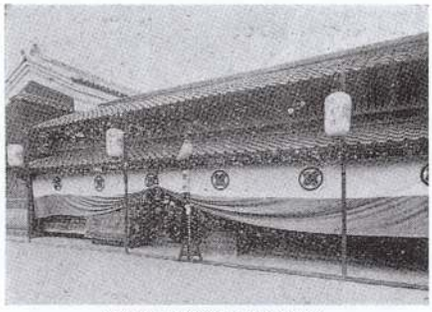
私は昭和16年生まれ、３歳のときに北海道に疎開した。昭和21年に福島区の実家に戻ったとき、原野の北海道に比べ、美しく清掃され打ち水された煉瓦舗道のある大阪を「なんと美しい町だろう」と感じた。成人して大阪市文化財保護課に就職。考古学が専門だったが、建築保存にもかかわるようになった。発掘調査の相談を受けて見に行くと、上に立派な建物が建っていたのがきっかけだった。中之島の再開発の話があった昭和40年代、図書館が重要文化財になった意義は大きいと思う。また、取り壊される戦前の銀行や会社の建築をいくつも見てきたが、毎日新聞社、大同生命ビル、第一勧銀高麗橋支店等では、新しい建物に古い建築部材を一部分でも残すようにアドバイスし、実現をみた。

■座談会

酒井（司会）　肥田先生のお話にあった島之内の穐村（あきむら）家の写真が『建築と社会』の「郷土建築」特集号に掲載されている。

肥田　穐村家は当時の道仁小学校区内で一番の家だった。昭和15年に李王殿下が穐村家を見た後、地域の人びとに開放されたので、私も隈なく見せていただいた。島之内は明治13年の大火で焼けた家が多く、穐村家も私の家もその後の再建と思うが、江戸時代の姿をそのまま伝えていた。私の家には、映画監督の小津安二郎がスタッフとともに見学に訪れたことがある。大阪の旧家は当時、多くの知識人から注目を集めていた。

谷　穐村家の写真は、「大阪くらしの今昔館」をつくる際も参考になった。ところで、私がかかわったプロジェクトで、大阪市大の豊崎プラザがある。古い長屋や主屋を、住み続けながら活用していこうというものだ。開所式の日には、この家に伝わる幔幕を家の前に飾った。ここで様々な研究会や落語会を開催した。地元からの関心も高い。



穐村氏邸祭礼の飾り付け
（『建築と社会』昭和６年５月号より）

長山　平野の町並みも、大阪を代表するもののひとつ。南海平野線が無くなるとき、平野の駅舎を残せなかった反省から、地域の人びとは自主的に「まちぐるみ博物館」をつくった。町並み調査にかかわった故・西山夘三さんは「平野は民家の博物館だ」と言った。地元の人びとと研究者、行政の長年にわたる試行錯誤の末、HOPEゾーンが上手く軌道に乗った。「祭り提灯が似合う町並み」を、地元の人びとは必要だと考えている。平野から学んだ町並み保存の秘訣は「おもしろく」「ええ加減に」やることだ。

橋爪　私の実家・橋爪塗装工業は昭和38年の建築。普通の建物だったが、壊す際に、現代美術家の伊達伸明さんに依頼して、壊す建物の部材でウクレレを作ってもらった。ウクレレが出来たとき、「これが俺の家や」と感じ、すごく嬉しかった。

伊達（会場から発言）　「建築物ウクレレ化保存計画」というプロジェクトをやっている。建築の価値は幅広いが、個人の目線に絞り込

報告3　橋爪節也
―絵の中の昔の建築や風景―



洋画家・小出楢重の《都会風景》は大正14年、大阪の都市風景をヨーロッパの町並みのように描いている。小出は大阪のまちを「驚くべく低く黒い屋根の海」と表現したが、一方で近代的なビルディングの建ち並ぶ中之島や堂島、田蓑橋一帯の風景を好んだ。この絵を描いたのは堂島ビルディングの上階からだろう。堂島川北岸にドーム屋根の建物が並ぶ姿は壮観だった。いっぽう日本画家の池田遙邨《雪の大阪》は昭和３年、大雪のあと、中之島の東洋陶磁美術館付近から見た生駒山・大阪城方面を描いている。東洋陶磁美術館の場所は以前、大阪ホテルがあった。大阪ホテルの屋根と東洋陶磁美術館の屋根は形が似ている気がする。南港のWTCビルも、天辺に「浪花百景」（幕末の錦絵）に描かれた「みおつくし」の姿がだぶって見える。もしかして、昔の建築や風景の記憶は、現在の都市にも形をかえて生きているのではないか。

報告4　肥田晧三
―戦前の美しい町島之内―



私は島之内の生まれ。幼稚園から中学３年生の時期（昭和10～20年）のことをお話ししたい。子ども心に思い出深い建築は、百貨店と劇場だった。今でも大丸を訪れると、大理石の階段の手触りのよさ、上り下りのしやすさに心打たれる。また、子どもの頃から芝居好きで、戦前の大阪の劇場はほとんど見ている。なかでも大阪劇場のバルコニーや装飾、階段は大変豪華だった。昭和10年頃から、建築のデザインが実に垢抜けてきたと感じた。特にそごうは好きだった。モダンな建築と並んで、住んでいた島之内の町の姿は印象深い。特にお正月や祭りの日に幔幕で飾られた町は見違えるほど美しかった。戦災によって、一夜にしてこの美しい町が失われてしまったことは大変惜しい。

西洋舘漫歩

小出楢重

川口町では、舊大阪府廳舎などは、最も代表的のものと思ふ。私はいつも、茂左衛門橋から、或は豊國橋の上からこの府廳の圓屋根を眺める事を重大な樂しみの一つとしてゐる。殊に豊國橋から見ると、その兩岸に、まだ錦繪時代の倉と家があり、一本の松が右岸の家の庭から丁度圓屋根の右手へ聳え立ち甚だよき構圖を作つてゐるのである。處が最近、その松が枯れて了ひ今は骨のみ立つてゐて眞とに寂しくなつて了つた。そしてその府廳舎は空家となり、この先き、この風景はどんな事になつて行くか、私は心細くも考へてゐる。

私は支那めしを食べる爲にのみ本田町邊りへ出かけるが天華クラブや天仙閣は、いつも支那めし以外、そのかど口から見る家の眺めを私は愛してゐる。殊に天華クラブの前庭に腰をおろすと、そこは日本では無く西洋でも無く、支那でも無い一種混雜した情景が漂ひ私の心を歐洲航路の船室へ運んで行つてくれる。

『建築と社会』昭和４年４月号
「郷土建築特集」より一部抜すい

座談会■



橋爪塗装工業で作業中の
伊達伸明氏

ハシペン・
橋爪塗装工業ウクレレ

んで部材を選定し、それをもとにウクレレを作っている。柱のキズ等の痕跡はごく個人的なものだが、不思議と第三者も同じような経験をしており、共感できる時がある。出来上がったウクレレは建物の所有者に返す。ウクレレは誰もが気軽に弾ける楽器であるのが魅力。

谷　建築の保存は勝ち負けだけで判断できない。「建築物ウクレレ化保存計画」は面白い例だ。遊び心を持ったいろいろな保存方法は、大阪からしか発信できないだろう。

司会　最後に、残したい建築、壊されて惜しいと思った建築をひとつだけ挙げて欲しい。

肥田　淀屋橋から肥後橋にかけて、昭和12年頃整備された川岸へ降りる階段、遊歩道、大きなフラワーポットがモダンな感じで好きだった。いつの間にか無くなって、惜しい。

橋爪　長堀橋北の日本簡易火災ビルも大好きだが、地下鉄心斎橋駅を挙げたい。大きなヴォールト天井の姿、戦前からあったエスカレータなど大変モダンで、学生時代、東京から友人が来たときも自慢した。心斎橋駅の堂々とした姿は、このまま変えないで欲しい。

長山　大阪砲兵工廠本館の解体にはひときわ思い入れがある。十分な議論がなされないまま、昭和56年５月の連休の最中に突然解体されてしまった。取り壊し後、現地調査に行った際、私は足の骨を折ってしまった。そんな個人的な思い出もあるが、この大阪砲兵工廠本館の出来事は、近代化遺産としても、産業遺産としても課題を残した。

谷　まず、自分の足元から考えていくことが大切だという意味で、大阪市大の建物を挙げたい。大阪市大の戦前の校舎は、装飾がほとんどないモダニズム建築。建て替えの際、学内でも保存の意義を説明するのに苦心した。取り壊しが決まっていた三号館では入口や窓の一部を残して新しい建築に組み込み、かろうじて建物の記憶を残すことができた。また、一号館（本館）は保存して、国の登録有形文化財になった。大学のアイデンティティの象徴であることや、当時の前衛建築家が設計したことなどで、学内の同意が得られた。「郷土建築」の保存については、本日の座談会のように、建築史の専門家以外もどんどん発言して欲しい。市民から多様な声が上がると、専門家もいろいろ意見を出しやすい。

司会　さまざまな建物、どれひとつ惜しくないものはない気がします。皆さんのお話を聞くには、まだ３、４日かかりそうですが、本日はお時間ですのでこの辺で。ありがとうございました。



お知らせ information

▶新世代オフィス研究センター、活動を開始

京都工芸繊維大学「新世代オフィス研究センター」は、2006年に設立され、設立後1年半を経過したいま、その動きを社会に問うこととした。

オフィスは、経営学、建築学、環境行動学、情報学、心理学など複数分野の知識と技術を駆使しなければ構築できない総合的な環境になっている。

新世代のオフィス環境を探究するとともに、オフィスに関する最新の研究成果を社会に還元することを、当センターは目的とする。

【研究メンバー】

仲　隆介（京都工芸繊維大学・センター長）

●研究員―小山恵美（〃・健康科学）川北眞史（〃・経営学）宮里　勉（〃・情報工学）松本裕司（〃・建築学）岸　和郎（〃・建築学）

●特任教員―茅原拓朗（宮城大学）本江正茂（東北大学）古川靖洋（関西学院大学）嶋村仁志（千葉工業大学）恒川和久（名古屋大学）松岡利昌（名古屋大学）地主廣明（東京造形大学）紺野　登（多摩大学）三木光範（同志社大学）

●顧問―山口重之（京都工繊大名誉教授）

●研究会会員企業―㈱イトーキ、㈱岡村製作所、㈱構造システム、コクヨファーニチャー㈱、㈱竹中工務店、㈱日建設計、日建設計マネジメントソリューションズ㈱、富士ゼロックス㈱、富士通㈱、森ビル㈱、㈱安井建築設計事務所

▶「第10回国土技術開発賞」実施

㈶国土技術研究センター、㈶沿岸技術研究センターは「国土技術開発賞」を実施している。

【応募技術】

住宅・社会資本にかかわる計画・設計手法、施工方法、維持管理手法、材料・製品、機械などの技術で、概ね過去5年以内に開発され、かつ過去3年間以内に実用に供された新技術であること。さらに応募技術を採用して事業を推進した起業者の推薦が得られること。

【応募資格】

応募技術の開発を、中心となって実施し、かつ開発された技術に対して責任をとれるもの。

【応募期間】

2008年2月6日～4月14日（月）必着

【応募に必要な資料】

応募要領は㈶国土技術研究センターhttp://www.jice.or.jp/からダウンロードが可能。

応募は、郵送または宅配便にて㈶国土技術研究センター研究第二部内「第10回国土技術開発賞」事務局（東京都港区虎ノ門3-12-1）へ。

【表彰】

最優秀賞1件（副賞50万円）、優秀賞数件（副賞各20万円）、入賞数件。なお最優秀賞と優秀賞は、総理大臣表彰制度「第3回ものづくり日本大賞」の「内閣総理大臣賞」の候補として推薦される。

▶大阪府公共建築設計コンクール・表彰式と手塚貴晴講演会

大阪府公共建築設計コンクールは、大阪府内の高校生・専修学校生などから公共建築に対するアイディアを公募し、最優秀作品賞に選定されたアイディアを生かして事業化を行うものである。

第17回コンクールは課題を『自然の居空間!～移り変わる季節の中で～』箕面森町集会所とし、2月8日の審査委員会（審査委員長：狩野忠正）で最優秀作品賞1点（久家三季/日本理工情報専門学校1年）、優秀作品賞3点、佳作3点、奨励賞2点が選ばれた。

この表彰式に、参加者を募っている。

日　時　2008年**3**月**26**日（水）
14：00～16：30

会　場　大阪府建築健保会館・6階ホール

講　師　建築家・手塚貴晴

テーマ　「アウトドアライフのすすめ」

定　員　180人（先着順・参加費無料）

申込み　3月18日までにFAX（06-6910-8005）、往復はがき（〒540-8570府民お問合せセンター【あすなろ夢建築】係）、大阪府のホーム頁（http://www.pref.osaka.jp/koken/keikaku/asunaro/）へ。

▶毛利　衛「未来を語ろう―建築・地球そして宇宙―」

構造家懇談会の関西支部として1982年に発足した㈳日本建築構造技術者協会（JSCA）関西支部は、昨年創立25周年を迎えた。

記念事業として毛利衛氏を迎え、建築界の未来・夢を語りあう場を持つ。参加費無料。

■講演会

講　師　毛利　衛（科学未来館館長）
＋科学未来館研究員

テーマ　「未来を語ろう―建築・地球そして宇宙―」

日　時　2008年**4**月**17**日（木）
15：00～18：00

場　所　大阪国際会議場・特別会議場
大阪市北区中之島5-3

定　員　500名（定員に達し次第、締め切り）

申込みは、JSCA関西事務局（FAX 06-6446-6224、メールjscaweb@kansai.email.ne.jp）へ。

▶「乾山の芸術と光琳」展

江戸中期の京都でやきもの界に一大革命を起こした尾形乾山（けんざん）。乾山が開いた鳴滝窯は昭和初期に窯跡が発見されたものの、その全容は謎のままであった。本展では窯跡発掘調査の成果とともに、乾山の名作と、鳴滝窯に絵師として参画した兄・光琳の作品を展示する。

会　期　2008年3月8日(土)～4月13日(日)
10：00～18：00　月曜日休館
会　場　京都文化博物館 TEL075-222-0888
京都市中京区三条高倉
入場料　1000円、大高生700円、中小生400円
招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

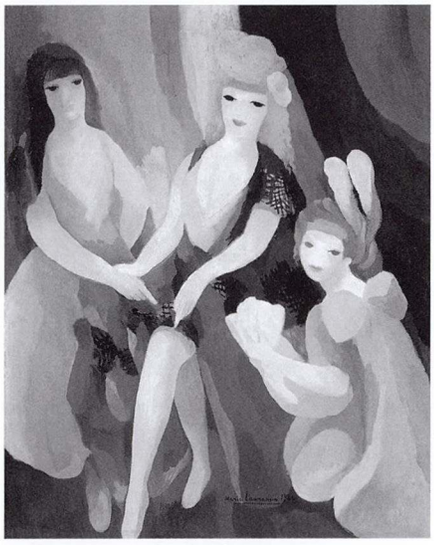


錆絵（さびえ）楼閣山水図四方火入
尾形乾山作、光琳画
大和文華館蔵

▶マリー・ローランサン展

生誕125周年を記念して、油彩・水彩・版画など約90点により、マリー・ローランサンの生涯をたどる。

会　期　2008年3月8日(土)～5月11日(日)
10：30～19：30　月曜日休館
(ただし3/31、4/7・28、5/5は開館)
会　場　サントリーミュージアム〔天保山〕
大阪市港区海岸通1-5-10
入場料　大人1100円、高大生・60歳以上800円、小中生500円
展　示　「青春時代とエコール・ド・パリ」「画家としての自立と亡命」「ローランサンの作風の確立」「円熟期から晩年へ」
招待券は日本建築協会(TEL 06-6946-6981)へ。



《マリー・ド・メディシス》1926年
マリー・ローランサン美術館蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, TOKYO, 2008

▶松伯美術館花鳥画―公募展―



[大賞]
[秋の日]
石田育代

㈶松伯美術館では昨年９月～今年１月14日に、50歳以下の作家を対象に作品を公募しており、この間、全国94人の応募者から98点の応募作品があった。１月20日の審査（岩倉寿／上村敦之／倉島重友／小西通博／竹内浩一／福井爽人）の結果、入選作品35点（うち大賞１点・優秀賞４点）が決定した。

【大賞】（賞金200万円）
石田育代「秋の日」―京都府城陽市―
【優秀賞】（各50万円）
青柳佳奈子「交わす」―奈良県橿原市―
長浜友理香「天城甘茶」―京都市左京区―
橋田純「ゆく春」―大阪府高槻市―
松岡里依子「観」―京都市山科区―

■公募展「第14回松伯美術館花鳥画展」
会　期　2008年２月13日～３月23日(日)
10：00～17：00　月曜日休館
会　場　第１会場／松伯美術館
奈良市登美ケ丘2-1-4
第２会場／大和文華館文華ホール
奈良市学園南1-11-6
入館料　高校生以上800円、小中生400円
―文華ホールは無料―
作　品　・入選作35点（第１・第２会場）
・上村松園「花見」「鼓の音」、松篁「白梅」、淳之「鳧」「杜鵑」
招待券あり。

▶ヴォーリズ展は３月30日まで

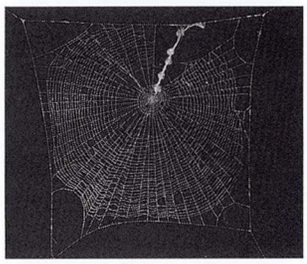
この展覧会ではヴォーリズが残した建築作品を、写真・映像・模型などで紹介している。

会　期　2008年２月９日～３月30日(日)
９：30～17：00　月曜日休館
会　場　滋賀県立近代美術館
滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1
JR東海道本線「瀬田駅」下車→バス「滋賀医大」行き「文化ゾーン前」下車
入場料　900円、高大生650円、小中生450円
招待券は日本建築協会(TEL 06-6946-6981)へ。

▶「クモの網」展

日本には1300種、世界には４万種以上のクモがいるという。一般に「クモの巣」というが、網は住まいではなく、獲物を獲るための仕掛けであり、形も円形、蹄形、扇形、ハンモック状、ドーム状など多様である。
本展ではクモの網、約75種170点の実物標本を展示する。入場無料。

会　期　2008年３月７日(金)～５月23日(金)
10：00～18：00　水曜日休館
改装のため3/12～3/26は臨時休館
会　場　INAXギャラリー大阪
大阪市中央区久太郎町4-1-3
伊藤忠ビル１階

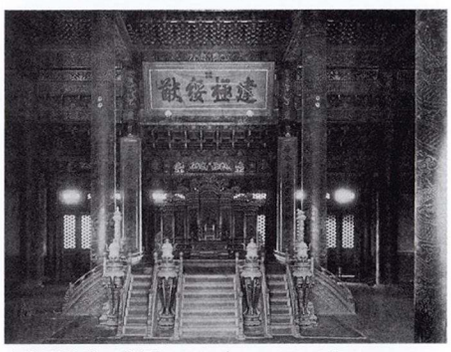


マルゴミグモの網
網にゴミをリボンのようにつけ、引っ越しの際も大事に持っていく。
撮影／佐治康生

▶紫禁城写真展

紫禁城の太和門、中和殿、乾清宮…。
1901年７月、建築家・伊東忠太をプロジェクト・リーダーに７名の海外フィールド・ワークが実施された。建築写真の担当は小川一真で、清朝最後の姿を300枚にも及ぶガラス乾板に収めている。撮影当時に制作された貴重なヴィンテージプリントの所在が明らかになり、本展により、初めて一般公開されることになった。

会期　2008年3月29日(土)～5月18日(日)
10：00～18：00（木・金は20：00まで）
月曜日休館・月曜が祝日の場合開館
会場　東京都写真美術館・地下１階
東京都目黒区三田1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス内
料金　一般700円、学生600円、
中高生・65歳以上500円
招待券は日本建築協会(TEL 06-6946-6981)へ。



太和殿宝坐　撮影：1901年　コロタイプ印刷
『清国北京皇城写真帖』東京帝室博物館編纂
撮影：小川一真、発行所：小川一真出版部、1906年刊より

▶15年のル・コルビュジエへの眼差し—ギャルリー・タイセイ—

昨年秋、ギャルリー・タイセイは開設15周年を迎えた。同時に、この年はル・コルビュジエ（1887～1965）の生誕120周年にあたる。この機会にギャルリー・タイセイでは昨年末より、所蔵する独創的なル・コルビュジエの造形作品と、ギャルリー・タイセイの独自な活動を3部構成で紹介している。入場無料。

会期　●Chapter2
2008年2月18日～4月11日（金）
●Chapter3
2008年5月21日（水）～6月20日（金）
10：00～17：00　土日祝日休館

会場　大成建設ギャルリー・タイセイ
東京都新宿区西新宿 新宿センタービル

●Chapter2　絵画と建築　諸芸術の統合
・スケッチから建築へ—コルの手帖と対応する建築作品
・色彩—絵画における色の変化、ザルブラ社の色見本、建築におけるポリクロミー
・比例、バランス—こだわった構図、ファサード、モデュロール、ユニテなど
・線、ボリューム—20年代の住宅と絵画、女性の絵画、彫刻、戦後の建築と絵画
・絵画10点程度展示、対応する建築は写真や模型、映像資料などで紹介

●Chapter3　建築とそのひろがり
ル・コルビュジエの建築作品の建築史上での位置付けを示し、重要な建築作品をピックアップする。また、ル・コルビュジエの弟子たちの業績を紹介し、ル・コルビュジエの建築が及ぼした影響、広がりについて考える。

▶国際コンペティション「名古屋デザインDO! 2008」

隔年に開催されるコンペ「名古屋デザインDO! 2008」。第6回は「食べるということ」をテーマに、斬新な発想とデザインの提案を求めている。公用語は日本語と英語。

応募資格　2008年4月30日時点で40歳未満とする。グループで応募する場合は全員が40歳未満であること

作品受付　2008年4月1日～4月30日第一次審査用作品受付
2008年9月9日第一次審査通過作品の完成度を高めて提出

審査員　水谷孝次（アートディレクター）、アストリッド・クライン（ディレクター）ら

賞　グランプリ1点200万円、金賞2点各50万円、銀賞5点各10万円等

詳しくは、名古屋国際デザインコンペ事務局 http://www.idcn.jp/compe/に掲載。

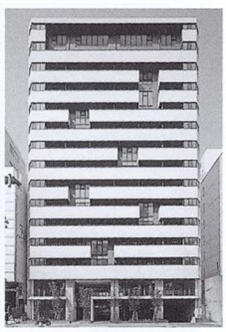
▶「大阪市ハウジングデザイン賞」受賞住宅決定

大阪市が昭和62年度に創設した「大阪市ハウジングデザイン賞」は、魅力ある良質な都市型集合住宅の建設促進と市民の住宅に対する関心を高めようと始まった制度で、平成18年度までに62件の集合住宅を表彰している。

21回目を迎えて昨年6月1日～6月30日に、大阪市内に建つ概ね過去5年以内に完成した民間集合住宅の推薦募集を行ったところ、162件の住宅の推薦があった。このうち審査対象となった住宅は121点。「ハウジングデザイン賞審査委員会」（徳矢典子委員長ほか6委員）で審査・現地調査を経て、2点の受賞が決定した。

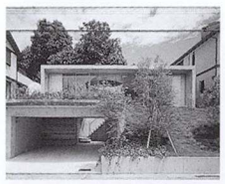


ビオール大阪大手前タワー（分譲）
設計／安井・熊谷設計共同企業体
施工／熊谷組関西支店



アジリア本町橋（賃貸）
設計／Y's design建築設計室
施工／鍛治田工務店大阪本社

▶第27回大阪都市景観建築賞受賞作





Co（シーオー）　堺・自然ふれあいの森森の館



大阪法務局北分庁舎

大阪府・大阪市・（社）大阪府建築士会が主催する第27回「大阪都市景観建築賞」では、大阪府域内の建物（2002年8月～2006年7月末に完成）及びまちなみ（2006年7月末に完成）で、一般市民から推薦を受けた建物99件、まちなみ10件を書類審査、現地審査した結果、昨年11月に下記建物を選考し、12月に表彰式を行った。

【大阪府知事賞】そごう心斎橋本店
【大阪市長賞】アーバンテラス茶屋町
【大阪府建築士会長賞】中之島セントラルタワー
【緑化賞】ドコモ大阪南港ビル
【特別賞】大阪女学院
【奨励賞】Co（シーオー）／堺・自然ふれあいの森森の館／大阪法務局北分庁舎

■図書紹介　「環境共生木造住宅設計ガイドブック」

この本は「温暖化対策、CO_2削減」を目的として、㈳木造住宅産業協会から「環境共生木造住宅の普及」「木造軸組工法の販売支援」の、実用的ツールとして出版された。

本書は、4つの切り口（省エネ・省資源、高耐久・長期使用、自然エネルギー活用、ライフサイクルCO_2削減）により、部位別に、具体的な納まり図、部材とともにわかりやすく書かれている。「木造軸組工法」が対象であるが、広く住宅関係者、コンクリート建築物の関係者、設計者にも、その考え方、納まり図は大変有益な内容となっている。

業界に先駆けてこれを編纂された方々の決断・ご苦労に思いを馳せながら、以下に本書の内容をご紹介する。

（夏井重行　記）

●目次

Ⅰ環境共生木造住宅設計ガイド総論
1．木造住宅はなぜ環境にやさしいか
2．特徴的な環境共生木造住宅の例（8タイプ）
Ⅱ環境共生木造住宅設計ガイド各論
1．省エネルギー・省資源
①断熱・気密設計
②遮熱設計
③4Rの設計
④高効率な設備システム
⑤空間構成
2．高耐久・長期使用のための設計
①基礎の設計
②土台周りの設計
③軸組材の選択
④外周周りの設計
⑤構造強度・耐震強度
⑥SI工法
⑦設備配管配線
3．自然エネルギー活用
①気象、微気候
②太陽熱のアクティブ利用
③太陽熱のパッシブ利用
④地熱の利用
⑤風力の利用
⑥雨水の利用
4．環境共生木造住宅の$LCCO_2$
①$LCCO_2$の考え方
②建設関連の$LCCO_2$
③生活関連の$LCCO_2$
④環境共生木造住宅タイプ別$LCCO_2$



発行所　㈳日本木造住宅産業協会
監　修　綜建築研究所
体　裁　A4判、165頁
発　行　2007年9月
定　価　4000円

理事会

第７回常任理事会

１月23日（水）16：00～17：30
出席者　佐野会長ほか８名
議　事（１）平成19年度収支見込
（２）平成20年度常設委員会事業計画
（３）後援名義の使用承諾
（４）20年度総会、理事会、常任理事会の日程
（５）その他報告事項

編集委員会

第10回編集委員会

１月９日（水）18：00～20：15
出席者　設楽委員長ほか５名
議　事（１）２月号「PFI事業、その後」特集経過報告
（２）３月号「東海支部」特集
（３）４月号「まちづくり2011年宣言」特集の企画
（４）５月号「新ホテル物語」特集の企画
（５）６月号「非構造部材の耐震・制振・免震対策」特集
（６）７月号「中国支部」特集
（７）各小委員会・分科会の報告
（８）検討事項
（９）収支状況報告

第６回計画系分科会

１月７日（月）19：00～22：30
出席者　三宅幹事ほか５名
議　事　４月号「まちづくり2011年宣言」

第７回計画系分科会

１月15日（火）19：00～20：30
出席者　三宅幹事ほか１名
議　事　「まちづくり2011年宣言」特集

第４回建築系分科会

１月28日（月）19：00～20：30
出席者　楠幹事ほか４名
議　事　2008年８月号特集テーマ

第３回インテリア・住宅系分科会

１月29日（火）18：30～20：00
出席者　高野委員ほか２名
議　事（１）５月号「新ホテル物語～ホスピタリティ空間としてのホテル～」特集
（２）次期幹事の件

第６回設備分科会

１月16日（水）18：00～20：15
出席者　赤澤幹事ほか３名
議　事（１）「設備の頁」の企画
（２）2008年６月号の設備特集

第10回法令分科会

１月８日（火）15：00～17：00
出席者　片岡幹事ほか５名
議　事（１）「法令コーナー」の企画
（２）10月号法令特集の企画
（３）情報交換

第10回作品作風小委員会

１月24日（木）19：00～20：00
出席者　井上副委員長ほか４名
議　事（１）作品の選定
（２）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（３）「gallery」掲載報告・予定

第11回広告企画小委員会

１月９日（水）17：00～18：00
出席者　設楽委員長ほか３名
議　事（１）２月号「PFI事業、その後」特集経過報告
（２）３月号「東海支部」特集
（３）４月号「まちづくり2011年宣言」特集の企画
（４）５月号「新ホテル物語」特集の企画
（５）６月号「非構造部材の耐震・制振・免震対策」特集
（６）７月号「中国支部」特集
（７）広告頁「第一線の建築設計担当者に聞く いち押し建材・設備」シリーズの企画
（８）広告掲載状況
（９）収支状況報告

第９回10年委員会

１月17日（木）19：30～22：00
出席者　設楽委員長ほか４名
議　事　現場見学会とコンペ、その他

事業委員会

第６回情報見学小委員会

１月10日（木）18：00～19：00
出席者　瀬戸川委員長ほか10名
議　事（１）西九条中高教育一貫校
（２）甲子園会館
（３）来年度事業案

見学会

西九条中高一貫教育校見学会

１月19日（土）13：30～16：00
場　所　大阪市此花区西九条
参加者　36名
出席者　瀬戸川委員長ほか３名
講　師　設計―田渕康裕/㈱梓設計
施工―野瀬　茂/㈱鴻池組

出版委員会

第９回出版委員会

１月17日（木）18：00～19：00
場　所　和彩厨房KATURA
出席者　上原委員長ほか９名
議　事（１）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（２）進行中のテーマ

教育委員会

第３回工高生教育小委員会

１月18日（金）18：30～20：00
出席者　和田副委員長ほか６名
議　事（１）第54回工高生デザインコンクール募集規定原案の検討
（２）今後の作業予定

入会者（敬称略）

〔個人正会員〕旭 貴弘　中部電力㈱

□出版委員会の記

'07.12.20(木)の18時より、「住まいの研究室」において13名参加の下、第８回出版委員会が開かれた。議題は、

１．<プロのノウハウ>と特装本の経過報告。
①「建築主が納得する住まいづくり」現在、編集進行中。
②「都市計画法を読みこなすコツ：第三版」「建築基準法を読みこなすコツ：第三版」いずれも改訂原稿作成済み。
③「衛生設備のトラブル50」中国の出版社より翻訳出版。'07.12完成報告あり。

２．進行中のテーマ
①「建築主が納得する住まいづくり」編集作業中。
②「満足とクレームの分岐点」執筆委員欠席のため、議論なし。
③「住宅現場のブロークンウィンドウズ理論（仮）」
④「躯体工事管理のチェックポイント」の対象は派遣社員にしぼり、執筆予定であった。

あとは、会場から徒歩５分の所にある和彩厨房KATURA（井上委員の娘さんの店）に居を移し、忘年会を開く。若手店長の張り切った食彩に一同満足して引き上げた次第。



忘年会場：井上まるみ氏設計のこじんまりしたお店は、少人数の会議には好適。周りも静かな古い住宅街である。１月は、ここで会議・食事会を開くことに決まる。

（山田　修 記）



いいインテリアのある場所には いい生活がある。

SANGETSU

http://www.sangetsu.co.jp
本社／名古屋店 TEL:052-564-3111
名古屋ショールーム TEL:052-564-3225
東京ショールーム TEL:03-3505-3300
広島ショールーム TEL:082-233-3551
大阪ショールーム TEL:06-6347-9110
岡山ショールーム TEL:086-292-3300
福岡ショールーム TEL:092-441-9500



やります「生活環境企業」。
TOTO

人にも環境にもやさしいハイドロテクトタイル

ハイドロテクトタイルの「大気浄化機能」が、大気中の
有害物質（Ｎｏｘ，Ｓｏｘ）を浄化します。

ハイドロテクトタイルの「セルフクリーニング効果」で、
美しい「白」を長く保ちます。

日頃から、環境対策に熱心に取り組まれている三菱電機株式会社様では、２００７年１０月に完成した同社稲沢製作所の、世界で最も高い新「エレベーター試験塔（SOLAÉ）」に、白色のハイドロテクトタイルをご採用頂きました。

名古屋支社／〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-1 名古屋広小路ビルヂング16F ☎(052)201-0201
ホームページ専門家コーナー www.com-et.com

水まわりからCO2を減らそう。
チーム・マイナス6%

まいにちに
ユニバーサル
デザインを
TOTO



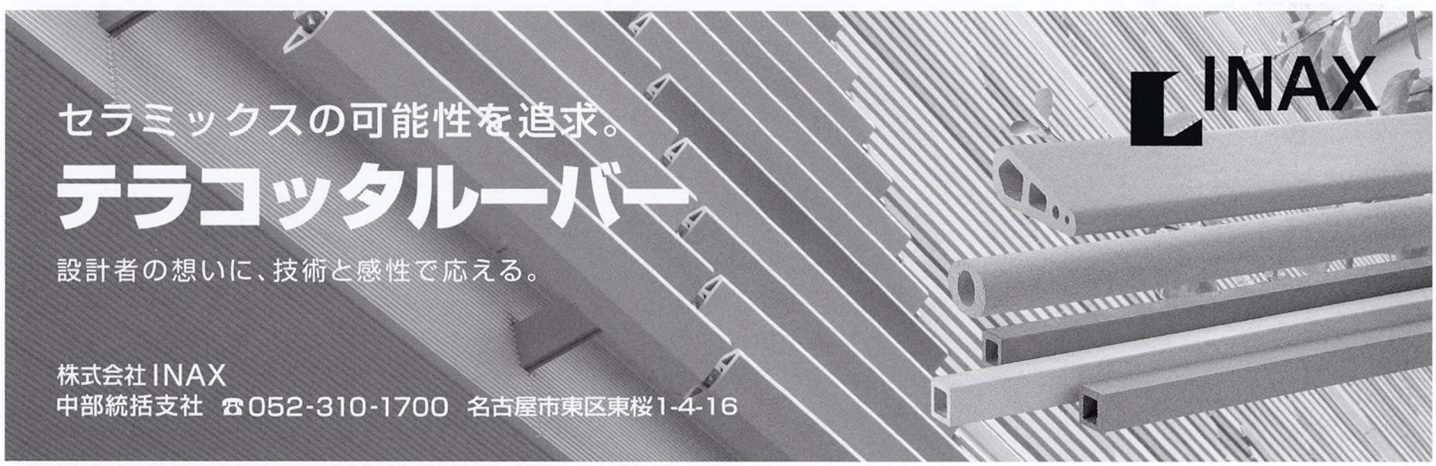
YKK ap

FACADE
DESIGN&
ENGINEERING

YKK APは、さまざまな様式の
建築ファサードの具現化を
ものづくりの視点に立った
デザイン＆エンジニアリングで
お応えいたします。



YKK AP株式会社　ビル建材第一事業部 名古屋統括営業部
〒460-0008 名古屋市中区栄2-11-32　http://www.ykkap.co.jp/facade



セラミックスの可能性を追求。
テラコッタルーバー
設計者の想いに、技術と感性で応える。

INAX

株式会社INAX
中部統括支社　☎052-310-1700　名古屋市東区東桜1-4-16



遮炎性能
＋
遮熱性能

世界が誇る
ガラスメーカー
《サンゴバン社》製
ガラス

1時間耐火間仕切壁　国土交通大臣認定 FP060NP-0048

ファイヤードⅢ
ガラスウォール

開放的で広い透明空間を創りだします。

三和シャッター

国土交通大臣認定品
国土交通大臣認定　耐火構造　間仕切壁(非耐力壁:1時間)
認定番号: FP060NP-0048を取得しています。

火災時の熱遮断による避難経路の確保
特殊構造枠および遮熱ガラスにより遮熱性能を有しているので、火災時には延焼拡大防止と同時に非火災側への熱放射を遮断し、避難経路を確保することができます。

飛散・貫通がしにくい
ガラスの間にけい酸ソーダ発泡層と樹脂膜を積層した合わせ構造となっているため、フロート板ガラスに比べ飛散・脱落しにくく、また衝撃物なども貫通しにくいガラス耐火壁です。

広く開放的な空間形成
ガラス1枚あたりにおける国内最大サイズでの認定を取得しました。2段仕様によりさらに高い空間へ。また、方立を設けることで、ワイド方向へはエンドレスな連窓構成にすることができます。

三和シヤッター工業株式会社
〒461-0011 愛知県名古屋市東区白壁2-4-8　Tel.052-955-3917 http://www.sanwa-ss.co.jp/

インテリアの全てのニーズにお応えし、
心地よい空間創りを目指しています。

アメリカ・ヨーロッパより直輸入の、洗練されたファブリックやカーペットを中心に、
魅力ある商品をバリエーション豊かに揃えました。
一般住宅から商業建築、ホテルのバンケットルーム、応接室、オフィスなどにお使い頂けます。



株式会社　鈴木室内装飾
本社　〒471-0809 愛知県豊田市十塚町3-40 TEL：0565-32-4462㈹ FAX：0565-35-0051
URL　http://www.suzuki-i-d.co.jp　AZC事業部：東京・名古屋・岡崎・豊田・大阪

AZC アズ・シー
International Interior Design

住宅エクステリアの100ポイント

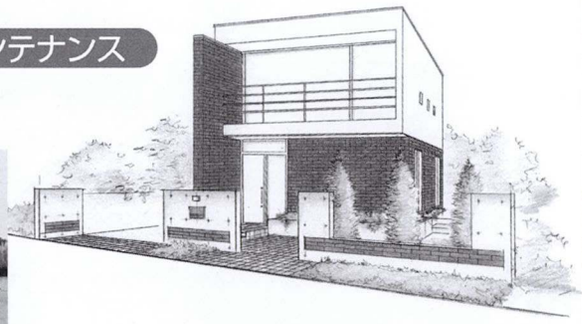
技術者必携！

A5判・232頁
定価2625円（本体2500円）

計画・設計・施工・メンテナンス

藤山　宏 著　企画・日本建築協会
Hiroshi FUJIYAMA





contents

第1章　エクステリア計画前の予備知識
第2章　エクステリア計画の全体概要
第3章　エクステリア計画に必要な法的知識
第4章　ゾーニングからプラン作成
第5章　門廻りの設計
第6章　階段・アプローチの設計
第7章　塀・外柵・擁壁（土留）の設計
第8章　カースペース・ヤードスペースの設計
第9章　エクステリア計画における効果的な緑（植栽）の設計施工
第10章　施工
第11章　メンテナンス

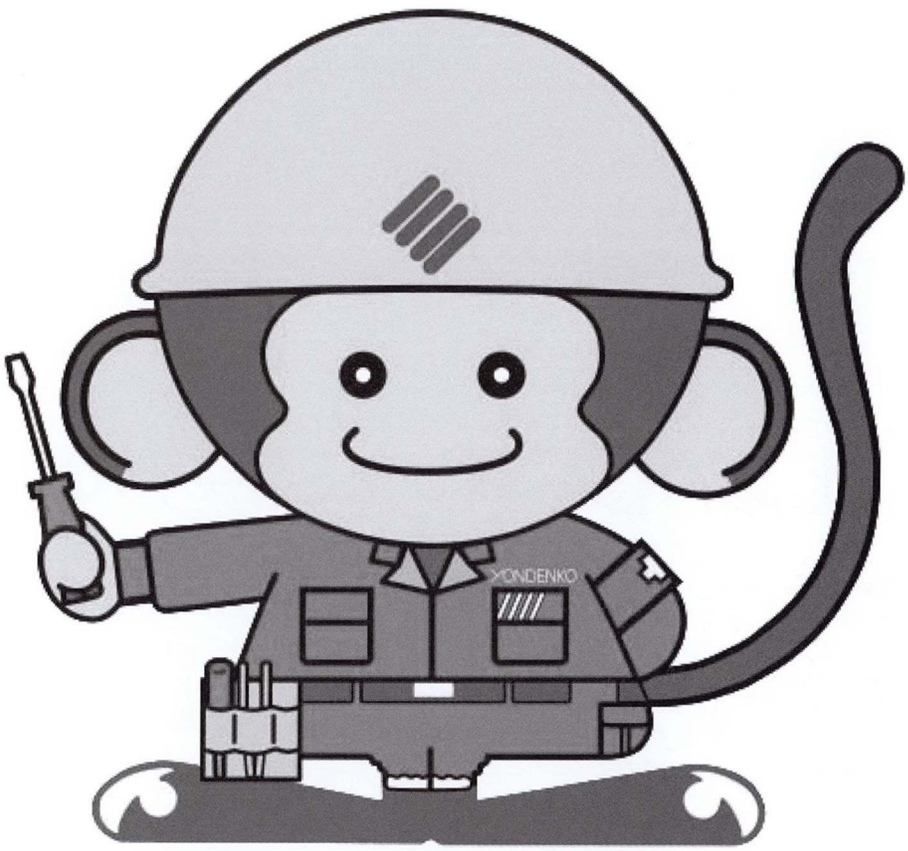
成長するエクステリア業界の
技術者に求められる広範な知識・考え方を
体系的に整理した初めての書

学芸出版社　〒600-8216 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
tel 075-343-0811　fax 075-343-0810
http://www.gakugei-pub.jp/　E-mail info@gakugei-pub.jp

YONDENKO

あの町で、この街で。四電工です。

豊かな生活空間づくりを企業テーマに、ゆとりとうるおいのある
快適空間をめざして。
私たちは、トータル・エンジニアリング・カンパニー四電工です。



四電工のマスコット「ライトもん太」
みんなの笑顔を守るために、今日もあの町この街で頑張っています。

明日をもっと快適に

株式会社 四電工

香川支店

〒760-8588 高松市西宝町1丁目8番24号
TEL(087)836-0110 FAX(087)836-0109

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

OKUJU
Space Creator
クオリティ＆コストパフォーマンス
ALTsシステム
スナップ工法
SP-600
メタルシステム天井
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社オクジュー
本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・南九州・名古屋・上海

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工
ダイダン株式会社
本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

www.naniwa.com
We have hope
■印刷事業　ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業　SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作
株式会社NPCコーポレーション
本　社　〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代)　fax:(06)6352-7479
第二ビル　〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代)　fax:(06)6351-0208
東京支社　〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1 一光浜松町ビル7F
tel:(03)3433-5211(代)　fax:(03)5776-7733
(旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱)

地球環境を守り、100年建築に貢献する
NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所
http://nacl.jp　E-mail:sc@nacl.co.jp
本部営業部　〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLﾋﾞﾙ2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所　〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLﾋﾞﾙ
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

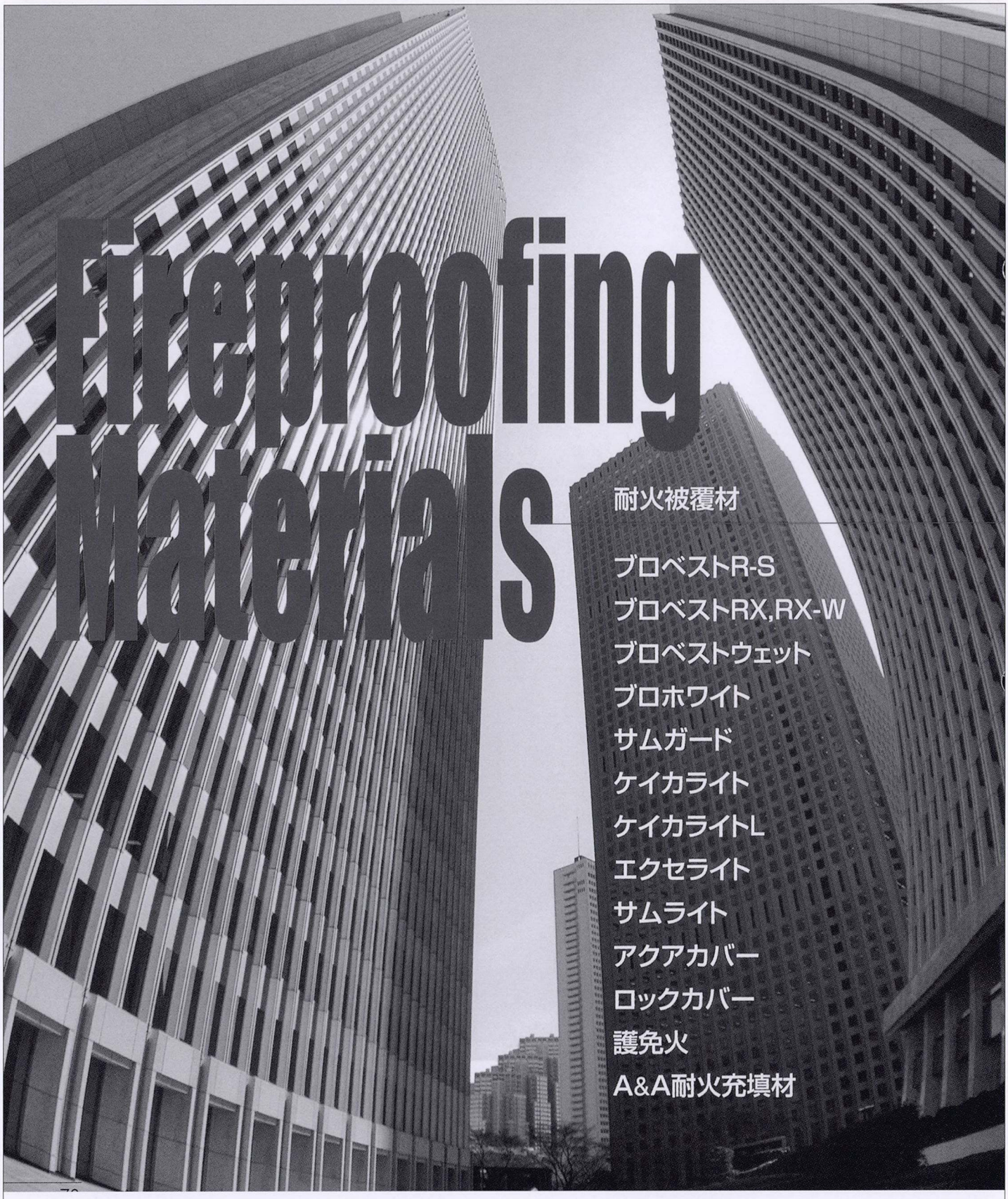
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・京丹後（0772）72－2220
舞　鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL　大阪（06）6877－1581



株式会社エーアンドエーマテリアル
西日本支店
〒530-0051大阪市北区太融寺町2-9
TEL(06)6312-1765　FAX(06)6312-3617

本社
〒230-8511横浜市鶴見区鶴見中央2-5-5
TEL(045)503-5771　FAX(045)503-5774

☆営業品目☆

不燃建材のトータルブランド
A&AM エーアンドエーマテリアル

耐火被覆工事全般
吹付耐火被覆工事・成形板耐火被覆工事
巻付耐火被覆工事
免震構造積層ゴム用耐火被覆工事

TOTO
エンジニアリング
株式会社

- 事業内容 -
■CONSTRUCTION（新築）
ユニットバスルーム・システムキッチン・トイレシステム・洗面化粧台、ディスポーザ等の施工技術指導および販売
■REMODEL（改修）
戸建住宅、マンション、オフィスビル、ホテル等のリモデル

- 事業所一覧 -
本社
〒131-8506
東京都墨田区向島3-44-1
TEL：03-5608-1010（代）
TEL：03-5608-1049（リモデル本部）
FAX：03-5608-6647

東京リモデル支店
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-19-13
TEL：03-5402-3065
FAX：03-5402-3060

大阪支店
〒530-0057
大阪府大阪市北区曽根崎1-2-9
TEL：06-6315-3811
FAX：06-6315-3831

名古屋支店
〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄2-3-1
TEL：052-201-1688
FAX：052-201-1698

九州支店
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前3-10-24
TEL：092-483-1816
FAX：092-483-1812

札幌支店
〒060-0031
北海道札幌市中央区北１条東7-1-8
TEL：011-251-1947
FAX：011-261-2230

東北支店
〒981-3112
宮城県仙台市泉区八乙女2-2-2
TEL：022-773-2584
FAX：022-773-1872

※連絡先はビルリモデル（非住宅改修）担当部門を記載

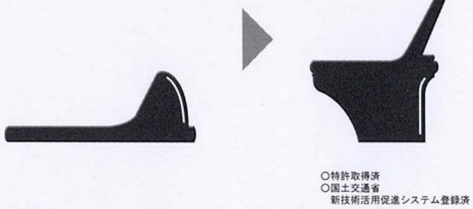
http://www.toto-eng.co.jp/

TOTO

ＴＯＴＯオリジナルの工法で、非住宅改修はもっと簡単に。
短工期かつ廃材の少ない、効率的なリモデル工事を実現します。

和洋リモデル工法 オリジナル

わずか２日間で和風便器を洋風便器に改修。しかも工事は１フロアで完結します。



○特許取得済
○国土交通省
新技術活用促進システム登録済　KT-010030

●2日間で工事完了。
約１週間の工期を必要とする従来の工法に比べ、土・日曜日で工事すれば、週明けの月曜日には洋風トイレが使えます。

●1フロアの工事で完結。
階下からの工事も併せて行う従来の工法とは異なり、下の階からの工事は不要です。配管や天井材の撤去がないので廃材を削減します。

［施工例］



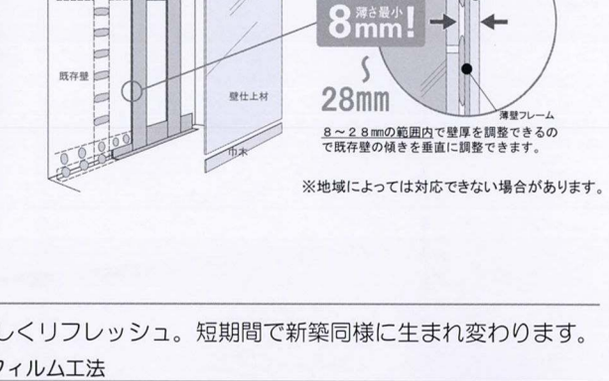
クイックエコリモデル工法 オリジナル

工期約１/３＆廃材約１/３。短工期で環境にも配慮したＴＯＴＯだけの新工法です。



クイックエコ薄壁工法

壁の下地（例：石膏ボードt12.5mm）の代わりに鉄板（t1mm）を使い、薄く盛ることのできる接着剤を開発したことで薄さ最小８mmを実現しました。既存の壁を壊さずに、直接フレーム材・仕上材を貼ることで、空間を確保したまま美しい壁にリモデルできます。



８～２８mmの範囲内で壁厚を調整できるので既存壁の傾きを垂直に調整できます。

※地域によっては対応できない場合があります。

浴室リフレッシュ工法

ホテルの営業を続けながら、手軽に美しくリフレッシュ。短期間で新築同様に生まれ変わります。



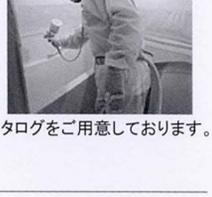
高品質フィルム工法

汚れにくく強度のあるフィルムを貼って施工するので、廃材やホコリが少なく、クリーンにリフレッシュできます。また、抗菌＆防カビ効果も高く、優れた防火性能も実現しました。



樹脂コーティング工法

浴槽や洗面カウンターなど、フィルム施工が困難な曲面を、独自の水まわり専用塗料（ＴＯＴＯリモデルコートＰ）でコーティング。一般塗料と比べて耐久性が高く、長期間美しさを保てます。
※「ＴＯＴＯリモデルコートＰ」はＦＲＰ、塩ビ鋼板、人工大理石の材質に対応できます。その他の材質については、別途ご相談ください。



●各種工法の専用カタログをご用意しております。